

「医療と介護の窓  
～みんなで育てよう地域医療～」

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」放送実績

①毎月第2・4水曜日、午後4時からの「塩竈一常 GET KING!!」の中で午後5時20分頃から約15分番組

②再放送は、放送日の次の日曜日午前9時からの「REFRESH!!」で放送

年度	放送日	出演者	主な内容
25	2	12 一関市医療と介護の連携連絡会 幹事長 長澤 茂 (一関中央クリニック 院長)	・医療と介護の連携連絡会の設立背景について ・多職種連携について
		26 一関市医師会 副会長 中野淳平 (中野内科循環器科クリニック 院長)	・一関市医師会について ・限られた医療資源の上手なかかり方について ・かかりつけ医について
	3	12 一関歯科医師会 会長 久保田文吾 (久保田歯科医院 歯科医師)	・一関歯科医師会について ・高齢化に伴う口腔の変化について ・寝たきり者への家庭訪問診療について
		26 一関薬剤師会 会長 小笠原慈夫 (かたくり薬局 管理薬剤師)	・一関薬剤師会について ・ゲートキーパー養成講座について ・お薬手帳について
26	7	9 岩手県看護協会一関地区支部 支部長 佐藤信一 (岩手県立南光病院総看護師長)	・看護師の人材育成について ・まちの保健室について
		23 岩手県立磐井病院 院長 加藤博孝	・適正受診について ・地域医療支援病院について
	8	6 岩手県立千厩病院 院長 吉田 徹	・救急医療の実態 ・回復リハビリ病棟開設 ・漢方外来開設
		20 一関市病院事業 管理者 佐藤元美	・地域ナイトスクールについて ・藤沢病院を支える会について ・地域包括ケアシステムについて
	9	10 岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センター センター長 加藤博孝	・診療体制について ・磐井病院との連携について
		24 一関在宅緩和支援ネットワーク IZAK(アイザック) 会長 佐藤隆次	・IZAKについて ・在宅緩和ケアについて
	10	8 一関西部居宅介護支援事業所協議会 会長 氏家健司	・協議会の活動内容について ・介護支援専門員の業務について ・他職種との連携について
		22 一関東部地域居宅介護支援事業所協議会 副会長 佐藤義雄	・協議会の活動内容について ・介護支援専門員の役割と今後について
	11	12 社会福祉法人一関市社会福祉協議会 在宅福祉課長 村上光一	・地域福祉活動計画について
		26 両磐ブロック高齢者福祉協議会 会長 熊谷 茂	・協議会の活動内容について ・介護人材の不足について ・防災協定について
	12	10 県南広域振興局保健福祉環境部保健福祉環境セン ター 一関保健所 管理福祉課長 大坊 真紀子	・保健所の業務について ・医療従事者不足と確保の取組について ・出前講座について
		24 県南広域振興局保健福祉環境部 長寿社会課長 後藤 啓之	・地域包括ケアシステムについて ・在宅医療・医療と介護の連携推進について ・県による介護保険者への支援について
1	14 一関地区広域行政組合 介護保険課 主事 荻荘瑠子	・介護保険の認定 ・介護サービスの利用方法について	
	28 一関東部地域包括支援センター 主任主事 鈴木隆稔	・地域包括支援センターの紹介 ・包括的支援事業について ・「気づきの通報を受ける仕組み」の活動について	
2	11 一関西部地域包括支援センター 主任保健師 高橋 恵	・地域ケア会議について ・認知症サポーター養成講座について ・一関地区認知症のひとと家族の会について	
	25 平泉町保健センター 所長 千葉幸一	・在宅医療介護連携推進事業の取組について ・誰でもできる地域医療を支える行動について	
3	11 岩手県看護協会立千厩訪問看護ステーション 所長 藤野みどり	・訪問看護の業務について ・訪問看護の利用方法について	
	25 一関市医療と介護の連携連絡会 幹事長 長澤 茂 (一関中央クリニック 院長)	・医療と介護の連携マニュアルについて ・今後の展望について	

(職出演当時・敬称略)

## 目 次

### 平成 25 年度

- 平成 26 年 2 月 12 日 (水) 17:20～17:30 (塩竈一常 GET KING!!) 1P  
(再放送: 2 月 16 日 (日) 9:00～10:00 REFRESH!!)  
第 1 回放送 一関市医療と介護の連携連絡会 幹事長  
一関中央クリニック 院長 長澤 茂先生
- 平成 26 年 2 月 26 日 (水) 17:20～17:30 (塩竈一常 GET KING!!) 4P  
(再放送: 3 月 2 日 (日) 9:10～9:20 REFRESH!!)  
第 2 回放送 一関市医師会 副会長  
中野内科循環器科クリニック院長 中野淳平先生
- 平成 26 年 3 月 12 日 (水) 17:20～17:30 (塩竈一常 GET KING!!) 8P  
(再放送: 3 月 16 日 (日) 9:10～9:20 REFRESH!!)  
第 3 回放送 一関歯科医師会 会長  
久保田歯科医院医師 久保田文吾先生
- 平成 26 年 3 月 26 日 (水) 17:20～17:30 (塩竈一常 GET KING!!) 12P  
(再放送: 3 月 30 日 (日) 9:10～9:20 REFRESH!!)  
第 4 回放送 一関薬剤師会 会長  
かたくり薬局 管理薬剤師 小笠原慈夫先生

### 平成 26 年度

- 放送日: 平成 26 年 7 月 9 日 (水) 17:20～17:30 (塩竈一常 GET KING!!) 16P  
(再放送: 7 月 13 日 (日) 9:10～9:20 REFRESH!!)  
第 1 回放送 岩手県看護協会一関地区支部 佐藤信一 支部長  
(岩手県立南光病院 総看護師長)
- 放送日: 平成 26 年 7 月 23 日 (水) 17:20～17:30 (塩竈一常 GET KING!!) 20P  
(再放送: 7 月 27 日 (日) 9:10～9:20 REFRESH!!)  
第 2 回放送 岩手県立磐井病院 加藤博孝 院長
- 放送日: 平成 26 年 8 月 6 日 (水) 17:20～17:30 (塩竈一常 GET KING!!) 24P  
(再放送: 8 月 10 日 (日) 9:10～9:20 REFRESH!!)  
第 3 回放送 岩手県立千厩病院 吉田 徹 院長
- 放送日: 平成 26 年 8 月 20 日 (水) 17:20～17:30 (塩竈一常 GET KING!!) 28P  
(再放送: 8 月 24 日 (日) 9:10～9:20 REFRESH!!)  
第 4 回放送 一関市病院事業 佐藤元美 管理者

- 放送日:平成26年9月10日(水)17:20~17:30(塩竈一常 GET KING!!) 33P  
(再放送:9月14日(日)9:10~9:20 REFRESH!!)  
第5回放送 岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センター  
加藤博孝 センター長
- 放送日:平成26年9月24日(水)17:20~17:30(塩竈一常 GET KING!!) 37P  
(再放送:9月28日(日)9:10~9:20 REFRESH!!)  
第6回放送 一関在宅緩和支援ネットワークアイザック(IZAK)佐藤隆次 会長
- 放送日:平成26年10月8日(水)17:20~17:30(塩竈一常 GET KING!!) 42P  
(再放送:10月12日(日)9:10~9:20 REFRESH!!)  
第7回放送 一関西部居宅介護支援事業所協議会 氏家健司 会長
- 放送日:平成26年10月22日(水)17:20~17:30(塩竈一常 GET KING!!) 46P  
(再放送:10月26日(日)9:10~9:20 REFRESH!!)  
第8回放送 一関東部地域居宅介護支援事業所協議会 佐藤義雄 副会長
- 放送日:平成26年11月12日(水)17:20~17:35(塩竈一常 GET KING!!) 50P  
(再放送:11月16日(日)9:10~9:25 REFRESH!!)  
第9回放送 社会福祉法人一関市社会福祉協議会 村上光一 在宅福祉課長
- 放送日:平成26年11月26日(水)17:20~17:35(塩竈一常 GET KING!!) 55P  
(再放送:11月30日(日)9:10~9:25 REFRESH!!)  
第10回放送 両磐ブロック高齢者福祉協議会 熊谷茂 会長
- 放送日:平成26年12月10日(水)17:20~17:35(塩竈一常 GET KING!!) 59P  
(再放送:12月14日(日)9:10~9:25 REFRESH!!)  
第11回放送 県南広域振興局保健福祉環境部一関保健福祉環境センター  
(一関保健所)大坊真紀子 管理福祉課長
- 放送日:平成26年12月24日(水)17:20~17:35(塩竈一常 GET KING!!) 63P  
(再放送:12月28日(日)9:10~9:25 REFRESH!!)  
第12回放送 県南広域振興局保健福祉環境部 後藤啓之 長寿社会課長
- 放送日:平成27年1月14日(水)17:20~17:35(塩竈一常 GET KING!!) 68P  
(再放送:1月18日(日)9:10~9:25 REFRESH!!)  
第13回放送 一関地区広域行政組合介護保険課 荻荘瑤子 主事
- 放送日:平成27年1月28日(水)17:20~17:35(塩竈一常 GET KING!!) 71P  
(再放送:2月1日(日)9:10~9:25 REFRESH!!)  
第14回放送 一関東部地域包括支援センター 鈴木隆稔 主任主事

- 放送日:平成 27 年2月 11 日(水)17:20～17:35(塩竈一常 GET KING!!) 75P  
(再放送:2月 15 日(日)9:10～9:25 REFRESH!!)  
第 15回放送 一関西部地域包括支援センター 高橋 恵 主任保健師
- 放送日:平成 27 年2月 25 日(水)17:20～17:35(塩竈一常 GET KING!!) 80P  
(再放送:3月 1 日(日)9:10～9:25 REFRESH!!)  
第 16回放送 平泉町保健センター 千葉幸一 所長
- 放送日:平成 27 年3月 11 日(水)17:20～17:35(塩竈一常 GET KING!!) 84P  
(再放送:3月 15 日(日)9:10～9:25 REFRESH!!)  
第 17 回放送 岩手県看護協会立千厩訪問看護ステーション 藤野みどり 所長
- 放送日:平成 27 年3月 25 日(水)17:20～17:35(塩竈一常 GET KING!!) 88P  
(再放送:3月 29 日(日)9:10～9:25 REFRESH!!)  
第 18 回放送 一関市医療と介護の連携連絡会 幹事長  
一関中央クリニック 院長 長澤 茂先生

平成 25 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組

平成 26 年 2 月 12 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)

(再放送: 2 月 16 日 (日) 9:00~10:00 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 1 回放送 一関市医療と介護の連携連絡会 幹事長

一関中央クリニック 院長 長澤 茂先生

(聞き手: 塩竈一常)

**塩竈** ラジオはこころ、くらしとくらしをつないでいく架け橋。誰かに寄り添う、その強さ、その優しさ、そのぬくもり。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」の時間です。

このコーナーは、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせる医療から介護への切れ目ないサービス提供を目指し、医療機関や介護施設の役割や利用方法を市民の方々と、医療・介護・福祉関係者が共に理解・協力することを目的に、一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** 今日はスタジオにお客様をお迎えしました。一関市医療と介護の連携連絡会幹事長、そして一関中央クリニックの院長でいらっしゃいます長澤茂先生にお越し頂きました。長澤茂先生よろしくお祈りします。

**長澤** どうぞ、よろしくお祈りします。

**塩竈** 長澤茂先生の声、お名前は、市内に住んでいる方はご存知の方が多いと思うのですが、このシーズンですと、インフルエンザとか患者さんが多いのではないですか。

**長澤** はい、とても多くなりましたね。うちのクリニックですと、インフルエンザの定点観測所といって、出た場合には保健所にご連絡というお役目を仰せつかっていますので、ずいぶんここ 1、2 週間で増えてきたなという。今日も 4、5 人出ました。

**塩竈** そうですか。収録を 2 月 6 日に行つて

いるんですけど、その身体、健康を保っていくところを皆さん心がけて頂きたいところです。このコーナーを通じて、皆さんにも医療というものに積極的に関わっていこうというところなのですが、先生、肩書のところに、名刺のところには沢山あるのですが、その中のひとつ一関市医療と介護の連携連絡会幹事会の幹事長でいらっしゃるということなのですが、医療と介護の連携連絡会というのはどのような会なのでしょうか。

**長澤** ご承知のとおり色々な各地域で日本人の平均寿命がどんどん長くなってきたり、癌を筆頭に、なかなか医療がまだ完全に治すという技術まで及んでいないと。あるいは認知症の問題もその通りですが、病院で全て OK だという時代ではなくなりましたですね。特に、お年寄りの場合には、肺炎になった・肺炎を治した・さあ家に戻りました。寝ている間の期間が長くて、手足が動かなくなったとかですね。そうすると、ご自分の家で、ご自分らしく生活をしたという方を、どうやってサポートしたら良いかというふうな問題が出てまいりました。よく言われる二十世紀型の医療と、全部病院に任せておけば良いんだという時代もあったのですが、最近はそのプラス、その人らしいその生活を支えようという。その人の生まれ育った地域で、一生を穏やかに終えるためにはどうすれば良いかということで、福祉、あるいは生活ということにウエイトが重きを置かれてきたということですね背景にあります。そのために、医療だけではなくてここにいます介護、それは西暦 2000 年ですから平成 12 年から介護保険が

始まりましたけれど、皆でその方の生活を支えようと、医療とが一緒に進む方向性を同一にして病院であってもご自宅であっても、その人らしい一生を寄り添っていければということが背景にありますね。

**塩竈** そうですか。聞いていますと、一関地方の高齢化率が3割を超えているということで、いろんな皆さんが心豊かに、充実して暮らすためには、一関だけでなく全国的な課題になっている訳ですよ。こういった地域医療を守っていくために、先程お話ししましたが福祉や保健もこういったところが連携を取っていく。医療と介護の連携連絡会は、こういった団体の皆さんが関わっているのでしょうか。

**長澤** ずいぶん数多くの職の方が入っていますけれども、医師会、歯科医師会、薬剤師会、県立病院の先生方、連携室の方々、ご自宅に訪問するという部分では、訪問看護、訪問介護さん、ヘルパーさんとか、ケアマネージャーさんですね。それから理学療法士さんとか、作業療法士さん、行政では地域包括の職員の方々、ここでは一関市となっていますが、平泉町も一緒に歩調を揃えまして、県としては保健所の方々のご指導を頂きながら。数多くの方々が、それぞれの立場で意見を述べ合っていて、良い物に作り上げていこうというところでもあります。

**塩竈** 健康な生活を送っていく為に、色々な分野での取り組み、アイデア、現場での悩み等が持ち寄られる訳ですね。

**長澤** そうですね。

**塩竈** 現在ですけど、医療と介護の連携は、一関では具体的にどんな連携があるのか先生に伺って行こうと思います。様々な職種が連携して行く、色々な工夫があると思うのですが、これはどんな取り組みなのでしょう。

**長澤** それぞれのお仕事の内容を、まずお互いを理解する事と。顔の見える関係の構築と

言っていますけれど、我々医師会の活動と、訪問看護の動きでは持ちつ持たれつなのですが、見えない所も多々ある訳です。垣根をお互いに手を携えて、色々な悩み、工夫等々を、色々な方々を同じ目線でもって集まって頂いて、教えを拝借すると。というところが、一番の重要なポイントであると思います。

**塩竈** 様々な知恵や経験を持ち寄るということですね。そういった方々が集まることによって、アイデアが磨かれていくのですね。

**長澤** そうあって欲しいですね。

**塩竈** それから、チーム医療という言葉もあります。これについては、どうでしょうか。

**長澤** チーム医療はですね、在宅を意識してのお話をさせていただきますと、患者さんの家と先生方と24時間365日、ご自分が在宅の患者さんを診るよという制度があります。私もずっとやっていたのですが、1人だと例えば出掛けるとか留守にするという場合に、なかなか十分な活動が出来ないという事がありますので、チームを組んで、複数の先生にサポートして頂いて、在宅の方の健康を支えるというのが、チーム医療であります。

**塩竈** 在宅医療という言葉が出てきましたけれど、ご自宅で生活、協力を高めて行く事が大事と言われています。介護の現場の皆さんとの繋がりというのは、とても大事ですよ。

**長澤** 大事ですね。介護職、ヘルパーの方々が、いつもと違うぞというのがきっかけで、今話題の認知症の早期発見に繋がったり、飲んだり食べたりが上手に行かないという事から、肺炎の防止に繋がったりと。様々なことがありますね。

**塩竈** そういった皆さんと、先程お話に出てきました病院であったり、医師の皆さんが情報を連絡し合う事によって、より素晴らしい医療に繋げて行けるという訳ですね。それから、往診とか訪問診療、一関では取り組まれ

ている訳ですけれども、住み慣れた地域や家で過ごしたいというのは誰しもありますので、そういった所の充実も求められますね。

**長澤** そうですね。往診というのは、患者さんの家で急変した、熱が出た、具合が悪くなったという場合に、電話を医療機関に頂戴して、先生が駆けつけるというのが昔ながらの往診ですね。それから、訪問診療というのは毎月第2、第4の火曜日の午前中にお邪魔しますという計画に基づいて行うのが訪問診療であります。

**塩竈** 今お話に出てきました通り、様々な職種の皆さんが連携をしながら、皆さんの健康を守る為に、例えば往診、訪問診療、在宅もそうですし、介護をされている方がチームを組んで、皆さんの健康を守る活動をしています。これを結びつけて行くという事で、連携連絡会の皆さんの取り組みですとか、そういったアイデアを生み出していくことも一つですが、お話を聞いていましたらそういった取り組みをされている中で、私達利用する側の意識というの、こういった所を賢く使っていくこともそうですし、現状に合わせて利用方法を考えていく事も大事ですね。

**長澤** 大事ですね。おっしゃる通りですね、医療と介護の連携、様々な職種との連携が非常に上手く行ったという暁にですね、住民の方がどういう風に自分のものとして捉えて、利用して行くのか。厚生労働省では、地域包括ケアシステムと言いますが、結局は1人1人が、ご自分の一生をどんな形で過ごしていたら良いかというのを、考える外側のシステムとして、医療と介護の連携というのが、求められるという風に思うのです。介護だけでも駄目だ、医療だけでも片手落ちだと。そこがしっかり決まってくると、地域コミュニティで過ごす方々が、それぞれが手を携えながら、連携をどういう風に自分達のものとして取り組んでいくか、ここの所が一番の大事なポイントだと思います。

**塩竈** 先生のお話にもありました、20世紀型

の医療という現場、患者さんとの付き合い方を考えていくと、お医者さんや病院に任せて色々な物を結び付けていくという事がありますけれども、それが地域全体で健康を考えて行こうというところになった。受ける側の市民の皆さんの意識を変えていくのも勿論ですし、何よりもこういった取り組みが有るという事を普段から学んでおくことも、大事だと思います。

**長澤** おっしゃる通りですね。病院に行けば良いというのは、疾患によっては勿論ですが、そうも行かない時代が来ております。背景の一つとしては、お話ししました通り高齢者が増えてきたと。生物として生まれて、いつの時かは死を迎えるという流れの中で、最期は自分はどんな生活を、医療をと考えた時は、常に考えておく必要があると思います。その時に20世紀型医療のみならず、これからは福祉、生活というモードに入りつつあるだろうというように思いますね。

**塩竈** 医療と介護の連携連絡会に関わっている方々、医療機関や介護施設に関わっている人数が限られている訳ですので、町ぐるみで利用、うまく育てていく事が大事なのだというのを感じます。今日は、一関市医療と介護の連携連絡会幹事会の幹事長、そして一関中央クリニックの院長の長澤茂先生にお越し頂きました。一関市の医療と介護の連携についてお話を伺いました。長澤先生、今日はどうもありがとうございました。

**長澤** お世話様でした。ありがとうございました。

**塩竈** みんなで育てよう地域医療、私たちも積極的に関わっていきましょう。このコーナーは、一関市健康づくり課の提供でお送りしました。



平成 25 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組

平成 26 年 2 月 26 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)

(再放送: 3 月 2 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」

第 2 回放送 一関市医師会 副会長

中野内科循環器科クリニック院長 中野淳平先生

(聞き手: 塩竈一常)

**塩竈** さて、本日もスタジオにはゲストの方をお迎えしました。一関市医師会副会長、そして中野内科循環器科クリニック院長の中野淳平先生にお越しいただきました。中野先生よろしくお願いたします。

**中野** どうぞ、よろしくお願いたします。

**塩竈** 先々週から始まりましたこのコーナーなんですけれども、地域医療の体制を充実させるために私達市民も積極的にその動き、その連携に関わって行かなければならないというお話を、先々週は長澤先生に色々とお話を伺ったんですけれども、中野先生にまず一関市医師会というのは、どういった団体なのかというところを説明していただきたいと思います。まずは医師会の構成ですが、会員の方は何人いらっしゃるのでしょうか。

**中野** 平成 26 年 2 月現在、171 名全部です。これは、多いか少ないかと申しますと人口 10 万人あたりの医師数で見ると、全国平均よりも約 50 人も少ない状態なんです。

**塩竈** そうなんですか。全国的に見ていくと、お医者さんの数というのは、年々減っているとニュースで聞いたことがあるのですが、実際はどうなのでしょう。

**中野** ご多分にもれず、都市部と地方の格差が増えてきて、全国的に医師数は少しずつ増えているのですが、一関市では若干減少の傾向にあるのです。

**塩竈** そうなのですね。医師会の所属されてい

る内訳というのはどういう感じなのでしょうか。

**中野** 病院に勤務されている先生と、診療所を開業されている先生が約半数ずつ、勤務されている先生が若干多いという構成になっております。

**塩竈** 病院にかかる皆さんからすると、本当に先生方がお忙しく働いている姿を拝見している訳ですが、特に先生方の業務内容はどうなっているのでしょうか。

**中野** 私達のように、診療所を開業している医師は通常、日常の診療が日中ございますね。その他に、当番を決めてやる事業なのですが、小児・成人夜間救急というのを 6 時から 8 時まで夕方行われます。後は、休日、日曜や祝日に当番医を朝の 9 時から 5 時まで。それぞれの先生によって違いますけれども、空いている時間に往診をされたり、看護学校の講義をしまして、地域で将来働いていただく看護師の育成だったり、後は幼児の予防接種、学校医や各企業の産業医だとか、様々多岐にわたって色々仕事をしております。

**塩竈** 普段、風邪をひいたりしてお医者さんにかかる場合があるんですけども、向かい合っている仕事だけでなく、こんなに多くの仕事があるんですね。

**中野** 日常の診療だけでなく、色々な所で医学的に関われることは、色々仕事をしているということをご分かっていただきたいと思っております。

**塩竈** 今、世の中を見ていると高齢化社会ということで、お医者さんにかかる人数は増え続けていると思うんですね。先程のお話では、全国的に医師の数は増えているけれども、一関の街では若干減少気味であるとのことでした。そうなってくると、お医者さんの数が限られている、医療資源が限られてくるということに繋がる訳ですよ。

**中野** これは、全国的に言われていることで、限られた医療資源というものを上手に利用していただきたいと。

**塩竈** 今日はこの番組を通じて、私達の街にある限られたお医者さんの数や、医療資源をどう効率的に活用していくか、先生と一緒に学ばせていただきたいと思います。まずは、病院の受診の仕方、救急外来への受診の仕方ですね。私達が病気になった時に、病院にどのように関わっていけば良いか教えていただきたいと思いません。

**中野** 一般に病院というところは、入院、あるいはより専門的な医療や検査を行う所ですね。診療所というのは、外来治療を中心として各個人の特性に合わせた医療をしております。病院・診療所というのは、役割分担が少し違ってきます。

**塩竈** よく「かかりつけのお医者さん」という言い方をしますが、その場合は診療所のお医者さんの場合がそれに当たるのでしょうか。

**中野** そうですね。かかりつけ医という意味はですね、普段から風邪をひいたとか、血圧が高いとか、自分の健康状態をよく把握して貰う先生をぜひ作っていただきたいと思います。それで、そういう先生にかかっていたら、より高度な医療が必要な場合は病院に紹介すると。自分の健康管理をする基地というか、基本となるかかりつけ医を作っていただくと効率良く病院にかかっていたらと思います。

**塩竈** 幼い時からずっと同じ病院に通っている方も多いと思いますが、その方のデータや健

康遍歴が色々とまとまっている訳ですよ。

**中野** かかりつけ医の先生ですと、この患者さんは風邪をひくと咳が長引きやすいとか、こういう薬が合わない場合があるとか細かいところまでよく把握していただけるので、病気の度に色々な病院を受診しますとやはり効率が良くない。

**塩竈** なるほど。効率良く病気の回復に向かっていくには、まずは普段からかかりつけのお医者さんを持つておく。それから、より専門的な医療を受けるために紹介をしていただく流れの方が効率的ですね。

**中野** やはり病院も大変忙しい状況ですので、できるだけ事前にかかりつけ医の先生の情報があると何が問題なのかを把握しやすいんですね。そうでなくて、突然病院を受診されますと、また一から色々なことをやって行かなければいけないので、非常に時間もかかりますし、効率も良くないということになりますね。

**塩竈** こういった病院・診療所の受診の仕方なんですけれども、何処にどういう病院・診療所があるのか、かかりつけのお医者さんにかかっている方はご存知かと思いますが、あらためて、かかりつけガイドブックという物を一関市では作っておりまして、基本的なことは書かれているので、ぜひ皆さん対応に困った時は、ご覧になっていただきたいと思います。先程、医師会の業務内容、病院と診療所の業務内容についてお話を伺ったんですが、夜間救急ですとか、休日当番医という形で緊急の対応を行っているというお話があったんですが、こういった現状について続いてお話を伺って行きたいと思います。対応されている先生方は何歳くらいなのでしょう。

**中野** これも、非常に残念なんですけれども、今現在、夜間救急当番医や休日当番医を行っている先生方の平均年齢は61.8歳なんですよ。本当に還暦を過ぎた状況になるのです。どうしても昼間、朝から夕方まで診療されたそれ以外に、こうやって夜間・休日仕事をされますので、な

かなか厳しい状況にはなっております。

**塩齋** それに加えて、先程お話のあった往診だとか、病院の看護師さんを育てるお仕事だったりとか、学校や企業のお医者さんの役割を果たしていたりだとか、医師会の中での会議もある訳ですよ。

**中野** そうですね。

**塩齋** 年齢が 61.8 歳という医師の方々に色々な負担や重責が今あるという状況なのですね。この様な一関市内の医療の現状をお伺いしますと、利用する側も上手に医療機関にかかることが大事になってきますね。

**中野** そうですね。昼間、朝から晩まで仕事をして、さらに夜も救急で対応するというのは、年齢が高齢になるほど先生方も大変ですので、そこで効率良くかかっていたることが、非常に大事に思います。

**塩齋** 患者さん自身の蓄積されているデータが、直接先生の元に渡ると診断もスピーディーに進みますよね。

**中野** この患者さんは、アレルギー性の疾患を持っていらっしゃるかどうか、風邪で来られても普段風邪以外の病気があるかどうか、分かっている患者さんですと非常に対応が早く進みますし、全く分からない患者さんが来られると、色々な可能性を考えた診療になりますから、ぜひ情報を持っていただいて夜間等救急で行かれる場合はお薬手帳等、自分にまつわる情報を持って受診されることが大事だと思います。

**塩齋** いざ病気になった時にも、頼りになる効率的な医療を受けられるメリットもありますし、例えばこれから先、高齢化が進んでいきますと在宅医療等がこれから出てくるかもしれませんが、先々の相談等もかかりつけの先生や主治医の先生が居るととても心強かったりしますね。

**中野** やはり、その方の病気も大事です。家族構成ですとか、お父さんもお母さんもこういう

病気になっているとか、色々な情報を持っているかかりつけ医がいると、さらに高度な医療が必要なのか、将来在宅の医療を望まれた場合に家族構成等がしっかり分かっているならば、こういう形が望ましいのではないかという、幅広い選択肢の中の相談が出来るだろうと思います。

**塩齋** はい。今日のお話でしたけれども、限られた医療資源の中で、私達が上手に医療機関に関わって行くために、自分の質の高い健康を守るために、まずその自分の健康状態をよく分かって下さる主治医の先生、かかりつけ医を持つことが大事というお話を今日伺いました。さて、先生は中野内科循環器科クリニックの院長先生でいらっしゃいますが、この時期はインフルエンザの患者さんが一週間ごとに来られているというお話を聞きますが。

**中野** そうですね。今は非常に増えております。今年の感染症の特徴としては、インフルエンザも増えているんですが、相変わらず感染性胃腸炎も多いんですね。両者が平行して、数多く出ていますので、両方に共通して注意していただきたい。やはり、基本的なところではうがい、手洗い、人混みの中ではマスクをすとか、基本的なことをぜひ励行していただきたいと思います。

**塩齋** そして、自分に少し症状が有りそうだなという場合には、早めに病院、かかりつけのお医者さんに行くことが大事ですね。

**中野** 病気によっては、早ければ早い程治りやすい病気が多いですので、通常と違うなどご本人が思うことは当たっていますので、おかしいなと思われましたら早めに病院にいらしていただくことが良いと思います。

**塩齋** そして、現在各病院では面会制限が行われているところがありますが、これも大事ですか。

**中野** そうですね。面会に関しては、非常に遠い所からわざわざいらしたり、される所を面会制限をすることは心苦しい場合もあるのですが、

どうしても病弱な患者さんにインフルエンザ等の感染症が移りますと、非常に重篤な事態になる場合もあります。それで、小さいお子さんだとか、何らかの風邪など様の症状がある場合には面会を制限したり、重症の患者さんがいるような病棟では、本当に親族の方が必要な方のみ面会するよう制限をする場合もありますので、事情を分かっただいて面会制限をされてがっかりされるかと思いますが、患者さん達が早く良くなるためであるということをご理解して納得していただきたいと思います。

**塩 壺** 今日のみんなで育てよう地域医療のコーナー、先生には一関市における医師の数ですとか、夜間救急・休日当番医に当たっている先生の平均年齢のお話等も出てきました。こういった限られた医療資源の中で、私達が賢く医療機関を利用する方法を伺ってきました。今日は、一関市医師会副会長、そして中野内科循環器科クリニック院長の、中野淳平先生をお迎えして、お話を伺いました。中野先生ありがとうございました。

**中野** どうも、ありがとうございました。

平成 25 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組

平成 26 年 3 月 12 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)

(再放送: 3 月 16 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第3 回放送 一関歯科医師会 会長

久保田歯科医院医師 久保田文吾先生

(聞き手: 塩竈一常)

**塩竈** さて、「医療と介護の窓みんなで育てよう地域医療」のコーナーです。今日、スタジオにお越しいただきましたのは、一関歯科医師会の会長 久保田文吾先生です。久保田先生、よろしく願いいたします。

**久保田** よろしく願いいたします。

**塩竈** 久保田先生は、上大槻街の方で久保田歯科医院をなさっているそうですね。

**久保田** はい。

**塩竈** まず、先生にお伺いするんですけども、この一関歯科医師会ですけれども会員の皆様というのは大体何名くらいになるのですか。

**久保田** 現在 67 名ですね。

**塩竈** 皆さんが、その歯科に関する医療機関、診療所をされている方々。

**久保田** そうですね。ほとんどが、歯科医院、歯科クリニックを開設してそこで診療している方。あとは、病院に勤務されている方もいらっしゃいますけれども。

**塩竈** 歯科医師会ですけれども、こちらの方ではどういった取り組みですとか、こういったのをやっている団体なのでしょうか。

**久保田** まず、主には一関市の歯科保健事業への協力ということで、乳幼児の歯科検診とかですね、それから学校等での歯科検診ですね、小・中・高等学校等の学校での歯科検診。それから、

妊婦さんの歯科検診。それから、40 歳以降、節目で 40 歳、50 歳、60 歳、70 歳というふうな節目の時に成人歯科検診というのがあります。それから 5 月の連休とそれから年末年始には休日歯科診療というのが東西 2ヶ所で行われております。

**塩竈** 地域のその皆さんの歯を守るということ、これを協力して行っているということですね。

**久保田** はい。

**塩竈** この他にも、市民の皆さんに歯の健康について親しんでいただくということで「健康啓発事業」というのもあるそうですね。

**久保田** これはですね、歯科医師会と市と協力して行っておりますけども、6 月の「歯の衛生週間」ですね、その頃の日曜日に、いつもイオンの 1 階のところで「歯の健康展」というものを行っておりますし、歯の健康相談とかですね、歯磨きコーナーとかですね、それから市町村で行っている歯科保健事業のコマーシャルとかですね、そういったことを行っておりますし、秋には社会福祉協議会で行っている「ゆいっこ広場」というのがありますけども、そこで同じ様にやはり「歯の健康展」を行っております。

**塩竈** はい。皆さん、こういった「健康展」などでも、実はこういった歯科医師会のみなさんとのその繋がりというがある訳ですよ。さて、このコーナーではですねこの医療機関の役割、利用方法を市民の方々と、そして医療、介護、福祉関係の方々が共に協力して理解していくこ

とが大切だというコンセプトでお送りしているんですけども、今回、先生にはこの歯医者さん、歯科というところをこう注目してお話を伺っていきたいと思います。様々なその医療機関との連携、この歯医者さん歯科というのは他にどういった繋がりというのが他の医療機関とあるんでしょうか。

**久保田** やはり歯科を受診される方は、医科を受診している方も一緒に受診しております、そういった方々は、いろんな沢山の薬を飲んだりとかしておりますので、そういったことで連携を取らないと私達の仕事もスムーズには進まないということになります。それから、身体の疾患で歯科と非常に密接に関わっている疾患というのが非常に多い。そのひとつの例として、糖尿病ですね。歯周病と糖尿病が、非常に関連が深い。糖尿病のある人は、歯周病になりやすいし、それから治りにくいというのがあります。

**塩竈** 糖尿病の治療の中でも、その内科的な治療だけではなく歯科とも関わって合わせて治療していく。

**久保田** 両方で治療すると非常に効果的だというふうに言われております。

**塩竈** そうなのですか。この他にも、ガンの治療等でも最近では治療を本格的に始める前に、歯医者さんにかかるという、こういった流れというものもあるとお伺いしたんですけども。

**久保田** 特に消化器の上部の方ですと、口の中の汚れが手術後の経過に非常に影響を与えるということで、「手術を始める前に口の中をチェックして、きれいにしておいてください」ということとかですね、抗癌剤治療を使っていますと口腔内の乾燥とかそれから潰瘍ですね、口内炎の様なものができて非常に大変な思いをする場合があるんですけども、症状の軽減のために「口の中のお手入れをしましょう」というふうなことで連携を取る様にとということで今やられております。

**塩竈** いざ、こういった糖尿病とかガンとか大

きな病と立ち向かう時というのは、身体へのその影響ですとか負担というのが結構大きい時だと思うんですね。それに合わせて、歯科の治療とかこういった様々なものを複合して治療していく、これやはり事前に予防ですとか歯を健康に保っていくことが大切というのが、ここからも分かりますね。

**久保田** そうですね。痛くなった時だけの通院ではなくて、定期的なチェックというようなものが非常に大事になってくるのではないかと思います。

**塩竈** 町中などで春と秋を中心に行われています「歯の健康展」こういったのも行われていますので、ぜひとも皆さん足を運んでいただいて、この歯・口この健康についてしっかりとまた捉えていただければと思います。さて、先生にはですね今日は、「高齢化に伴う口腔の変化」というところちょっとお話を伺いたいんですけども、実は3月1日の日に東山地域交流センターで研修会が行われたということですね。これが、「在宅・施設での口腔ケアについて」ということで先生が講師として務めたということなんですけども、ご高齢になると歯の変化というのは、口の中の変化が出てくるというお話、あらためてラジオでも先生聞かせていただければいいですか。

**久保田** 高齢になると、まず特徴的なのは「口の中の乾燥が非常に多くなる」ということです。唾液が出にくくなるというふうなことです。これは、いろいろ高齢に伴う唾液腺の委縮とか、あるいは薬剤の影響とかいろいろありますけれども、口が乾いてメタメタするとかですね、上手く話しが出来ないということがありますけれども、それに伴ってむし歯にもなりやすくなったりとか、歯周病が進行しやすくなったりするというふうな傾向があります。唾液には、むし歯とか歯周病を防ぐ、なりにくくする働きがあるんですけども、その唾液が出にくくなるということで、歯周病やむし歯が進行しやすくなるというふうなことがあるんですね。

**塩竈** 唾液というのをできるだけ沢山、分泌さ

せるふうにしていくのが大事なわけですか。

**久保田** 口の中が汚かったりしても、唾液が出ていくというのがありますので、口の中をきれいにしていったりとかというアプローチが必要になってきます。

**塩竈** これは年齢がどんどん高くなっていくと、先程もお話しありましたけれども、段々出てくる量が少なくなってくる。てなると意識的にちょっとそういう唾液をこう出させる様な取り組みというのを個人個人でちょっとしてみた方が良いでしょうね。

**久保田** 簡単な方法ですと、唾液腺のマッサージというのがあります。

**塩竈** 唾液腺のマッサージ。

**久保田** 口の中には沢山の唾液腺がありますけれども、その中には大きな耳下腺(じかせん)、顎下腺(がっかせん)、舌下腺(ぜっかせん)というのがあります。

**塩竈** 耳下腺、顎下腺、舌下腺。

**久保田** 耳下腺というのは、耳の前の辺り、この辺あたりですね。ちょうどおたふくかぜの時に腫れる、そこが耳下腺です。そこをマッサージして揉んであげたりとかですね。

**塩竈** 甘い物を食べた時に「イー」となる辺りですよ。

**久保田** 顎下腺というのは、下顎の下の辺りですね。この辺にありますけども、これも親指なんかで揉んであげてください。舌下腺は、下顎の真ん中の辺りですね。その辺も、やっぱりマッサージしてですね。

**塩竈** 顎の下のところ首との間の辺りをちょっと優しく普段からマッサージする癖をつけておくと良いかもしれませんね。なるほど。こういった分泌を促していくことで、口の中を清潔に保ってくれるという役割がある唾液、これが

分泌しやすくなってくる。こういった様々なセミナーなどを通じて、いろんな皆さんにこの大切さっていうのを皆さんに伝えていってほしいということなんですね。

**久保田** はい。

**塩竈** このほかに年齢が高くなってくると、口の中の変化で気を付けなければいけないことって、どういったことがありますか。

**久保田** まずは、歯の本数が減ってくるというふうなことがありますね。そうすると、やっぱり噛みにくくなりますから、やはり人工的なもので入れ歯とかですね、歯をきちんと入れて噛めるような状態にするということが大事になると思いますね。

**塩竈** こういった口の中の変化について、いろいろこういった疑問が生まれてきたりとか、それから、こまめなそのメンテナンスといいますかね、口の中のチェックは大事かと思うんですけども、となると歯医者さんの待合室を見るとこの高齢者の方は多いんでしょうか。

**久保田** そうですね。やはり一関市も、もう3割以上が65歳の高齢者ということで、非常に高齢の方が多くなってきております。さらには、以前は通院できたのに、段々通院できなくなってくるという方も増えてくるわけですね。

**塩竈** なるほど。通院困難、家で寝たきりであったりとか、それから施設からなかなか動けなかったりとかあるわけですね。一関歯科医師会では、こういった方々への家庭訪問診療というのを行っているということなんですが、こちらについてもちょっと先生教えて下さい。

**久保田** これもやはり、一関市の事業に私達も一緒にやっている事業なんですけども、ご家庭で寝たきりになってしまって、そして、口の中にいろいろなトラブルを抱えて、例えば「歯が痛い」とかですね、「入れ歯が割れてしまった」とかですね、「歯茎が腫れた」とかですね、あるいは「口の中が汚くて診てもらいたい」とかで

すね、そういったトラブルとか問題を解決するために、歯科医師、医院のスタッフとかがご家庭を訪問して、診療するというふうな事業、流れとなっております。

**塩竈** なるほど。それぞれの寝たきりになったりとか、ご家庭で介護を受けているというのは、それぞれの病気が原因であったりとか、足腰がちよっと弱ってきたりといろいろあるかと思うんですけども、そういったところ、その場所その場所の治療だけでなく、これから先の診療に備えてのそういったケアということでのその家庭訪問診療というのはすごく大事ということですね。岩手県では、口腔、口の中ですね、その健康づくり推進条例というのができました。これについても、先生ちょっと分かりやすく教えていただけますか。

**久保田** これは、昨年4月に施行されたんですけども、「岩手県口腔の健康づくり推進条例」ということで、岩手県では乳幼児期とか学童期のむし歯が、他の県に比べて多いというふうな事情とか、あるいは重度の歯周病に罹患している人が段々増えてきているふうな状況とかですね、それから高齢者の割合が非常に多いということで、口腔、口の働きをこれ以上低下させないように今の状態を維持するためにいろんな歯科的な口腔の健康に対する施策が急務であるということで、このような「健康づくり推進条例」というものが施行されました。

**塩竈** 昨年4月1日からということなんですけども、県民、私達がそうですし、県として、市町村として、先生のように保健医療に関係されている方々それぞれの役割、それから県としてどのような方針をこうしていくかというところをこう決めるというものなんですね。こういったのに乗っ取って様々取り組み一関歯科医師会の方でも取り組んでいるということなんですけども、最後にですね久保田先生、こういった歯科診療に関して思われることを最後にお伺いしたいんですけども。

**久保田** 口の中というのは、本当に身体のほん

の一部分ですけども、おそらく身体の中で最も敏感な場所でありまして、そしてさらには、物を食べるとか、話をする、コミュニケーションをとるとか、あるいは顔の表情を作るとかという生きて行くうえで最も大切な場所のひとつであるというふうなことが言えると思います。その場所を健康に保つということは、生涯にわたって非常に皆さんにとっても重要なことでもありますので、ぜひ関心を持っていただいて、生涯に渡ってこれを良い状態に保っていただきたい。我々もそのために一生懸命お手伝いをしたいなと思っております。

**塩竈** そうですね。歯科医師会の皆さんで取り組んでいらっしゃる、まずはその一関の現状、高齢化に伴って様々な口腔の変化が出てくるということで、その年齢に合わせた取り組みも勿論なんですけども、これから先、その高齢に向かって行く人達にも事前の予防であったりとか、いろんな取り組みのそういったスキルを身に着けるため取り組んでいらっしゃるということが、今日は分かりました。会員数が67名、55の歯科医療機関、それから診療所が関わっています。一関歯科医師会から、今日は久保田歯科医院の久保田文吾先生にお越しいただきましてお話を伺いました。先生、どうもありがとうございました。

**久保田** どうもありがとうございました。



平成 25 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
平成 26 年 3 月 26 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)

(再放送: 3 月 30 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第4 回放送 一関薬剤師会 会長

かたくり薬局 管理薬剤師 小笠原慈夫先生

(聞き手: 塩竈一常)

**塩竈** さて、「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーです。今日スタジオにお越しいただきました一関薬剤師会会長、小笠原慈夫さんです。小笠原先生、よろしくお願ひいたします。

**小笠原** よろしくお願ひいたします。

**塩竈** さて、今日、小笠原先生にお伺ひしてきますのは、この一関薬剤師会、まずはその活動の状況から伺ひていきたいと思ひます。小笠原さん、この薬剤師会というのは何人位の皆さんが登録されているんでしょうか。

**小笠原** 今現在 175 名ですね。

**塩竈** 一関市内には、様々なそのお薬を取り扱っているところがありますけれども、こういったところにいらっしゃる薬剤師の皆さんが登録されているということなんですね。

**小笠原** はい。そうです。

**塩竈** 小笠原さんがいらっしゃる場所も薬局をされているということですが、場所はどちらの方になりますか。

**小笠原** 生協さんの近くなんですが、住所でいうと上坊ですね。

**塩竈** そうですか。かたくり薬局さん。

**小笠原** はい、そうです。

**塩竈** 皆さんも、お馴染みですとかね、そうい

った方々多いのかなと思ひます。先生、かかりつけのお医者さんというのがありますけれども、かかりつけの薬局というの、やっぱりあった方がよいものなんですか。

**小笠原** 絶対あった方がよいですね。

**塩竈** こういったところのお話しもね今日はちょっと伺ひていきたいと思ひますけれども、まずは、この一関薬剤師会。普段どんな活動をされているかというところから伺ひていきたいと思ひます。まずは、様々な地域で講演会などがあるそうですね。これは、どういった内容ですか。

**小笠原** はい。これは、一関市のです健康づくり課より講師依頼がありまして、各旧市町村、8ヶ所あるんですが、そこで講師として薬剤師が行ってお話しをするという形で実施しております。

**塩竈** これの中身は、より効果を良くするお薬の飲み方とかこういった指導になるんですか。

**小笠原** そうですね。内容としては、「薬の正しい使い方」、あるいは「サプリメントと健康」、あるいは「薬と健康の話」、中には「お薬手帳の活用」等々がありますね。

**塩竈** 様々な講演会がありますので、もしかしたら聞いていらっしゃる皆さんも、お近くで参加された方多いかもしれません。それから、「一関健康まつり」というのが、年に行われますけれども、こちらにも参加されているそうですね。

**小笠原** はい。そうです。これは、日本薬剤師会の企画でですね、「薬と健康の週間」というのが毎年10月に行われています。この一関ではですね、この一関の健康まつりに参加という形で、我々としては薬と健康の週間ということで実施をしております。その中でですね、今年も2月23日に行われたんですが、この中でも「薬の何でも相談会」、あるいは「体脂肪の測定会」。これは2月ということもあるのですが、皆さんが食べ過ぎ、あるいは運動不足ということもあったのでしょ。そういうことで、この体脂肪測定会がですね大変長蛇の列ができて、お待たせをするくらいの盛況ぶりであります。

**塩竈** 何かの形で、この調剤薬局さんとかのお世話になる時には、この薬剤師の方というのは、本当に丁寧にいろいろ説明していただいたりするんですけども、先ほど先生からもお話ありましたとおり、サプリメントとかこういった物っていうのも、今は周りにこう沢山ありますので、飲み合わせであったりとかその活用法というのもいろいろ学ばなければならないことっていうのは沢山ありそうですね。

**小笠原** ありますね。はい。

**塩竈** このほかにも、学校薬剤師としての活動というのがあるそうなんですが、これはどういったものなのでしょう。

**小笠原** これは、薬剤師会の会員なんですが、市の教育委員会、あるいは県の教育委員会の委嘱を受けている薬剤師でございます。

**塩竈** こういった取り組みがあるっていうことですね。このほかにもですね、この一関薬剤師会の方では、特に岩手県の県南にあるこの一関の町ということで、この地域に根差した活動というのも多く行っているというふうにお伺いしました。まずは、1つ目が自殺防止対策事業ということで、これはどういった内容でしょうか。

**小笠原** これはですね、我々薬剤師が「ゲートキーパー養成講座」ということで、我々薬剤師

がゲートキーパーになって、自殺を防止することなんなんですが、我々も勉強しなければだめなものですから、県の方から専門家を呼んだり、病院の臨床心理士をですねお呼びして勉強会をします。その中で、我々調剤薬局で患者さんとお話する中で、眠れないとか、悩み事があるとかっていうことを良く聞いて、ひとりでも多くの命が救われれば良いなというふうにかけてやっているとこでございます。

**塩竈** さらにですね、「脳卒中予防対策の研修会」こういったのも行われているということなのですが。

**小笠原** これは、脳卒中というのはご存知の通り日本でワースト1、これが岩手県になりました。その中でもですね、この一関地方、奥州地方が1番ということなんです。岩手県の中でも。

**塩竈** 全国の中でも岩手県というのがワースト1、そのうち県南地域というのはより悪い数字というのが出ていると。

**小笠原** そうなのですよ。特に、脳卒中と言うと、脳梗塞、あるいは脳出血、そしてくも膜下出血を言うんですが、今回保健所さんの主催でですね研修会を実施いたしました。これは、キャリアアップ研修会っていうことなんですけど、今年度は市民の皆さんも対象にしてを含めまして6回実施いたしました。今後、我々薬剤師会としては、特に降圧剤、血圧を下げる薬なんですけど、飲んでる患者さんを特に対象にしまして、この血圧上昇というのは、冬場が割と多いんですが、冬場お薬飲んでて、暖かくなると、血圧が正常値に戻るということで、やめる人がいるんですね。中止する方がいます。お医者さんの指示受けないで、中止する方がいるというふうな方もいらっしゃいますので、服薬指導の中でしっかりとこれを指導していかなければならないだろうというふうにご考えております。

**塩竈** なるほど。同じ薬を飲むという習慣でも、地域によってですとか、それから環境とかいろんなものによって飲まれ方っていうのが違う訳ですから、地域の特性を見極めていくっていう

のがとても大事なんですね。

**小笠原** そうですね。

**塩竈** この様に、地域に根差して、脳卒中の予防対策、さらには、先ほどお話をうかがいました、自殺防止対策などの取り組みもされています。さて、今日はスタジオにお越しいただいています一関薬剤師会の小笠原会長なんですけれども、小笠原さん、先ほどねお話の中で「お薬手帳」という言葉が出てきました。私も最近、調剤薬局さんに出かけたりとかする機会がありまして、その自分のお薬手帳っていうのはしっかりと管理していかなければいけないと身に染みて思ったんですけれども。この大切さについて、今日はお伺いしていきたいと思います。

**小笠原** まず、お薬手帳というのは、例えば複数の医療機関にかかっている方なんですけど、その中で併用薬の確認ができるということ。そして、飲み合わせですね。これも、相互作用が防止できるということ。また、重複投与の防止ということで、商品名が違っててもですね、同じ成分の含有している薬も多いわけでございます。皆さんもご存じの通り、ジェネリック医薬品というのが多く出回ってますので、そういうこともしっかり重複投与の防止ができるということが言えると思います。またですね、一番分かりやすいのでは、例えば救急車で病院に運ばれた際にですね「何をその患者さんが飲んでるか」というのを確認できることということで、病院の先生方それで大変助かっているという声を聞いております。

**塩竈** お薬でも、やっぱり飲み合わせであったりとか、使い合わせによっては、やはり良い効果だけでなく、怖い効果が出てしまったりするものもあるわけですね。こういうのを防ぐために、自分自身のそのデータというのをしっかりとそこに記録しておく。そのツールとしては、このお薬手帳本が大事なんですね。

**小笠原** そうですね。特にお願いしたいことなのですが、複数の医療機関に通っている患者さんですね、医療機関ごとに手帳をお持ちの方がいらっしゃるんですよ。そうすると、併用薬

が全然分からないということが。

**塩竈** この病院に行った時には、このお薬手帳で、次の病院に行ったらこっちの手帳でってなると。

**小笠原** それは、絶対にやめていただきたい。

**塩竈** ひとつの手帳の中で一元的に管理していくということがすごい大事ということなんです。

**小笠原** そうですね。

**塩竈** 聞いていらっしゃる方の中で、お薬手帳、そういえば持っている方ももちろん多いかと思いますが、あらためてその使い方もしっかりと心がけていただきたいと思います。ご自身のお薬手帳ですけれども、家族の皆さんにも、すぐにどこにあったかな分かるように伝えておくのも大事ですね。

**小笠原** そうですね。それも、しっかりやっていただきたいと思います。

**塩竈** さて、この他なんですけれども、こういったお薬手帳を持って病院に出掛けるといいますね。こういった体力がある方っていうのは勿論なんですけれども、ご自宅で療養されている方、在宅されてる方々もいるわけです。こういった方々への服薬の管理というのもこの薬剤師会の方では取り組むということなんです。

**小笠原** 特に、我々薬剤師の行う「在宅患者訪問薬剤管理指導」なんですけど、これはですね、お医者さんからの指示と患者さん、あるいはその家族の方の同意に基づいて、この在宅を開始するということになる訳です。患者さんの状態に適した調剤ということなんですけど、医師の指示、または医師との相談のうえで、例えば、在宅の方で、錠剤カプセルを飲めない方、あるいは、朝、昼、夕と飲むんですが、数が多いために、バラバラに飲んでいる方もいらっしゃると思うのです。その時に、錠剤カプセルを粉砕にして、あるいは一包化にしてあげるといようなことをやっています。当然調剤した後にはです

ね自宅までお届けする。後は、お届けした際に  
ですね、薬の使用方法とか、保管の方法などに  
関してですね情報提供するということですね。  
同時に、患者さんの状態、あるいは飲み忘れ、  
薬を在宅でやっている方で、飲み忘れて残薬が  
沢山あるというようなことの確認をいたします。  
その中で、有効性や副作用の有無などの判断を  
して、問題があればお医者さんへの報告を行う  
ということになります。

**塩竈** それぞれのその立場でこの医療機関で  
あったりとか利用される方、また介護施設であ  
ったりとかそういった役割というのがある訳で  
すけれども、一関薬剤師会さんの中でもそのサ  
イクルの中でね、様々な取り組みをしていると  
いうことが今日分かりました。さて、小笠原先  
生、これまで出ていただいた先生の中でもお話  
しが出てくるんですけども、やはり、そのかか  
りつけと言いますかね、古くからやっぱり顔馴  
染みであるお医者さんであったりとか、こうい  
ったものっていうのはすごく大事ななというふ  
うに思ったんですけども、今日、お話聞いて  
くるところこういった調剤薬局さんであったりとか、  
こういった薬剤師さんでもこういった顔馴染み  
の方と言いますか、かかりつけの方をつくる  
というのは本当に大事ですね。

**小笠原** そうですね。しっかりとこの辺は同じ  
病院を受診なさった時にはですね、いつもの行  
っている薬局さんでですね調剤をすることが一  
番大事です。そして、知り合いになっていると  
色々な情報が患者さんの状況が分かりますので、  
そういうふうな形でやっていただければと思い  
ます。

**塩竈** 先ほどの飲みやすさについてもね、いろ  
いろ工夫されたりとか、それから組み合わせで  
あったりというところもいろんな相談に応じたり  
という話がありましたけれども、より長い  
お付き合いになってきますとね、そういったと  
ころも大変分かりやすく意思疎通ができるのか  
なというのを感じたりしました。お話しの中  
では、とても大事なポイントが沢山ありましたけ  
れども、特にもそのお薬手帳の管理というのは  
本当に大事ななというところ感じましたので、

皆さんもあらためて心掛けていただければと思  
います。では、小笠原先生から最後にラジオを  
聞いている皆さんに一言、お願いいたします。

**小笠原** はい。我々薬剤師会がですね「笑顔」  
で患者さんにとっての最初の薬だと思います。  
故郷の地域医療を支えていくことが、私達薬剤  
師の仕事。患者さんに信頼していただける薬剤  
師を目指して、患者さんの立場に立ってですね  
相談、サービスを心がけていきたいと思いま  
す。

**塩竈** 今日は、スタジオに一関薬剤師会の小笠  
原慈夫会長にお越しいただきまして、お話を伺  
いました。小笠原先生、ありがとうございました。

**小笠原** ありがとうございました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日: 平成 26 年 7 月 9 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送: 7 月 13 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 1 回放送 岩手県看護協会一関地区支部 佐藤信一 支部長  
(岩手県立南光病院 総看護師長)

(聞き手: FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** 一関市では高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。さあ、このコーナー「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」は、医療機関・介護施設の役割、利用の方法など、医療・介護・福祉関係者と市民がともに理解・協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** さて、2月と3月に4回に渡ってお送りしてきました、この「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」言わばセカンドシーズンを今日からお送りしていきます。これまで4回お送りしたんですね。医療と介護の連携連絡会の幹事長にお越しいただいたり、医師会・歯科医師会・薬剤師会それぞれの会長・副会長にスタジオにお越しいただきまして、この地域医療というのを進めていく、その取り組みなどについて説明していただきました。さて、今日は5回目の放送になります。今日は岩手県看護協会一関地区支部支部長、そして県立南光病院の総看護師長 佐藤信一さんにお話を伺います。

**塩竈** 今日はスタジオに県立南光病院の看護科総看護師長の佐藤信一さんにお越しいただきました。佐藤さんよろしくお願いたします。

**佐藤** よろしくお願いたします。

**塩竈** 佐藤さんはもうひとつ肩書がありまして、岩手県看護協会一関地区支部長を務めていらっしゃるんですよ。佐藤さん、この看護協会の会員のみなさんってというのは、今何人くらいの方がいらっしゃるんですか。

**佐藤** 岩手県の会員の数ですけども、約 7,000 名おります。そして一関地区では、4月 30 日時点で 23 施設 425 名の会員の方が入会されております。

**塩竈** この会員の皆さまが仕事をしているところって大体どういったところになるんでしょうか。

**佐藤** 主に病院、老人ホーム関連、訪問看護ステーション、看護学校の先生、保健所や市の保健センターの保健師さん、そして支援事業所、そして個人会員の方など、様々な所で働いている方々で構成されております。

**塩竈** 自分が病気になったりとか、また介護を必要にしたりとか、そういった時にこうお世話になる皆さんがほとんど会員になっていらっしゃるって形ですね。

**佐藤** そうですね。

**塩竈** この看護協会、会員の皆さんが集まるところになりますけれども、どういう取り組み、またどういったことをしているのが、この看護協会になるんですか。

**佐藤** 看護協会は、保健師さん、助産師さん、看護師さん、准看護師さんが一緒に、教育と研鑽に根差した専門性に基づいて看護の質向上を図ったり、安心して働き続けられる環境づくりを推進して、そして人々のニーズに応える看護領域の開発・展開を図ることによって、皆さんの健康な生活の実現に寄与することを目的とし

て活動している団体です。簡単に言いますと、専門職業人として看護の質を向上させるために勉強したり、研究をしたりして自己研鑽をしている職能団体ということになると思います。

**塩竈** なるほど。こういった専門職になりますので、新たに学ばなければいけないものであったりとか、いろいろその技術、また使うものの進歩に伴って、どんどん、こういった能力っていうものを高めていかなければいけないわけなんですね。

**佐藤** そうですね。日進月歩ですので、私達も常に自己研鑽していかなければいけないという職業です。

**塩竈** 特に医療なんていうのは、そういった日進月歩の速度ってのがもっと速いような感じがしますもんね。看護師さんの方々が、この業界には多くお仕事されているということなんですけども、看護師という職業を聞くと不足しているという言葉が必ず後ろに付くほど、よく世の中では看護師さん不足っていうのが叫ばれているようですよ。

**佐藤** そうですね。現在の看護職人口は全国で147万人程です。看護職は全国的に不足している状況です。そして18歳人口の減少に合わせて、看護師が不足していくことが、ますます懸念されている状況です。これからの若い方達が、ひとりでも多くの方が、看護師を志していただけるようにと思っています。

**塩竈** この看護というこの仕事、まずどういった仕事なのかというところを知ってもらうところもまずひとつ大事な訳ですよ。

**佐藤** 看護のことを多くの方に知っていただけますように、「看護の日」を設けてふれあい看護体験実施とか、市内のショッピングセンター等で血圧測定・体脂肪測定・健康相談等行い、看護をPRしております。体験には高校生の方がいらしてきてますけれども、やはりもう少し学年を下げまして、中学生の方々に看護協会の

ほうから出前授業を試みたりなんかして、1人でも将来の看護師を目指す人を掘り起こしていきたいなと思っております。

**塩竈** 今、その看護師というお仕事がおかれている状況であつたりとか、それからそういった皆さんが集まる看護協会がどういった取り組み、何をしている所なのかというのをまずは皆さんにご紹介しました。さて、佐藤さん、一関ではですね「まちの保健室」というのが実はあるそうなんですね。

**佐藤** 平成16年9月から、ボランティアの方達の協力で「きらめき一関まちの保健室」が毎月の第1土曜日午後1時半から4時まで現在は、なのはなプラザ4階で実施しております。

**塩竈** これは、この「まちの保健室」というのは開かれて、ここで何が行われているんでしょうか。

**佐藤** そこでは、血圧測定とか体脂肪測定・健康相談等しております。気軽に寄っていただければと思います。

**塩竈** 毎月第1土曜日の午後1時30分から夕方4時まで、第1土曜日が祝日の際は翌週になるということなんですね。

**佐藤** 8月と2月は、8月31日に「市民フェスタ」というのが、なのはなプラザでありますので、その時に合わせて「まちの保健室」を開催したいと思っております。そして2月は、2月1日のわんこ餅大会の場所で一緒に「まちの保健室」を行いたいと思っております。

**塩竈** なのはなプラザ4階で開催されています、毎月第1土曜日の「きらめき一関まちの保健室」について、お話しを伺いました。佐藤さんは、南光病院の方で今、総看護師長というお仕事をされているんですけれども、あらためてこの南光病院、その取り組みですとか様々なお知らせなどありましたらお願いします。

**佐藤** 私の職場はですね、南光病院というところ  
です。南光病院は、皆さんがご存知のように  
精神科病院なんです。精神科病院は、心の病  
気の方が通院や入院をして治療するところと  
なっております。今、精神科病院も入院中心の  
医療から地域中心の医療へと変わってきており  
ます。病気が良くなったら、まず早めに退院し  
て、地域で暮らしていくことが、患者さんや家  
族にとっても良いことです。地域の皆さんにお  
願いですが、退院＝仕事をしなければいけない  
というように、まずは見ないでいただければと  
思います。やはり仕事を見つけるまでには時間  
がかかりますので、こう地域で生活しながら病  
気をコントロールしながら暮らしているとい  
うことを理解していただければなと思ってお  
ります。

**塩竈** こういった心の病に関しては、これまで  
日本のその社会の中で、あまりここに注目し  
たりとか、それからどんな治療が行われて  
いるかっていうところ、そういった知識を学  
ぶ機会というのが少なかったようでは、最近  
では、またこの精神疾患心の病というのも  
加わって健康を保っていくのがとても大事だ  
というのが叫ばれる世の中に変わってきました  
よね。

**佐藤** そうですね。皆さんもご存知かと思  
いますけれども、4大疾病というのがありま  
すが、4大疾病は、がんとか脳卒中、急性心  
筋梗塞、糖尿病を言いますけれども、そこ  
に新たに精神疾患も加わって5大疾病とい  
うふうになりました。これはその何故精神疾  
患も加わったかというのは、職場のうつ病  
の問題とか高齢化に伴う認知症の患者さん  
が年々増加しているということが関係して  
います。心の病気っていうのは、いつ誰が  
なるか分かりませんので、そういう思いで  
あたたかく見守って行って欲しいなと思っ  
ております。

**塩竈** なるほど、誰がなるか分からない。自  
分もそういった可能性もちろんあるって  
いうことをしっかり認識しながら、いろ  
んな知識っていうのもこれからも続けて  
いくのもすごい大事ですよ。

**佐藤** はい、そうです。

**塩竈** さらには、こういったものは、先ほどの  
4大疾病っていうのも、その予防対策って  
これまで言われていましたけれども、心の  
病気にしても、その予防っていうのもや  
はり大事なんじゃないでしょうか。

**佐藤** 病気になった際には、早期発見・  
早期繋げることが、患者さんが入院せ  
ずに早く復帰させることにもつながり  
ます。現在南光病院では、精神科認定  
看護師が3名おります。認定看護師  
というのは、優れた看護技術と知識を  
用いて水準の高い看護実践を看護現場  
で看護ケアの質の向上を図る役目を担  
っております。病気の正しい知識を持  
っていただくために、地域の方々から  
講義の依頼があれば、認定看護師が皆  
さんのところに出向いて行きたいと思  
っております。

**塩竈** 出前講座というのが昨年か  
ら取り組みが始まったということなん  
ですね。

**佐藤** はい、そうです。

**塩竈** それぞれのその地域等で、その  
精神疾患であったりとか、そういった  
病気についてもそうですし、その予  
防策等についてもいろいろこう直接  
質問したりとか、学ぶ機会がある  
ことなんですね。

**佐藤** はい。

**塩竈** では地域に来て話しをもら  
いたいというそういう方がいらっ  
しゃいましたら、また連絡のほう  
していただきたいと思っております。  
佐藤さん、連絡先の方どちらに  
したら良いでしょうか。

**佐藤** 問い合わせはですね、南光  
病院、電話番号ですが、0191-23-  
3655 内線 7700 まで連絡を  
いただければご相談に応じたい  
と思っておりますので、よろしく  
お願いいたします。

**塩竈** 今日は、まず岩手県看護協  
会一関地区支部どういった取  
組みをされているのかという

お話し、そして、この支部長の佐藤さんは南光病院看護科総看護師長を努めていらっしゃるということで、この南光病院の取り組みなどについても様々お話を伺ってまいりました。今日の「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーですが、スタジオには、県立南光病院看護科総看護師長、さらに岩手県看護協会一関地区支部長の佐藤信一さんにお越しいただきました。佐藤さん、今日はどうもありがとうございました。

**佐藤** どうもありがとうございました。

**塩竈** 私達が住んでいるこの一関の街ですが、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療から介護へと切れ目ないサービスがある、こういった街を今、目指しているんですね。このコーナーでは、医療機関、また介護施設の役割、利用方法等、そこでお仕事をされている方とそして利用する私達がともに理解して協力する、これを目的にしてお送りしています。地域医療体制の充実のため、私達も積極的にこの地域医療に関わっていくのが大事です。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」。このコーナーは、一関市健康づくり課の提供でお送りしました。第2週と第4週の水曜日このコーナーをお送りします。



平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日：平成 26 年 7 月 23 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送：7 月 27 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」

第 2 回放送 岩手県立磐井病院 加藤博孝 院長

(聞き手：FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** さて、私たちが住んでいる一関市では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療から介護へ切れ目ないサービスを目指しています。この「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」のコーナーは、医療機関や介護施設それぞれの役割、また、その利用方法をご紹介します。医療・介護・福祉関係者とそして私たち市民が、ともにこのサービスなどについて理解、また協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** さて、今日の地域医療のコーナーですが、私達も利用したこと多いんじゃないんですかね。県立磐井病院、この県立磐井病院の加藤博孝院長に今日はインタビューをしております。

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」のコーナーです。今日はスタジオに県立磐井病院の加藤博孝院長にお越しいただきました。加藤院長どうぞよろしくお願いいたします。

**加藤** よろしくお祈りします

**塩竈** 県立磐井病院と言いますと、ラジオを聴いている皆さんもそうかと思います。1 回くらいは行ったことがあるんじゃないかと。そういった病院ですけれども、この磐井病院について、加藤院長先生に紹介していただきたいと思っています。

**塩竈** 加藤先生、この磐井病院ですけれども現在お医者さんの数は何人くらいになるんですか。

**加藤** 60 名位です。

**塩竈** 大人数。病院の中で 60 人という医師の数っていうのは、やはり大規模な方なんでしょうか。

**加藤** いいえ。都市部に比べると少ないですね。都市部だと同規模だと、多分 70、80 名位ほしいところです。

**塩竈** なるほど。患者さんの数、それからまちの規模にもそれぞれよるでしょうけれども、それでもやはり全国的な中でみるとお医者さんの数っていうのはあまり多くはないですね。看護師さんの数はどんな感じなんでしょうか？

**加藤** 看護師は 300 名位で、全職員で 510 名です。

**塩竈** そうなんですか。この 510 人の皆さんでこの地域の医療をみなさんで支えていらっしゃるということですね。訪れる患者さんの数っていうところでみると、病床の数ではどうなんでしょうか。

**加藤** 病床は、稼働率がだいたい 85% くらいなので、だいたい、いつも 240~50 名位の患者さんが入院しています。

**塩竈** そうですか。外来でいらっしゃる皆さんもあるかと思いますが、来院する数っていうと。

**加藤** 外来はですね、ずいぶん減らしたんです。

それで、入院に特化するということで、以前1,000名以上あった外来数が、今500名くらいで推移しています。

**塩竈** これはやはり、これまで磐井病院にいうところにかかっていた皆さんの中で、そのお医者さんにかかることを磐井病院だけじゃなく、ほかのお医者さんのところにも診ていただいたりとか、そういう仕組みが出来るといことですね。

**加藤** そうですね。

**塩竈** この磐井病院の特徴について、今日はいろいろとお話しを伺っていきたく思うんです。先生、この磐井病院の歴史からまず伺っていきましようか。

**加藤** できたのが1949年なので、65年の歴史があります。

**塩竈** そうなんですね。先ほどもお話しの中でありましたけれども、地元で何かこう大きな病気を相談という時には、パッと行くのが磐井病院かなっていう、そういったイメージがありますよね。それだけ、古くから多くの皆さんに親しまれていたというか、認知されていた病院なんですね。磐井病院のすごいところと言いますか、こういうふうに表示するのはあれなんですけれども、特徴的なところをぜひ教えてください。

**加藤** 地域の救急車の半数以上を受け入れているということですかね。あとは「がん」とかある程度の高度医療をやっています、落ち着いた患者さんは、地域の開業の先生達になるべくお戻しするようにしております。

**塩竈** なるほど。各それぞれのかかりつけ医のお医者さんから、この方は、高度な医療が必要だっというとき紹介を受けて、磐井病院に来ていただいて、そこで治療を受けて、今度は回復期になると、また、それぞれ病院に戻っていくという。

**加藤** そうですね。あとは介護施設とか、そういうこととも連携しながら、患者さんを地域全体で診るような考えで運営しています。

**塩竈** なるほど。先ほどその医師の数ですとか、それから、働いている皆さんの数っていうのがありまして、やはり、それでも人数は多いほうではないというふうにおっしゃっていました。その中で、磐井病院の特徴っていうのを活かしていくとなると、利用する患者さん側のその利用の仕方っていうのもいろいろ求められそうですね。

**加藤** できれば開業の先生にかかっている方達は、ぜひ紹介状を持ってきていただきたいですね。あと、あまり軽症の患者さんは、やはり、病院に来る前に地域の医療機関で診ていただきたいと思います。

**塩竈** なるほど。それぞれのまた地域のかかりつけといいますか、普段から身体を診てもらっているお医者さんのその判断で、その病院の方を利用するっていう、そういった流れが1番理想的ですね。この地域の中では、先ほどもありました磐井病院って、その名前も大変認知度も高いわけですがけれども、医療的なところの最後の砦といいますか、こういったところっていうのもこの病院になっているんですね。

**加藤** そうですね。ある程度の重症の救急までは診れるような体制とっています。ただ、中で超重症な患者さんは、仙台、盛岡に運ぶようなケースが年間50例くらいですかね、あります。

**塩竈** 地域医療支援病院という役割もこの磐井病院にあるということなんですが、先生この「地域医療支援病院」とはどういったものなのでしょうか。

**加藤** 地域の医療機関と連携して患者さんを診るってことです。例えば、開業の先生に、「開放病床」っていう5床あってですね、地域の開業の先生と病院の担当医と一緒に患者さんを診るような仕組みをつくっております。

**塩竈** そうなんですか。これは、ある程度高度の医療をここで受けた後の、その回復期どのように今度はケアしていくかっていうのをそこを磐井病院の主治医さんとそれからその地元の開業医さんっていうのが一緒にそういうふうに診て、だんだん開業医さんのほうに移行させていくっていう取り組みですね。

**加藤** そうですね。紹介いただいた患者さんを病院の医師と開業の先生と一緒に診るという仕組みです。

**塩竈** そうなんですね。そうなると患者さんだけではなくて、地域のお医者さんにとってもこの磐井病院の存在っていうのは、すごく大事な場所なんですね。

**加藤** そうだと思います。

**塩竈** 先生方が、何かそういった開業医の皆さんが、いろんな医療を学ばれるといいですか、いろんな研修受ける場合っていうのは、この病院ではあるんですか。

**加藤** 研修っていうか、一緒に患者さんの症例検討なんかは、月1回、地域の開業の先生と病院でやっています。主に紹介いただいた患者さんの経過を診ていただくということです。

**塩竈** こういう、私達が普段かかっているお医者さんと地域の拠点となる病院という所が、このように連携されているっていう話を聞くとすごく住民にとってみると、心強い感じがありますね

**加藤** ありがとうございます。

**塩竈** この他ですが、研修医の受け入れというのも、この磐井病院では積極的に行っているそうですね。

**加藤** はい。以前から、もう40年前以上から研修医を受け入れているんですけど、10年前に臨床研修が必修化になってですね、常時1学年

6人から8人くらいの研修医さんが、2年間の初期研修を磐井病院でやっていただいています。

**塩竈** この病院を利用されている方、それから入院されている方もそうですけれど、そうすると研修医の方といろいろそういった触れ合う機会っていうのも多そうですね。

**加藤** そうですね。地域医療支援病院の関連で、地域の皆様に、あとは医療機関の医療従事者の皆様に開かれた研修会を年間12回以上は行っております。

**塩竈** そうなんですか。こういったのもどンドン皆さん活用していただいて、よりその地域医療っていうものの大切さっていうのを学ぶ機会がここにあるわけですね。普段こう利用している病院ですけれども、その病院それぞれに役割があって、ただ利用する側というの、とてもそういったところを意識しながらかかることが大事なんだというのが伝わってきます。先生、今日はですね、このコーナーにご出演していただいているんですけども、病院を適正に受診することがとても大事だっていうのをこのコーナーでは皆さんにもご紹介しているんですが、磐井病院の院長である先生から感じる、皆さんへのアドバイスですとか、それからご提案とか、こういったものをぜひお願いします。

**加藤** やっぱり軽症の患者さん、軽症かどうか判断するのが難しいと思うんですけど、症状が軽い患者さんは、まず身近なかかりつけ医とか医療機関を受診していただいて、そのうえで、磐井病院での診療が必要な場合は、紹介していただくというふうな体制で、ぜひお願いしたいと思います。特に、地域では小児科医が少ないんですね。少ない例えば小児科なんか、あんまり病院に集中しちゃうと医師が疲弊しちゃいますので、ぜひ最初にその開業の先生を受診していただけたらなと思います。

**塩竈** よりスムーズにその高度な医療を受けるためのそういった仕組みっていうのを皆さんそれぞれで認識して、自分に今必要になってく

るかどうかという、そういった気持ちをそれぞれ皆さん持っておくというのがやはり大事ですね。お医者さんの疲弊というのが全国的にも大変叫ばれてますけれども、どうでしょう磐井病院の中でそう感じる場所ってありますか。

**加藤** ありますね。一番大変なのは救急なんです。当直体制があって、結構厚くはしているんですが、当直明けの次の日、働かざるを得ないような体制しか組んでないので、将来的にはもっと医師を増やして、医師に負担をかけないようにしたいと思うんですけど、なにせ医師がなかなか増えないもんですから。そうですね、当直のところはすごく大変になっています。

**塩竈** こういった先生達ですね、普段、日中には地元のその医療の高度なところを担っているってところを考えると、私達それぞれで先生のコンディションといいますか、いろんなものを加味して、その利用方法ってものをしっかり考えていかなきゃいけないんだなというのを感じました。今日はですね、県立磐井病院の加藤博孝院長にスタジオにお越しいただきまして、私達が普段からよく利用しています県立磐井病院、その磐井病院の特徴であったり、それからその地域における役割、そして利用する私達がどのようなところに心掛けていったらいいのか、こういったところをお話して伺いました。最後に今日はラジオを聴いている皆さんに先生から一言お伝えいただけますか。

**加藤** 最近は医療だけではなくてですね、医療・介護・福祉の連携というのが言われてて、高齢化率も多いものですから、やっぱり高齢者の医療も大事になってきていますけど、医療がどこまで必要かということもあってね、やっぱり医療と介護と福祉の連携っていうのがこれからの大事な部分になろうと思います。

**塩竈** これは実際に今、その介護というものに直面している世代だけではなくて、これから先、自分もそういった年齢になるというのは若い世代それぞれ皆さんは、必ず迎える道なわけです

から、今のうちからそういった知識をしっかりと身につけておくという、工夫っていうのをいろいろ、まちぐるみでつくっていくのが大事ですね

**塩竈** いろんなお話を伺ってきました。今日の地域医療のコーナーですが、県立磐井病院の加藤博孝院長でした。加藤院長、今日はどうもありがとうございました。

**加藤** どうもありがとうございました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日：平成 26 年 8 月 6 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送：8 月 10 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」  
第3 回放送 岩手県立千厩病院 吉田 徹 院長

(聞き手：FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」のコーナーです。今日、スタジオにお越しいただきました、岩手県立千厩病院の吉田徹院長にお越しいただきました。吉田先生、よろしく願いいたします。

**吉田** よろしく願いします。

**塩竈** 吉田先生は、専門はどちらのお医者さんになる訳でしょうか？

**吉田** 私は、専門は消化器外科ですが、診療所の勤務もありましたので、広く総合診療一般も診ております。

**塩竈** そうですか。千厩地域の皆さんにとってみると、この県立千厩病院っていうのは、本当に拠点になる病院ということで、多くの皆さんが足を運んだことがあるかもしれません。今日はですね、この吉田先生に千厩病院についていろいろお話しを伺っていきたいんですが、まずは、常勤されているお医者さんの数、それから診療体制について聞かせてください。

**吉田** 現在 9 名です。その内訳としては、総合診療科が 3 名、消化器内科が 1 名、外科が 3 名、整形外科が 1 名、泌尿器科が 1 名、合計 9 名ということになります。

**塩竈** 現在では救急医療の方も受け入れているというのが、この県立千厩病院になるんですけども、先生、その救急医療の実態について教えてください。

**吉田** 10 年位前は、今、常勤医師が現在 9 名と話ししましたけれども、18 名程今の倍おりました、その当時は、救急車の台数が、年間 700 台程度だったんですが、3 年前に 1,000 台を越えまして、それから 3 年間、去年は 987 台でしたが、半分の常勤医師でこの 1.5 倍になった救急の外來の患者さんを診ているというような厳しい状況であります。

**塩竈** 1 年で 1,000 台近くの救急車がやってくる。まあ、日によってももちろんその数っていうのはいろいろ違うんでしょうけど、それでも多くの救急患者の皆さんがやってくる。その中を以前は、18 名いたところ、半分の人数で治療にあたっているということなんですね。年齢層でいうと、どういった皆さんが、救急搬送される場合っていうのが多いんでしょうか。

**吉田** やっぱり 70 代、80 代が多いですね。高齢者の方が多いです。結局、独居の高齢者が増えていきますので、かなり高熱が出ただけでも、おひとりで動けなくて、救急車っていうような状況もなかにはあります。

**塩竈** そうなんですね。こちらの千厩病院では入院される方というのも、もちろんいらっしゃると思うんですけども、だいたいどのくらいの入院率なんでしょうか。

**吉田** 救急車で来院された方の大体 4 割が入院です。

**塩竈** 県立千厩病院ですけども、こちらのほうでの治療というのに、まずはあたるわけです。

けれども、この他にもだいぶ重い症状がある方ってのももちろんいらっしゃる訳ですよ。

**吉田** 例えば、脳卒中、脳梗塞とか、心筋梗塞とか多発の外傷とか、すぐに専門医の治療あるいは規模の大きな手術を必要とする場合には、近隣の磐井病院とか盛岡の高次救急センターとか、あるいは仙台の方の心臓の処置をしていただけのような病院へ搬送、あるいは日中ですとドクターヘリを使って搬送という場合もあります。

**塩竈** そういうのもあるんですね。搬送する場合ですけれども、救急車を利用する場合はですね、救急隊員の皆さんが、いろんなその判断っていうのもあるかとは思いますが、お医者さんとそういった連携を上手くとって、どこの病院に運んでいくっていうなかで、千厩病院もあればそれ以外の病院を選ばれるってこともあるんですね。

**吉田** まず第一報は、この東磐井の医療圏では千厩の方に入ってですね、病状をお聞きして、まあ、基本的にお断りするってことはないんですが、先ほどお話ししたような脳血管系・心臓系で、治療の開始までの時間が生死に関わるような状況が考えられた場合には、そちらの方に直接行っていただくってこともあります。

**塩竈** こういった患者さんの体力であったりとか、病状に合わせてその効率的に医療っていうのをすぐ受けてもらえるような、そういった体制っていうのが、今は取られているということですね。

**吉田** ええ、そうですね。

**塩竈** これまでもいろんな病院の先生にお越しいただいてお話しを伺っているんですけども、最近では、病院によって役割分担とていいますか、こういうものっていうのが、明らかになってきていますよね。

**吉田** 今よく言われているのは、昔は、病院完

結型の医療っていうのが目指されてたわけですが、10年前の千厩病院がまさにそれで、ほぼ10数年前は千厩病院でも、8割方、9割方の病気が完結できたわけですが、医療状況も変わってきてますので、地域で完結するという形に変わってきています。地域の病院で、それぞれ機能分担して、役割分担をして医療を完結するっていう考え方です。

**塩竈** そういった地域完結型のなかで、千厩病院が置かれている役割とは、どういったものでしょうか。

**吉田** 今言ったような、救急、ある程度のレベルまでの救急は、当然、東磐井の最期の砦として機能していかなければいけないと思っておりますが、昨年から加わった機能のひとつが、リハビリ部門ですね。脳卒中とか骨折の後の在宅に戻るための早く自宅に戻るためのリハビリを行う回復リハビリの機能っていうのが加わっております。

**塩竈** その医療をそれぞれ役割分担していくとなると、その症状の重さであったりとか、そのスピード感とかいろんなものだけに、ちょっと目が行きがちですけども、そうですね、その治療が終わった後のリハビリという大事で、その地域の中では千厩病院が新たにその役割としてやられている。

**吉田** そうですね。

**塩竈** リハビリテーションの分野で千厩病院が取り組んでいるものっていうのは、どういうものがあるんでしょうか。

**吉田** 脳血管疾患、脳卒中ですね、脳梗塞とか脳挫傷とか、いわゆる脳の損傷を受けたような疾患に加えて整形的な骨折が、大体8割以上を占めていますね。

**塩竈** 病院の中にはリハビリ病棟というのが今つくられているそうですね。

**吉田** 病院の5階が回復リハビリ病棟となっていて、そのリハビリ専門の病棟となっていますので、リハビリを目的とした患者さんだけが入って、スタッフもそれ専門のスタッフが勤務しているというような病棟になります。

**塩竈** そうなんですか。こちらはベッドの数というのはどのくらいになるのでしょうか。

**吉田** 40床です。

**塩竈** 現在も、入院患者さんの皆さんっていうのは、こちらの方をこう利用されている。

**吉田** そうです。

**塩竈** 大体どのくらいの人数でこう推移するものなのでしょうか。

**吉田** 現在、大体25人から30人くらいの入院患者さんで推移しております。大体7割前後の利用率です。

**塩竈** いろいろなその治療を終えた後に、この病棟にまた移っていただいて、その回復に向けてっていうところを、ここでいろいろリハビリっていうのを加えていくっていうところですね。

**吉田** そういうことになります。

**塩竈** これまでは千厩病院には、昨年7月から始まった回復リハビリ病棟ということで、以前はどちらのほうで、これは対応されていたものなのでしょうか。

**吉田** 大東病院にありまして、震災で大東病院の入院機能がストップしてしまいましたので、それに伴って千厩病院のほうに移管されたということになります。

**塩竈** そうなんですね。まあ、今後またリハビリのスタッフの方の数っていうのも、こういった専門的にリハビリを行う病棟ができ上がると充

実していくのかなと思うんですけども、伺いましたら、1年365日毎日そのリハビリっていうのをこう経験というか治療にあたることができるというふうになっている訳ですね

**吉田** そうです。リハビリは毎日継続することによって、その機能回復が効率的に行われますので、土曜日曜だ、お盆だ、正月だっていうので休めば、また逆戻りしてしまいますので、365日体制にやっとならから始まりました。

**塩竈** その地域それぞれに病院が持たれている役割というのがありますが、その千厩病院、地域の中では特にこの回復リハビリというところ、こういったところに力が入っている、そういった病院ということが伝わってきました。

**塩竈** さて、地域の皆さんが多く足を運ぶ、その拠点になる病院のひとつなわけですけども、子どもさんに向けての小児科外来の情報っていうのをですね、この「FMあすも」からもよくお伝えすることがあります。現在は、毎週水曜日の午後にこの小児科外来というのを受け付けているそうですね。

**吉田** はい、そうです。一昨年度までは磐井病院の小児科の先生が週1回いらしていただいていたんですが、昨年からは磐井の小児科のスタッフの数もかなり厳しいということでお休みになってたんですが、今年度からは毎週外来が再開しております。

**塩竈** そうですか、はい。じゃあこちらのほうも、取りあえずちょっと確認していただいて利用する場合は、こちらの日ですね、毎週水曜日の午後に小児科外来を行っているということです。それから先生、広報I-Style8月1日号を見ておりましたら、千厩病院で漢方外来というのが始まったという、そういった情報をお伺いしたんですけども。

**吉田** これは今月8月の19日から開設が始まるんですが、予定としては毎月第3火曜日の午前中ということで考えております。第1回が

8月19日火曜日からということになります。

**塩竈** それから先が毎月第3火曜の午前中に診療があるということですね。

**吉田** そうです。

**塩竈** こちらは漢方外来の専門の先生がいらっしゃる。

**吉田** 今、県立高田病院に勤務しております溝部先生という方なのですが、溝部先生は、久留米でお仕事されていたんですが、震災後、震災で被災された県のお手伝いをしたいということでいらしていただいて、今は高田病院の方で循環器内科漢方関係を診てくれているんですが、東京女子医大の方で漢方を勉強された方で、かなり東洋医学会の中では専門医でいらっしゃいますし。

**塩竈** こういった先端医療っていいですか、こういったものを残している病院というイメージで考えると、あの東洋医学っていうところを取り組んでいる病院っていうのは、すごく珍しいなあと感じて思ってしまうんですが。

**吉田** 県内では、県立病院では、漢方外来とうたっているところはなくて、千厩病院が今回初めてですね。

**塩竈** この東洋医学っていうところを合わせていくと、すごく良い効果っていうのか、最近では出てくるんでしょうか。

**吉田** なかなか西洋医学では解決が難しいような病態っていうのもありますので、東洋医学の方から光を当てると解決策が出てくるっていうようなこともありますので、そういったことを考えていました。

**塩竈** 長年、何かいろいろそういった治療に通っていらっしゃる皆さんの解決策が見えてくる可能性もありそうというのもそうですけれども、各それぞれの病院内の診療科からの紹介と

か、こういったものもあるんでしょうか。

**吉田** 各診療科でもなかなか解決できないまま抱えている病態問題っていうものもありますので、その辺も院内の診療科の先生に呼びかけて、この外来の日に合わせて紹介していただこうと思ってました。

**塩竈** 今日もお話を伺ってきましたけれども、地域の中でいろいろその役割分担っていうのも病院の中にもあって、それぞれの専門分野っていいですか、得意分野っていいですかね、こういったところっていうのが活かされていく、こういったものっていうのを効率的に組み合わせていくことで、地域の医療というのが、より効率的に良いものになっていくっていうのがすごく今日のお話しで伝わってまいりました。新たに漢方外来というのが8月19日火曜日から開設されます。毎月第3火曜日の午前中に診療があるということです。

**塩竈** 今日、この県立千厩病院で取り組んでいます、まずは救急医療の実態と回復リハビリ病棟について、さらに小児科外来についてと、新たに開かれる漢方外来についてお話しを伺ってきました。今日はスタジオに岩手県立千厩病院の吉田徹医院長にお越しいただきましてお話を伺いました。吉田院長、今日はどうもありがとうございました。

**吉田** どうもありがとうございました。



平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日：平成 26 年 8 月 20 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送：8 月 24 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 4 回放送 一関市病院事業 佐藤元美 管理者

(聞き手：FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** 一関市では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。この「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナー、医療機関や介護施設の役割、また、その利用方法などを、医療・介護・福祉の関係者とそして私たち市民が、ともに理解、協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** このコーナー第 2 シーズンに入ってきておまして、その第 2 シーズンではですね、各県立病院などの先生にお越しいただきまして、その病院が地域で持っている役割など、またそういった病院を効率的に利用するために私たちがどのような心がけをしたらいいのかなどについてアドバイスをいただいております。私たちも積極的に町の医療体制に関わっていくというのが理想になってくる、これからの社会はそれを目指していかなければならないというのが、このコーナーを通じて分かりかけているんですが、実は、この一関の中でもある地域では、こういった理想っていうところを、実は 20 年前から想定して、いろんな病院づくり、そして地域づくりに結びつけている場所というのがあるんですね。今日は国保藤沢病院の佐藤元美先生にお話を伺ってきました。

**塩竈** 今日は国保藤沢病院にやって来ました。私の隣には一関市病院事業管理者国保藤沢病院の佐藤元美先生にお越しいただきました。佐藤先生、よろしくお願ひいたします。

**佐藤** よろしくお願ひいたします。

**塩竈** まずは、この藤沢病院の現在の体制ですが、お医者さんの数、それから看護師さんの数ですとか、また診療体制について、先生教えてください。

**佐藤** 現在藤沢病院は、常勤医師が 6 名で、看護師が 37 名で診療しております。それで、毎日やっている診療科は、内科・外科・整形外科の 3 科になっております。

**塩竈** 先ほど病院内の方、歩きましたけれども、患者の方その地元の高齢の方も多いですし、それからバスでの送り迎えっていうのもされているんですね。

**佐藤** 全体として、入院患者さん外来患者さんともに背景の人口を反映して、高齢者の方が多いです。病院事業では、月曜日から金曜日まで毎日 2 ルート、2 つの路線で患者送迎バスを運営しています。

**塩竈** そうですか。また、地元の皆さんを迎える体制といいますか、多分、病院の皆さんでの手づくりの物だと思うんですけども、入口のところ、飾りがあつたりとかいろいろな物がありましたね。

**佐藤** 入口のところの七夕の飾りは看護科の皆さんが、今年頑張って飾りつけをしてくれました。四季折々に、院内が寂しくならないように様々な工夫をしてくれていると思います。

**塩竈** 病院の皆さんもこの藤沢病院を支えていく、その体制っていうところで、いろんな取

り組みをされているわけなんですけれども、実はこの国保藤沢病院というのは、本当に地元の皆さんによって作り上げられているといいですか、いろんな皆さんのそういった知恵が詰まっている病院というところを今日はご紹介していきたいと思います。まずは先生、この藤沢病院の特徴なんですけれども、昨年、この藤沢病院は開院して20周年を迎えたそうですね。

**佐藤** そうですね。平成5年に病院ができました、昨年で20周年を迎えることができました。

**塩竈** コンセプトといいますか、その藤沢病院の特徴というと、どういったところになるんでしょうか。

**佐藤** 藤沢病院の特徴は、病院ができるまでに25年間病院のない町で住民の皆さんが大変苦労したということで、そういった半生っていうか、苦難の歴史を背景に、できるだけ幅広く診療すると、それから午後も診療する、土曜日も診療する、救急は大体断らずに診るようになるというふうなことをモットーにしています。

**塩竈** なるほど。これをこう支えていく病院側の体制もそうですけれども、そういったところをこう維持していくために、住民の皆さんっていうのも積極的に、この病院には関わってらっしゃるんでしょうね。

**佐藤** そうですね。それが藤沢病院の大きな特徴のひとつというふうについて良いと思うんですけれども、藤沢病院は、もともとは、旧藤沢町が独自に運営する病院ということでスタートしましたので、岩手県に多数あります県立病院と違いまして、住民そのものが強い危機意識を持って病院をつくって支えていこうという考え方を反映した病院です。その関係で、病院と病院のスタッフと住民が、いろんな形で交流するチャンネルができています。一番定期的にやられていて古いものが、今まで20年間くらい継続しております「ナイトスクール」と言いまして、私たちが秋に藤沢町内の各地区を巡って地元の住民の皆さんと医療や介護のあり方について話

し合うというふうなことをやっております。

**塩竈** こういったところでは、住民の皆さんからは、例えばどういった声っていうのが出てくるんでしょうか。

**佐藤** 最初の頃の住民の皆さんからのご意見としては、私たちの病院にない診療科をつくってほしいとか、そういうふうなご意見が多かったんですけれども、その後、医療について次第にお互いこう勉強していく中で、どうやったら病院を維持できるのか、あるいは病院で働いている医師や看護師が何を望んで、何が一番辛い大変なことなのかっていうふうなことをお互いに話し合うようになりました。住民との話し合いの結果、始めたこともあるんですね。例えば、午前中に患者送迎バスを2台出しているんで、どうしても午前中に自分の足では来れない方が多く来ます。従って、待ち時間が長くなってしまいうんですね。長い待ち時間に対応するというで、午後の外来を始めたり、それから土曜日の外来をやるようになりました。それからバスに乗っても来ることが難しい人や、より重症な方については、かなり手広く訪問診療って言いますけど、定期的な医師や看護師が病院から出向いて行って、お家で治療を継続することができるような仕組みも拡大されたのは、住民との話し合いが大きな背景にあると思います。

**塩竈** 地元の皆さんの様々な知恵が集まることでより良い病院をこうつくっていくという、そのナイトスクールというひとつの形を通じて住民の皆さんが関わってくるという体制がひとつできています。それから人材を育成していく、この分野でも藤沢病院では取り組んでらっしゃるそうですが。

**佐藤** そうですね。現在、例えば、常勤医6名いますけど、その中で藤沢町の出身者1人だけです。一関市というふうに区切ってみるとそれでも2人だけなんです。この先ずっとその町外、市外、県外の人材によって私たちの病院を維持していくっていうことは、やっぱり不自然だし無理があると思います。ですから、若い

地元の中高生や小学生と病院が、もっと交流してですね、次の世代を育成したいということで、例えば、この数年間やっているものとしては、「ケアチャレンジスクール」っていうものがありまして、これは夏や冬もやったりするんですけども、1日間か2日間、中学生、高校生の方に集まっていただいて、将来自分がなりたい職種について実地に勉強したり、みんなで障がい者になった時の模擬的な体験をしたり、エキスパートの皆さんのお話を聞いたりというふうなことをやっております。

**塩齋** この他にもこの藤沢病院では「藤沢病院を支える会」という、こういった取り組みもあるそうなんです。

**佐藤** そうですね。私たちがナイトスクールで各地域をこう回って住民と話し合いをしている間に、住民の皆さんから、こんなに病院が仕事を終わって、夜に地域に出向いて住民と一緒に医療をつくりたいと言ってくれていることは非常にありがたいと、何か住民も病院を応援できる方法はないかっていうふうなご意見やご質問が出るようになりました。そういうふうなナイトスクールの場での議論の積み重ねから、平成21年に「藤沢病院を支える会」という会ができて、現在では22名の会員の皆さんがいて活発な活動をしています。例えば、新しく病院に先生が着任した場合に、その先生のご家族と交流をしたり、それから私たちのところで臨床研修医の研修も一部担当しているんですけど、研修医の研修報告会に皆さんで参加していただいたり、それから先週末あったんですけど、全国の医療者や学生を集めて住民と交流する医療の楽しさを実感してもらおうというそういう企画を「藤沢地域医療セミナー」という名前で開催しているんですが、そのセミナーを共催していただいて様々な応援をしていただいております。そういうことでですね、非常に支える会の活動は病院にとって大きな励みになっております。

**塩齋** 先生、全国的な病院とそれから地域の皆さんの関わり方っていうふうになると、どうし

ても、病院に対しては、住民の皆さんっていうのは、こうしてもらいたい、こうしてもらいたいとか、そういった要望ばかりこう出てくるっていうところが全国的には多いかと思うんですね。その中で住民の皆さんから、自ずとこの支える会っていうのが出てくるっていう、これは本当すばらしいことですよ。

**佐藤** 本当にありがたいことだと思いますね。そもそも、ナイトスクールを始めるきっかけになったのは、診察しなくても窓口で薬を出すよう簡便にして欲しいっていう住民の要望があったんですね。それは法律的にも医学的にも、とてもできることではなかったの、そういったことをご説明に地域に回って歩いたんですね。それがナイトスクールの始まりでしたけれども、その時に私よく言っていたことは、ナイトスクールの時には、ぜひ患者さんとしてではなくて病院をつくって育てる住民として考えて欲しいっていうことを、ずっとお話してお願いしてきました。20年間経ってそういったことが自然に住民の中に浸透して、病院っていうのは患者として利用する、あるいは家族が利用するそういうふうな場所だけじゃなくて、自分たちでつくって育てて大事にしていくもの、そして、さらに、自分たちの子どもや孫たちが将来そこで働く場所になるかもしれないところだっているように考え方が大きく変わってきたと思います。

**塩齋** 藤沢のですね、この病院なんですけれども、これまでの経緯を先ほど伺いましたんですけども、それまでにあった施設が、まずはこう連携して、ひとつのそういった医療体制をまずつくっていくところからスタートして、続いてはより生活に密着したという形で、その町民病院という形でこうやって設立されてきた。いろいろそういった医療の体制っていうのを、今お話を伺いましたとおりに住民の皆さんとともにこうやって歩んでつくり上げてきたっていうのが、本当に町の自慢だなというふうを感じるんですけども、これから先ですね、日本の中での医療もそうですし、一関もそうですけれども、いろんなところでのそのヒントっていう

のが、この病院の中にいっぱい詰まっているような感じがするんですね。その中で「地域包括ケアシステム」、ご当地システムっていうところをこう取り組まれている。この取り組みとこれからについて、先生教えてください。

**佐藤** 「地域包括ケアシステム」っていう言葉自体は、もう20年以上の歴史のある言葉なんです。この数年間、厚生労働省が、全国で急増する高齢者に対する対策として、今までと少し変えて医療と介護がもっと連携して、さらに医療や介護の公的なサービスだけでなく、非公的なインフォーマルって言いますけれども、身近な地域や家庭の支えっていうものも充てにしながら、これから急増していく高齢者が困らないような社会をつくろうということで、厚生労働省が盛んに提唱しているものです。私たちが今やっている地域包括ケアの仕組みは、国民健康保険診療施設協議会というところの大先輩の広島のみつぎ病院で、今から35年位前から寝たきりゼロ作戦っていうことで始まったものなんです。つまり、病気が治って退院したら、後は病院では関心を持たないっていうふうにして、意外と簡単に寝たきりになってしまう。それで、それをどうやったら寝たきりをゼロにできるかということで、医療を一生懸命やるだけでなく、医療が終わった後に、医療と介護がヘルパーさんと医師とか、あるいは訪問看護師とかそういう人たちが、ずっとこのお家に帰った後もフォローし続けることによって、ようやく治った病気がもう一度悪くなったり、寝たきりにならなうようにする、そういう実践に基づいたものです。私たちのところでもそれを大きな考え方の基礎として実践しているわけですが、藤沢では病院だけじゃなくて病院事業という名前で老人施設とか訪問看護ステーションを一体的に運営することによって、より一層その地域包括ケアの理想の姿に近いことができやすい環境にあると思います。より生活に近いところ、より家庭に近いところと医療がお互いに理解し合うことによって、本当に少ない医療資源ですけれども、そのことが大勢の住民の役に立つものにしていけるとそういうふうに思っています。そのためにはですね、やっぱり

病院の中にと暮らして見えないので、私たちが住民の中に行く、あるいは家庭訪問して実際のお宅の生活を見る、そういうふうにして、僕らが積極的に住民の気持ちや住民の生活の実態を知りたいっていう気持ちで行動することによって、医療の内容や看護の内容をより地域にとって役に立つものに変えていけるといふふうに思っています。そうした考え方の大きな転換を私たちの病院事業では地域包括ケアシステムっていうふうと呼ぶようにしています。

**塩竈** 藤沢病院のその体制、また特徴を、そして全国の中でも、もしかしたら、そこを注目して藤沢病院に研修にいらっしゃる病院の方か今多いですね。

**佐藤** そうですね。地方議会の議員の皆さんとか病院のスタッフ、病院をお持ちの市町村の担当部局の皆さんとか、年間大勢の方が視察に来て、地域の医療とか地域の医療と介護の運営とかっていうことについてヒントを探しにいただいています。

**塩竈** 病院ひとつ、その全体をこう見た時のその診療体制とか、それから住民の皆さんの安心感が確立されているっていうところが、まず見えるんですけれども、それに加えて、住民の皆さんが積極的に関わって、その医療体制をしつかりつくっていかうと、それから、その体制だけではなくて、これからより良いものをこう求めていかうところを、みんなの知恵でつくり上げていく、まさに本当に医療文化と言いますか、そういったものを先進的に取り組んでいるところなんだなと今日は感じました。

**佐藤** 医療文化とも呼べるし、あるいは、医療も含めた本当に豊かな生活を考える文化って言っても良いと思いますね。

**塩竈** 今日の「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナー、今日は国保藤沢病院におじゃまいたしまして、一関市病院事業管理者の佐藤元美先生にお話を伺ってきました。佐藤先生、素敵なお話どうもありがとうございます。

ました。

**佐藤** どうもありがとうございました。

**塩竈** いろいろな人の知恵、知識、経験、それが詰まってできあがっている町の病院。医療的にもシンボルな感じがしますけれども、地域づくり、人育て、いろいろなもののシンボリック存在なんだなというのを国保藤沢病院に行ってお話を聞いて、ひしひしと感ずることができました。藤沢地域も加わって8つの地域で成り立っているこの一関の町ですけれども、これまでも「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーでは、安心して生活していくための医療体制、どのように作っていったらいいんだろうか、そこに私たちはどう関わっていったらいいのだろうかというところを考えてきましたが、同じ町の地域の中でそれを取り組んで形にしているところがあるんですね。藤沢の皆さんと同じ町の一員になれてすごく幸せだなと感じたそんなひと時でした。

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」一関では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーでは、医療機関や介護施設の役割、また、利用方法を、医療・介護・福祉の関係者とそして私たち市民が、ともに理解、協力していくことを目的にお送りしています。地域医療体制の充実のため、私たちも積極的に医療体制づくり、さらに地域づくり、人づくり、いろいろな方面にしっかりと関わっていきたいものです。このコーナーは、一関市健康づくり課の提供でお送りしました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日: 平成 26 年 9 月 10 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送: 9 月 14 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」

第 5 回放送 岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センター

加藤博孝 センター長

(聞き手: FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** 一関市では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。この「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナー、医療機関や介護施設の役割、利用方法を、医療・介護・福祉の関係者と私たち市民が、ともに理解、協力する、これを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** さて、今日お送りする地域医療のコーナーなのですが、以前登場いただきました県立磐井病院の院長先生、加藤博孝先生です。加藤先生は磐井病院の院長先生だけではなく、岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センターのセンター長でもいらっしゃるんですね。特に、花泉地域の皆さんには親しまれている診療センターなわけなんですけれども、この診療センターの在り方ですとか、それから現状こういったところを今日はお話を伺っています。

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーです。今日は、スタジオに岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センターのセンター長、加藤博孝先生にお越しいただきました。加藤先生、よろしくお願ひします。

**加藤** よろしくお願ひします。

**塩竈** 加藤先生には、実は、先日もこのコーナーに登場していただきました。県立磐井病院の院長先生でいらっしゃいまして、磐井病院が今この地元で置かれている役割ですとか、こういったところをお話を伺いました。さて加藤先生、今日はですね、花泉地域診療センター、

こちらの取り組みについていろいろお話を伺っていきたくと思うんですけども、地域診療センターという名前が診療が始まったのはいつからになるんでしょうか。

**加藤** 2 年前の 4 月です。

**塩竈** 平成 24 年の 4 月ということですね。

**加藤** はい。

**塩竈** 磐井病院附属ということですので、磐井病院といろいろこう連携しながら地域医療を進めていくということですね。

**加藤** はい。

**塩竈** この診療センターの理念というところから、先生聞かせて下さい。

**加藤** 「皆さまに信頼される地域医療に努めます」を基本理念に、地域に根差し安心感を与えることができるセンターであるように心がけております。

**塩竈** 一関市内の中でも花泉地域の皆さんからすると、本当に拠りどころと言いますか、そういった思いでいらっしゃる方々が多いと思いますが、勤務されているお医者さんの数は先生どんな感じですか。

**加藤** 常勤医は 2 名で、内科 1 名、外科 1 名の 2 名です。外科に今日からですね、常勤医が赴任しました。

**塩竈** 9月1日から赴任ということですね。この他に看護師さんの数などはどうなんでしょうか。

**加藤** 看護師は3名、放射線技師が1名、検査技師1名、事務3名、あと窓口職員4名です。

**塩竈** 地域の医療というのを担っていらっしゃるセンターなんですけれども、診療している科は、どういった科があるんでしょうか。

**加藤** 内科、外科、脳神経外科の3科です。

**塩竈** 診療時間のほうを教えてください。

**加藤** 内科は、月から金の午前と木曜以外の午後、外科は、月から木の午前と午後となっております。

**塩竈** 先生お伺いしましたら、禁煙外来というのをこの地域診療センターでは取り組んでいらっしゃるそうですね。

**加藤** 磐井病院でも禁煙外来をやっていますが、禁煙外来を行っておりますので、禁煙に取り組みたい方はぜひ受診してください。

**塩竈** なるほど、受診する方の数っていうのは結構多かったりするんでしょうか。

**加藤** いや、花泉地区はまだ少ないですね。

**塩竈** そうですか。全国規模でも最初禁煙外来って生まれた時っていうのは、本当にすごく珍しいような感じとと思っていましたけれども、だいぶ全国でも定着した感じありますね。この他にも内科、外科ともに訪問診療っていうのに対応されているそうですね。

**加藤** 以前は30件位やっていたんですけど、最近少なくなっております、ぜひ訪問診療を希望される方は申し込んでいただければと思います。

**塩竈** さらに、脳神経外科、こちらのほうも、このセンターでは受け付けているということなんですが。

**加藤** 脳神経外科は非常勤で、毎週火曜日と金曜日の午後の診察です。頭痛外来、物忘れ外来の特殊外来も行っています。

**塩竈** こちらも先ほどの禁煙外来と同じような形ですね、そんなにこう耳馴染みのある言葉ではないかと思うんですが、頭痛外来というとうどういった感じの診療なんですか。

**加藤** 頭痛は結構専門性が高い診療科なんです。診断も難しいし、薬物治療も難しいので、専門医の脳外科医が診察しておりますので、ぜひいらしていただければと思います。

**塩竈** この他にも物忘れ外来、こちらはとういった内容でしょうか。

**加藤** 認知症絡みなんですけど、物忘れの状態をチェックしてですね、物忘れは年齢に伴うものなので、専門医が診て必要に応じて薬物療法なんかも行っています。

**塩竈** この今日ご紹介しています磐井病院附属の花泉地域診療センターということなんですけれども、先生、他のセンターに比べて花泉地域診療センターの特色というとうどういったところがあるでしょうか。

**加藤** 外科の診療も行っているっていうことと、あと健康診断も対応するようにして、特定健診も始めています。あとインフルエンザの予防接種なんかも行っておりますので、広報等でご案内しますのでぜひ受診していただければと思います。

**塩竈** 平成24年の4月から県立医療機関として、磐井病院附属花泉地域診療センター、この名前で診療があるということなんですけれども、先生前回お越しいただいた時にはですね、県立磐井病院が地域医療の中で置かれている役割で

あったりとか、こういったところをお伺いしました。県立磐井病院というのは、割とその重症であったりとか、それから急性の疾患であったりとか、こういったところに対応していくというお話しを以前は何ったんですけれども、今回のこの花泉地域診療センターですね、これは地域医療の中でこういったポジションで取り組みされている病院になるんでしょうか。

**加藤** 磐井病院の附属センターということもあってですね、磐井病院で急性期の治療を終わった患者さんは、次の利便も考慮して花泉地区の方ですね、花泉地域診療センターへ紹介します。また逆にですね、花泉診療センターに通院されている方で、特殊な検査や専門的な治療が必要になった場合は磐井病院へ紹介することもあります。

**塩竈** まずは初診でこの地域診療センターにかかって、より専門的なものが必要になった時には、県立磐井病院の方にお出かけになる方もいらっしゃる、また、その逆のパターンですね、回復期ですとかこういった時には、こういった附属センターの方にまたいらっしゃる方っていうのも多くなってますね。検査ですとか医療機器とか、こういった設備の面ではどういった充実ぶりなんですか。

**加藤** 検査技師が常勤でおりますので、検体検査、まあ血液検査ですね、数時間で検査結果をお伝えすることができます。あと腹部超音波検査や体表のエコー検査ですね、超音波検査も実施しております。あとCTがありますので、これも利用していただければいいと思うんですけど、CTに関しては設備を開放してて開業医の先生方にも利用していただいております。

**塩竈** このコーナーでは、加藤先生は2回目の登場ということになりまして、前回先ほども言いましたけれども、出演していただいた時には、その磐井病院が置かれている役割、今日はまた花泉地域診療センターそれぞれのその役割っていうものをお伺いしましたけれども、いろいろな2つのパターンのそれぞれのトップでもい

らっしゃるわけですね。それぞれの医療機関っていうのをみて、やっぱりここはこういったところで大事だなというところは、まさに今一番実感されているところかと思うんですけれども。

**加藤** そうですね。ある程度軽症の人は地域で診るっていうのが基本だと思うんですね。特殊な治療とか専門性の高い治療は磐井病院に来ていただいて、そういう役割分担でいくのが良いかなと思っております。

**塩竈** 花泉地域診療センター、場所なんですけど、花泉駅から歩いて5分ということですが、花泉支所の近くっていうふうに捉えていいですかね。この他にセンターをされていて先生から、こういった特色があるとか、地域の皆さんからはこんなふうにご利用されているなって実感されていることは何かありますか。

**加藤** ちょっと分かりにくい場所にあるんですけど、交通の便は良い所なので、気軽に受診していただければと思います。ただ、予約制になっておりますので、そこは気を付けていただければと思います。

**塩竈** それぞれの診療科、先ほどご紹介しました。受付の時間が、朝8時30分から11時30分までと、午後は1時30分から夕方4時までとなっています。1回いらしていただいて、その後、再来で受診される場合には予約をいただくっていう、そういう感じになりますね。いろいろ地域から求められている医療体制っていうものがありますけれども、まずはそれぞれのその皆さんのお住まいの地域、今日は特に花泉地域の皆さんに、より親しく利用していただいている医療機関だと思います、岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センターの今日は診療センター長、加藤博孝先生にお越しいただきましてお話しを伺いました。加藤先生、ありがとうございました。

**加藤** どうも、ありがとうございました。



**塩竈** 加藤先生は番組の中でも紹介したように県立磐井病院の院長先生ということで、以前出ていただいた時には、地域の拠点といいますか、急性期医療ですとか、それから重症の皆さんを受け入れるそういった病院としての視点の話も伺いました。今回は、この病院に所属している形の花泉地域診療センター長。それぞれの地域の皆さんとそれから総合病院がどういふふうに関わっていくのか、いろいろな視点からご覧になっている先生ですので、その先生が感じるところとか、こういうふうに関係機関というのが連携していく、そこに私たちがどのように関わっていくのが大事なのかというのが大変よく伝わってきました。

**塩竈** 一関では、高齢化がご存じのとおり大変進んでいますよね。住み慣れている地域で安心して暮らしていく、これが私たちの願いでもあります。そのために医療から介護への切れ目ないサービスというのを目指して、市でも取り組んでいるところです。このコーナーでは、医療機関、また、介護施設がそれぞれ持たれている役割、それをうまく利用していく活用の方法などを、私たち市民とそして医療・介護・福祉の関係者の皆さんともに理解して協力していくこれを目的にしてお送りしています。地域医療体制を充実させるため、聞いている私たちも積極的にこういった医療の利用の仕方を工夫するというのももちろんですし、いろいろな形で積極的に関わるのが大事だなと感じます。2週間に1回お送りしている「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナー。このコーナーは、一関市健康づくり課の提供でお送りしました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日：平成 26 年 9 月 24 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送：9 月 28 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」

第 6 回放送 一関在宅緩和支援ネットワーク(アイザック I Z A K) 佐藤隆次 会長

(聞き手：FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** 一関市では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーでは、医療機関や介護施設それぞれの持たれている役割、利用方法を医療・介護・福祉の関係者とそして私たち市民が、ともに理解、協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** さて、今日お話しを伺いますのは、一関在宅緩和支援ネットワーク I Z A K というグループがあるんですが、その会長も務めていらっしゃるんですよ、さらに一関病院の理事長兼病院長の佐藤隆次先生に様々なお話しを伺いました。

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」のコーナーです。今日は、スタジオに特定医療法人博愛会一関病院理事長兼病院長、さらに一関在宅緩和支援ネットワーク I Z A K の会長でもいらっしゃいます佐藤隆次先生にお越しいただきました。佐藤先生、よろしくお願ひします。

**佐藤** よろしくお願ひいたします。

**塩竈** 隆次先生には、スタジオによくお越しいただきまして、リレー・フォー・ライフ・ジャパンいわての取り組みについていろいろお話しを伺ったりします。今日はこれ収録なんですけれども、収録後に、いよいよこのリレー・フォー・ライフ・ジャパンいわての今年のイベントがありまして、今放送されている頃にはですね、終わってところなんですけどね。

**佐藤** そうですね。

**塩竈** 先生、このリレー・フォー・ライフ・ジャパンいわてで取組まれたきっかけっていうところから、今日はちょっと聞いていきましょか。

**佐藤** 取組んだきっかけっていうのは、自分が関わっていたがん患者さんと病院では診ることが多いんですけども、でも、やっぱり生活していく中で、どうやってその患者さんを支えていくことができるのかなって考えて、でも何もできないでいた自分がいた時に、芦屋(兵庫県)で 2007 年にやられたリレー・フォー・ライフの映像を観て、これだと、自分がやらなきゃならないのは、こういうことなんだというのを気づかされて、実現するまで数年かかりましたけれど。

**塩竈** 多くの皆さんの支えというのがあって、この一関の地でもね、もう恒例のイベントと言いますか、皆に認知されるほど、多くの皆さんに支えていただいているイベントです。参加されている方にお話しを聞いたりするんですけども、何か勇気を分けてもらったりとか、それから次に向けてね、私もこう頑張っていくっていうその一歩を踏み出すことができたなんていうね、そういった一言をこういただけると、病気の治療っていうところをひとりだけではなくって誰かこう仲間がいるんだなあというところと、それをこう実感するってのはすごく大事なんだなあっていうのを感じるんですよ。

**佐藤** まったく、そのとおりですよ。仲間がいる、ひとりじゃないんだって思えばいいの

かなって思っています。

**塩竈** 様々なその医療を進めていくに当たって、そういった先生とそれから患者さん自身、いろいろ手を組んで病気に立ち向かっていくっていうのが、すごく大事だになっていうのを先生とお会いするたびにいろいろ教えていただくような感じがいたします。先生は一関病院の理事長兼病院長でいらっしゃるんですけども、先生は、専門はどういった分野の先生になるんでしょうか

**佐藤** 緩和医療科として活動していますけど、緩和ケア、緩和医療っていうのが最近よく出てくると思うんですけども、その人の全体を診るというか、その人の生活を支える、そういった医療と考えています。

**塩竈** そうなんですか。緩和医療、よく聞きますよね。一関病院にもありますし、それから県立磐井病院にも緩和医療科という、この緩和医療科という科自体は、結構昔からずっとあるものなんですか。

**佐藤** 古くはあるんですけど、東北の方に根付き始めたのは、最近ですかね。

**塩竈** こういった緩和医療に携わっている皆さん、それから支援されている方々というのが、ネットワークというのを組みましてIZAKというネットワークを構築しているということで、その会長でもあるのが、佐藤先生ということですね。

**佐藤** 言い出しっぺだったというのがあるんですけど。

**塩竈** まずは、その一関在宅緩和支援ネットワーク、どういった感じのネットワークなのかご紹介からお願いいたします。

**佐藤** 私、一関に来たのが平成 17 年だったんですけど、何とか緩和医療について地域のお手伝いできないかっていう発想から始まって、同

業の先生方とかいろいろな人たちに声を掛けて、平成 19 年の 3 月に今の一関在宅緩和支援ネットワークを最初に立ち上げたというか、そういった経緯で、まあ 7 年経ちますね、それから。

**塩竈** 関わっていらっしゃるのはこの一関地域の医療関係の皆さんと、訪問介護ステーション、調剤薬局、また介護支援をされている事業所さん、それから保健行政課、いろんな皆さんでこれが構築されているということですね。

**佐藤** そうですね。

**塩竈** 在宅緩和、在宅緩和ケアとかね、こういった言葉もよく聞くんですけども、在宅緩和ケアというのは一体どういうものなのか、ここから、では教えて下さい。

**佐藤** 緩和ケアっていうそのものが、パリアティブケアとか、語源をたどるとラテン語になるんだそうですけども、実は、雨とか寒さとか露から身体を守ってくれるものが最初の語源っていうか、身体を要するに暖かく包んでくれるものっていうのが緩和ケアの語源になっていると聞きます。

**塩竈** そうなんですか。寒さの時に、こう毛布を掛けてもらうとか、そういった感じの何か気持ちがかう緩やかになってくるような。字もこう緩やかっていうのと、それから和むっていうので緩和ですもんね。これが医療のところにかかされていくと、これが在宅緩和ケアなんていう言葉が出てくるんですね。

**佐藤** 在宅緩和ケアっていうのは、本来、どの場面でもというか、その病院であっても、緩和ケア病棟、ホスピスとか言うんですけども、あと在宅、施設そういった所で同じく質の高いケアを提供しましょうというのが本来の考え方なんですけれども、在宅と付けたのは、家に帰って最後の時を過ごしたいなあとか、家族さんが家で過ごさせてあげたいなあっていう時に、それをお手伝いできればなあということで在宅緩和ケアという名前を付けました。

**塩竈** なるほど。これをこう行っていくには、もちろん医療関係の皆さんのそういった技術っていうのも必要ですし、また、看護される側の皆さんの取り組みがあるかと思うんですけども、緩和医療っていうのは、例えば病気だとね、その痛みがあったりとか、こういったものっていうのを柔らかくしてあげると言いますか。

**佐藤** 医者だけではできないものではないし、一つの職種でできるものではなくって、いろんな職種が組み合わさって、スクラムを組んでこそ初めて成り立つものだと思いますし、本当に家で過ごされてるその表情とか見ると、すごく良いなあって思えるところが、まあまあありますしね、医者でない職種の方、看護師さんとか、入浴サービスとか、お薬の説明に行く人たち、薬剤師さんですね、そういう人たちにも、また特別の笑顔を見せてくれると聞いております。

**塩竈** 地域でこう連携してそういったネットワークを作っていく、これが一関だけではなく、いろんなところで取り組まれているところですが、特にこの一関では、この地域連携はどういった特徴があるのでしょうか。

**佐藤** リレー・フォー・ライフでもそうなんですけれども、行政の方々も一緒にやってくれてるっていうのもありますね。そういうところは、すごくありがたく思っています。

**塩竈** 先生、緩和医療を長くされている先生なんですけれども、その医療自体なんですけどね、例えば、がんの患者さんであったりとか、それ以外の病気もいろいろあるかと思うんですが、どのような医療っていうのが施されていくのか具体的にちょっといろいろと教えていただいてもいいですか

**佐藤** 基本的には緩和ケアの場合は、例えば、がんを持っている患者さんいるんですけども、がんを治すのも医学ですし、がんを持って生活しているその人を支えるっていうのが、緩和ケアの基本的な考えなので、とにかくその人がそ

の人らしく暮らしが継続できるような形で支えていくということになります。

**塩竈** なるほど。あのパッとその医療という言葉がついて聞いていると、どのような薬を与えるのかなとか、どのように休んでいただくのかなというところばかり目が行きがちなんですけれども、そのベースになるのはやっぱりそれぞれの生活であったりとか、家庭の環境であったりとかいろいろあるかと思いますので、そこも含めていろいろトータルで診ていくのが、この緩和医療の大事なところなんですね。

**佐藤** とにかくにも、身体症状は取らなきゃない、例えばもう痛みがあればその人でなくなっちゃいますので、痛みとか、身体的な痛みとか、心のほうの痛みとか、そういったのが取れるような関わり方をしていくと、その上で生活を支えるっていうか。

**塩竈** 病院でその医療が施される場合もありますし、今お話しありました、在宅であればなおさら家庭の皆さんと、そういった繋がりがっていうのも、とても大事になってくるってお話がありましたけれども、どうでしょう、その病院での緩和ケアとそれから在宅での緩和ケアっていう、それぞれ特徴っていうのがいろいろあるかと思うんですけど、特に在宅で診てらっしゃるところをこれまでご覧になって、先生どんなふうにお感じになっておりますか。

**佐藤** 本当に病院ですと、私のところは一般病院なんで、本当に味気のない病室で毎日単調な形で時を過ごしていくっていう印象があるんですけど、在宅に行くとどうとですね、根本的に違うのは、医者じゃないんですね。客人なんです。私がゲストなんです。そんな中でホストの患者さんが「お茶っこ飲んでいかいん」とか、そういったので、全く立場が違うのと、家の様子を見ると、その人の生活、歴史、その人の今まで生きてきた、そういった様子が伺われますね。そういう意味では、すごく我々にとっては、もう新鮮っていうか。

**塩竈** その患者さんご自身もその自分らしいその生き方であったりとかっていうところを、すごく家庭の中でも実感されていて、病気に立ち向かっていく、先ほどそのリレー・フォー・ライフ・ジャパンの話もありましたけれども、ひとりではなくって家族、それからお家にやって来てくれるお先生も含めてですけど、地域と一緒に頑張ってるんだっていうところ、そういった気持ちがより高まってくるんでしょうね。

**佐藤** やっぱり地域でというところが、すごく大事なところかなと。

**塩竈** 一関在宅緩和支援ネットワーク I Z A K、ここが中心になりまして、こういった皆さんが、家庭でそのような医療を受けたりとか、それからちょっと痛みをこう和らげたりとか、いろんなそういった病気に立ち向かうっていうところをこう支援されているっていうことで、現在では医療関係者だけではなく、様々な機関等がお互いに協力しながら活動しあっているっていうことです。こういうふうにラジオでこの緩和医療の現状っていうのを皆さんに知っていただくっていうのもそうですけれども、先生は各地にいろいろこう出かけまして、講演会、シンポジウムとかいろいろこうされていますね。

**佐藤** そうですね。出前勉強会とかもやらせてもらっています。

**塩竈** いらっしゃる皆さんっていうのは、まさにこれからね、その介護であったりとか、それから今は違うけれども、ご家族がそういった病気になった場合にはっていう勉強される方もいらっしゃるでしょうし、まさに今、当事者って方もいらっしゃるでしょうしね。

**佐藤** 本当にそうだと思います。看取る側で、そのうち、また看取られる側になるっていうのもありますしね。

**塩竈** いろいろこれまでの先生もその治療っていう最前線でお仕事をされてきてまして、その中で、その患者さんとの向き合っていく姿で

あったりとか、いろんなもの、また、その地域全体のその医療っていうのを豊かにしていくっていうお仕事を今されているっていうのが、こちらに伝わってまいりました。これから先のその普及活動ですとか、いろんなもの取り込まれるとのことなんですけれども、こういった出前勉強会ですとか、こういったのは先生にお願いしましたら引き受けていただけるものなんでしょうか。

**佐藤** いつでも言っていただければ出ていきますんで。本当にいろんな職種がタックを組んでいるっていうか、スクラムを組んでいますけれども、我々に恵まれているのは、行政の理解があるってことがありますね。本当に感謝しています。顔の見える関係ということで今までやってきましたけど、今度は、どこそこの誰それさん、この人の病気はこうなんで、家族相手がこんなだからっていうことで、互いに組むのが顔の見える関係から相手が分かる関係に、そういったところにき始めているなあというのが、今感じています。

**塩竈** このコーナーの中でも、いろんな形でその医療ですとか、その地域、引いては地域づくりに繋がっていくんでしょうけれども、いろいろここに繋がっていく私たち自身もそこに関わっていくっていうのを番組でもお知らせしているんですが、こういった講演会、それから出前勉強会も含めて、いろいろこの学ぶ機会っていうのを多く設けて、私たち自身がこの街を豊かにしていくために関わっているんだっていうところをあらためて実感してもらえたらいいなと思います。一関在宅緩和支援ネットワーク事務局は、磐井病院地域医療福祉連携室、こちらの中にあるということです。問い合わせの番号は23-3452番となっています。今日はスタジオに特定医療法人博愛会一関病院理事長兼病院長、さらに一関在宅緩和支援ネットワーク I Z A K の会長でもいらっしゃいます、佐藤隆次先生にお越しいただきました。佐藤先生、ありがとうございました。

**佐藤** 今日はどうもありがとうございました。

**塩竈** 一関市では高齢化が進んでいます。住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療から介護への切れ目ないサービスを今も先生の話しかからありましたけれど、医療機関、介護機関だけではなくて行政側もそのサービスを充実させるためにいろいろな取り組みというものを実は率先して行っているんですね。このコーナーでは、さまざまな医療機関、また、介護施設が持っている役割、それから今日先生が取り組まれている一関在宅緩和支援ネットワーク、こういったグループでの取り組み、また、利用方法などを私たちがともに理解協力していくこれを目的にしてお送りしています。地域医療体制の充実のため、私たちも積極的にこのような取り組みに関わっていきましょう。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」。このコーナーは、一関市健康づくり課の提供でお送りしました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日：平成 26 年 10 月 8 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送：10 月 12 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」  
第7 回放送 一関西部居宅介護支援事業所協議会 氏家健司 会長

(聞き手：FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」一関では高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーでは、医療機関や介護施設の役割、またその利用方法など、医療、介護、福祉の関係者と市民が共に理解協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」のコーナーです。今日スタジオにお越しいただきましたのは、一関西部居宅介護支援事業所協議会の氏家健司会長にお越しいただきました。氏家さん、よろしくお願ひします。

**氏家** よろしくお願ひします。

**塩竈** 氏家さんは、花泉にあります在宅介護支援センター「華松苑」に勤務をされていらっしゃいます。さて氏家さん、会長を務めていらっしゃいます、この「一関西部居宅介護支援事業所協議会」、まずはこれはどういった協議会なのか教えてください。

**氏家** 平成 19 年に発足しました会で、会員は、旧一関市、旧花泉町並びに平泉町の「居宅介護支援事業所」、「地域包括支援センター」、「小規模多機能型居宅介護支援事業所」を会員としております。

**塩竈** なるほど。介護というところをこう聞くと、今出てきたような施設の名前がよく出てくるんですけれども、まず氏家さん、「居宅介護支援事業所」というのは、一体どういった施設に

なるのでしょうか。

**氏家** 「居宅介護支援事業所」というのはですね、ケアマネジャー（介護支援専門員）が、居宅介護サービス計画、良く言われるケアプランを作成しまして、その計画に基づいて介護サービスの提供が確保されるように、いろいろなデイサービスであったり、ヘルパーさんなどのサービス事業所との連絡調整を行っております。在宅介護サービスを受けている要介護認定者やその家族からいろいろな相談などを受けた場合には、説明の提言なども行っております。

**塩竈** なるほど。自宅でそういった介護っていうところに、これから取り組んでいこうっていう方が、まずいろいろな相談する場所っていうふうに捉えたら良いのでしょうか。

**氏家** そうですね。

**塩竈** さらに、「地域包括支援センター」、これはどういったものなのでしょうか。

**氏家** 地域包括支援センターと言いますか、この一関地域では「高齢者総合相談センター」とも言ひまして、介護保険の法律で定められました地域住民の保健、福祉、医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関です。一関市内では、東も含めまして、一関市役所と千厩支所の中に包括支援センターがありまして、あとその他ですね、平泉、花泉、渋民、藤沢に高齢者総合相談センターがございます。

**塩竈** こういった今ご紹介いただきました地域包括支援センター、さらに先ほど紹介していただきました居宅介護支援事業所、この他にも小規模多機能型居宅介護事業所、いろいろ皆さんが会員になっているということですね。この会員の皆さんとの連絡、調整を行うのが、この介護支援事業所協議会ということですね。主な活動なんですけれども、氏家さん、こういった活動があるんでしょうか。

**氏家** 主な活動としましては、年に2回から3回研修会を通じまして介護支援専門員のスキルアップを図っておりますし、あとは、介護支援専門員相互の連携強化と関係機関とですね「顔の見える関係の構築」などを行っております。

**塩竈** 今、お話いただきましたこの会員事業所の中には、居宅介護支援事業所、それから地域包括支援センターというのがあるっていうふうにご紹介しました。もう1つ今話に出たのが、「小規模多機能型居宅介護事業所」というものですね。これは一体どういうものなんでしょうか。

**氏家** こちらはですね、小規模な住宅型施設への「通い」を中心に、自宅に来てもらう「訪問」のヘルパーさんに来てもらうってことですね。あとは「施設」に泊まるサービスを提供しております。こちらの施設にも介護支援専門員が配置されておましてサービスの調整を行っております。

**塩竈** このような取り組みというのが、その町の中で、いろんなその行政も含めて、それから介護の事業所の皆さんっていうのが集まって、より良いサービスを皆さんに受けていただけるように、また、効率的にそういったものが動いていくようにという、そういった調整をされているということです。氏家さんは、ケアマネジャーというお仕事なんだそうですけれども、介護支援専門員っていうふうには呼ばれる訳ですよ。

**氏家** はい。

**塩竈** ケアマネジャーというのは、一体どういった人なのかっていうのを、あらためて教えてくださいいただけますか。

**氏家** ケアマネジャーっていうのはですね、要支援とか要介護の認定を受けた人からの相談を受けまして、先ほども話しましたケアプランを作成しまして、介護サービス事業所との連絡調整を行っております。あと、利用希望者や家族がどのような介護サービスを希望するか、まず面接を行いまして、その後にアセスメント、あとは最後にプランを作りまして、その後は定期的なモニタリングを行いまして、介護者の状況に合わせてまた計画を立て直していきます。

**塩竈** なるほど。今まさに介護というところに直面している世代の方と、それから、これから将来そういったところに、たぶん向き合っていくだろうという世代の方がいらっしゃると思うんですね。後者の場合は、まずはどういった所に相談して良いのかっていう、そこからもう全く分からないって方が多いかと思うんですけれども、そういった世代の方からすると、その介護っていうところにいざ将来直面した時には、このケアマネジャーさんと向かい合うってことがまず多くなるんでしょうか。

**氏家** そうですね。

**塩竈** 一番最初っていうのは、どういった相談というのをお受けになったりすることっていうのが多いですか。

**氏家** 一番多いのは、やはり自分の親が病院に入院したが、家で介護できないということで、どのように今後介護していけば良いかっていう相談が一番多いです。

**塩竈** そうですか。そういった皆さんからのお話を聞くところから、様々なプランニングに繋がっていくわけですね。最初が面接からスタート、さらに介護サービスが必要かどうかをまずはその査定するところから始まっていく、さらにプランニングに繋がっていく。それぞれ



やっぱり当事者の方もそうですし、家族の皆さんとのその話し合いをより深くしていくっていうのがすごく大事なんですね。

**氏家** そうですね。

**塩竈** その仕事に取り組まれるに当たって、氏家さん、心掛けていらっしゃる何かありますか。

**氏家** まずは傾聴ですね。よくご利用者さん、ご家族の話をまず聞くということが、まずは一番大事だと思います。

**塩竈** そうなんですね。このプランニングっていうのが始まりまして、その後に様々なサービスを利用していただく、場所であったりとか、それから具体的にどういったものやっっていくかっていう、その介護にいいよ入っていくってことですね。その介護サービスが上手く動いているかどうかというところをチェックするという役割も介護支援専門員の方の役割の1つなんですね。

**氏家** そうです。

**塩竈** 今、一関の辺りです。氏家さんが一関西部居宅介護支援事業所協議会の会長を務めていらっしゃるんですけども、身近な所ではこのケアプランを作ったりとかする介護支援専門員の皆さんっていうのは、大体どのくらいの人数になるんでしょう。

**氏家** 当会では、会員事業所は29事業所ございます。その他、包括支援センターが2事業所、在宅介護支援センターと呼ばれるものを併設されている事業所が12か所、小規模型多機能事業所が2か所ございます。大体総勢約100名前後のケアマネジャーさんが在籍しております。

**塩竈** そうなんですね。ケアマネジャーさんの人数もそうですし、それから様々なその事業所があったりとかっていうことなんですけども、よりこの質の高いサービスを提供していくに当

たって、やっぱりその地域ごとにその特性って言いますか、こういったものもきっとあるんでしょうね。あの、一関のだから、特に介護っていうところで見ると、こういった特徴的なものがあると気付くところってありますか。

**氏家** 問題となっているところは、やはり老老介護、ご老人のご夫婦での介護、あとは独り暮らしの高齢者、または、その独り暮らしなんですけど認知症になっている方が1人で自宅で生活されているっていうことが、それに対しての支援っていうことが1つの問題となっております。

**塩竈** こういった協議会で取り組まれている皆さんというのは、その地域の特性もそうですし、それからそこに秘められているその問題点と言いますか、いろいろ抱えているところというのはよく見えているかと思えますけれども、こういったものというのをまた実際にその介護っていうところだったら、家族の皆さんであったりとか、地域の皆さんというのが事前にいろんな情報を知っておくってのは、やっぱり大事ですね。この協議会を通じてですね、皆さんにそういった介護の支援のネットワークを築いていこうといういろんな取り組みをされているってことで、平成24年度には会員の名簿が作成されたということなんですね。これはどういった内容なんでしょうか。

**氏家** 元々はですね、一関東部地域居宅介護支援事業所協議会というのがございまして、そちらの方で先に写真入りの会員名簿というのを作成しまして、それでとても評判が良いという噂を聞きまして、じゃあうちらでもやってみようかということで始めまして、24年度作成した時点で、一関市医師会、一関歯科医師会、一関薬剤師会、あとは医療ソーシャルワーカーが配属されている病院や、行政窓口などに配布させていただきました。

**塩竈** これまで医師会の方ですとか、歯科医師会の皆さん、薬剤師会の皆さんなどにもお越しいただいてお話を伺ったんですけども、その

医療だけではなく、その介護もそうですし、予防のところもそうですし、いろんなところがこうやって情報交換っていうのを密にしておくっていうのは、やっぱりすごく大事だってお話を聞きますね。今日はお話を伺っているのが、一関西部居宅介護支援事業所協議会ということなんですが、一関市ではこの他にも東部にもこういった協議会があるそうですね。

**氏家** そうです。

**塩竈** それぞれ西部と東部を拠点に活動されていると、それから個人の介護支援専門員を会員とする両磐地区介護支援専門員協議会、こういった取り組みもあるということです。その今お話も出てきましたけれども、いろんなその取り組みっていうのが連携を密にしておくっていうのがとても大事になってくるっていうところが、今日は分かりました。さて氏家さん、こういった介護サービスに関して、まずはいろんなその相談であったりとか、素朴な疑問とかいろんなもの持っていらっしゃる方いるかと思うんですけども、こういった相談があった時には、一体どちらに問い合わせをしたほうがよろしいでしょうか。

**氏家** 事業所の数がちょっと多いので、まず、一関市役所並びに各支所、及び平泉町役場の保健福祉窓口のほうに相談してもらえればと思います。

**塩竈** なるほど。そうなりますと、どこにまず相談すると、効率的にいろいろ物事が進んで行くっていうのを教えていただけるわけですね。皆さんのお近くのその相談の窓口、今まさに直面している皆さんっていうのは、そういった相談っていうのは普段もされているかと思いきや、でも、これから先、自分にもまたそういった可能性があるという皆さんは、事前にいろいろな知識っていうのを、こういった窓口をこう利用して身に付けていただければと思います。今日の「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーですが、一関西部居宅介護支援事業所協議会の氏家健司会長にお越しいただ

きまして、お話を伺いました。氏家さん、ありがとうございました。

**氏家** どうもありがとうございました。

**塩竈** このように様々な団体、関係機関などがお互いに連携、協力しながら、1人でも多くの皆さんが、この住み慣れた地域で安心して生活できるように、これからも地域の皆さんとともに介護支援の歩みを進めていきます。今日は一関西部居宅介護支援事業所協議会について、氏家健司会長へのインタビューをお送りしました。

**塩竈** 私たちが住んでいるこの町では、高齢化が大変進んでいます。住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療、介護への切れ目ないサービスを目指していろいろな取り組みを行っているんです。このコーナーでは、医療機関、介護施設それぞれの役割、またその利用方法などを私たちがしっかり理解してこの町づくりにしっかり協力することを目的にしてコーナーをお送りしています。地域医療体制の充実のため、私たちも積極的に関わっていきましょう。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」このコーナーは一関市健康づくり課の提供でお送りしました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日：平成 26 年 10 月 22 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送：10 月 26 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」

第 8 回放送 一関東部地域居宅介護支援事業所協議会 佐藤義雄 副会長

(聞き手：FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」一関では高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーでは医療機関や介護施設の役割、利用方法を、医療、介護、福祉の関係者と私たち市民が共に理解協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** 先々週のこの時間なんです、一関西部居宅介護支援事業所協議会会長の氏家さんにお越しいただきまして、この居宅介護支援事業所協議会、どのような活動をされているのかというお話を伺いました。主にケアマネジャー、介護支援をされる方の知識、技術、能力などの向上、また、地域の特性を生かした質の高いサービスを送るには一体どのようにしたら良いのか、関係機関の皆さんが集まって協議をする、こういった集まりなんですね。さあ、今日は一関東部地域居宅介護支援事業所協議会の佐藤義雄さんにお越しいただきましてお話を伺いました。今回はこの協議会の内容など、それから様々な事業所の情報などを伺ったんですが、今回は介護支援専門員ケアマネジャーに求められる資質であったりとか、それから今後の役割、さらに市民の皆さんとこのケアマネジャーの皆さん、どのように関わっていくべきか、こういったお話を伺っています。

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう 地域医療～」のコーナーです。今日スタジオにお越しいただきましたのは、一関東部地域居宅介護支援事業所協議会副会長の佐藤義雄さんです。佐藤さん、どうぞよろしくお願いいたします。

**佐藤** はい、よろしくお願いいたします。

**塩竈** 佐藤さんがお仕事をされている場所というのは、大東町摺沢の方になるということなんですけれども、デイサービスとかされている所、それからグループホームのほうをされているということですね。

**佐藤** はい。

**塩竈** まずは、この一関東部地域居宅介護支援事業所協議会、こちらについてお話を伺っていきたくと思います。まずはこの東部地域の協議会になりますが、会員はどういう数字になるのでしょうか。

**佐藤** 今の会員数は 19 会員となっております。

**塩竈** 人数で言うと介護支援専門員の数というのは何人になるのでしょうか。

**佐藤** そうですね。ただ今 65 名程の会員となっております。

**塩竈** そうですか。この他協力する機関っていうのもいくつかあるそうですね。

**佐藤** 協力機関として、一関東部地域包括支援センターさんと高齢者総合相談センターしぶたみさん、そして高齢者総合相談センターふじさわさんが、さらに、包括支援センターさんも協力会員ということで入っていただいています。

**塩竈** 設立の経緯について、佐藤さん教えてく

ださい。

**佐藤** 以前から介護支援専門員が個々に集まって研修会を行ったりという機会はあったんですが、事業所単位での研修会の機会がなかったものですから、顔が見えるような活動をお互いにしたいということで、会を設立しました。

**塩竈** 多くの専門員の方々もそうですし、事業所を運営されてる方々っていうのも所所いらっしやる訳ですけども、やはり集まることでいろいろそういった学び合ったりとか、切磋琢磨っていいですか、こういったとこで見つかるってことって結構多いんでしょうね。

**佐藤** 多いと思います。いろんな課題をお互いに抱えているのですが、1事業所の中では解決できなかつたり、どうしていいかわからないということがやっぱりありますので、それらを事業所間で持ち合うってことも一つの大きな研修の場だなと思っています。

**塩竈** この東部地域居宅介護支援事業所協議会なんですけど、主な取り組みとか活動というのと、こういった内容になるんでしょうか。

**佐藤** 研修会の開催とか、去年は会員のアンケート調査をやったり、会員の名簿を作成して医療機関などに配布する活動を行っております。

**塩竈** さて先々週とそれから今週と、この介護支援というところについていろいろお話を伺っているんですが、中に出てくる言葉として介護支援専門員という言葉がありまして、今日はですね、佐藤さんに、この介護支援専門員の役割ですとか、今後はこういった役割を期待されているというところまで伺っていきたいと思います。まずはこの介護支援専門員が生まれた経緯ですね、ここから教えていただけますか。

**佐藤** 介護保険制度そのものは、平成12年4月から開始になっているわけですが、その中で、従来ですと行政で手続きを取るっていうことになっていたんですが、介護保険では介護支援専

門員という職種が、利用者様の意向を聞いてサービスに結び付けるという活動をするようになりました。それ以来、ケアマネジャーっていう呼び名をされますが、そこで活動をしています。

**塩竈** このケアマネジャーという名前、職業をよく聞くんですけども、平成12年に始まりましてもう既にだいぶ長い時は経っているわけなんですけど、人数でいうとどのくらいの方々なのかなっていうところを教えてくださいませんか。

**佐藤** 制度ができて14年経ちますが、去年で大体2万2千人程受検して合格者が出ております。14年ですから相当の人数の方がいるっていうことになると思いますが。

**塩竈** さて佐藤さん、この介護支援専門員の役割について、では伺っていききたいと思います。

**佐藤** 大きくはケアマネジャーの仕事としましては、「相談業務」、「サービスの調整」、そして「連携」という3つが大きくあるかと思えます。

**塩竈** まずは、相談っていうことですけども、これは住民の皆さん、市民の皆さんが、いよいよこれからこの介護っていうところに自分の家でもこうすることになった、こういったところをまず相談を受けてくださるということですか。

**佐藤** そうです。在宅で生活を維持できるようにするためにはどうしたら良いかということも私たちが大事な役割の一つになっています。

**塩竈** なるほど。まずは介護というところに直面した時に、一番最初にこう相談する役割の方ということですね。

**佐藤** そうですね。窓口が私たちケアマネジャーなのかなと思っております。

**塩竈** さらに、そこを調整していく役割っていうのがあるそうなんですけど、それはどういった

調整なんですか。

**佐藤** デイサービスを使いたいとか希望が出た場合に、そういう事業者との連絡調整を図ったりします。

**塩竈** これはご本人であつたりとか家族でも、なかなか専門知識がないと難しいですので、であれば、こういった最初に話がありました、その相談の段階でいろんなその家庭の状況であつたりとか、いろんなものをこのケアマネジャーさんが把握した上で、コーディネートしていくということですね。そのコーディネートというふうになりますと、そのご本人とそれからご家族の方、それからサービス事業者の間もそうですけれども、さらに地域とのその連携というのにも必要になってくるのかなと思うんですが。

**佐藤** 今 14 年経ってみて、仕事をしながら思うのは、意外に地域で暮らすという時にはサービスだけではなくて、地域の皆さんとの連携が大きく必要になっております。

**塩竈** 地域というと、病院とか医療関係の皆さんも勿論ですし、それから行政とかこういったところもありますよね。

**佐藤** 1 人の方を見守っている方っていうの、大勢の方、民生委員さんであつたり、町内会長さんであつたり、自治会長さんであつたりとか、いろんな方が関わっていると思うんですが、その方々の連携も私たちやっぱり必要だなと思っております。

**塩竈** このコーナーにもよくお越しいただくんですが、病院の先生ですとか、それから医療関係の方々というのは、介護との繋がりもとても大事だつていうふうについていつもおっしゃるんですね。

**佐藤** 私たちケアマネジャーとしましても、ご利用者様の健康状態とか病気の治療とかについて一番大きな関心事になります。そういう意味では病院とか医療機関の先生方と

か看護師の皆さんとの連携というのが大変必要だなと思っています。

**塩竈** さて、様々な連携、それからご本人たちとのその相談であつたりとか、このコーディネートのお仕事をされているというのが介護支援専門員の役割っていうことが分かりました。今後その役割の中で、こういったところを強化していくべきだというふうに、佐藤さんお考えになるところいくつかあるかと思うんですけども、ぜひ教えてください。

**佐藤** 1 つは多職間、お医者さんであつたりとか、理学療法士さんであるとかいろんな方々との接点があります。そういう意味では多職間の連携を図る上では、私たちもそういう専門知識までとはいかなくても、そういう知識を私たち自身が持たなければならないなと思っています。その意味では研修会をやっていかなければならないなと思っています。

**塩竈** なるほど。介護分野に立っている皆さんも、今お話に出てきましたその医療関係の話もそうですし、それから地域でいうと、その民生委員の方々が取り組んでいらっしゃるのととか、いろんな知識っていうのがある上で、ご本人たちの相談、調整にいろいろ当たっていくっていうことですね。なるほど。この他には何かありますか。

**佐藤** もう一つは、私たち自身がそうなんですが、普段会話とかこうしているんですが、ご本人様がどういうふうを考えているのか、その引き出す力とかコミュニケーション能力というのが大事だつて思っております。

**塩竈** より良いその介護であつたりとか、またこれから先のその人生っていうのを豊かにしていくためには、介護っていうところを、どのように自分が利用していくっていうのと、それから家族がどう考えているか、いろんなところっていうのを調整していく役割ですけれども、まずはそういったご自身が持っている希望であつたりとか、素直な気持ちを引き出す能

力っていいですかね。この他にはいかがでしょう。

**佐藤** 一番大事なのももしかすると信頼関係なのかなと思っています。ご利用者様との信頼関係であったり、ご家族様との信頼関係であったり、また、サービス事業者、病院の先生方と、とにかく信頼関係を作らなければ次には進めないなと思っています。

**塩竈** さて佐藤さんには、そのケアマネジャーに今後求められる役割というお話を伺いました。話にあったとおり、平成12年に介護保険が始まった時点から14年経ちまして、その後仕事に就いていらっしゃる方の人数というのも大変増えました。さらに、この仕事を目指すという方もたいへん増えているということですが、佐藤さんから今後この仕事に就いてみたいと思う皆さんへの何かアドバイスはありますか。

**佐藤** 介護保険が始まった時は、花形と言われたのがケアマネジャーだったんですが、実際やってみると大変だっているものもあります。ただ、逆にやりがいのある仕事でもありますので、ぜひケアマネジャーをやってみてみたいと思う方はこの仕事に就いていただきたいなと思います。今年は10月26日に試験がありますので、ぜひ試験を受ける方は頑張ってくださいなと思います。また私たちの仲間として一緒に活動して欲しいなと思います。

**塩竈** 佐藤さん、これまでね、このケアマネジャーのお仕事っていうのに就くためのノウハウの本というのは、よくいろんな所に出ていたりとかパンフレットを見る機会っていうのがあるんですけども、そうなるとうどん知識が必要であったりとか、こういった仕事ですよっていう概要は分かるんですが、実際にその仕事に就いていらっしゃる皆さんが、今取り組んでらっしゃる中で感じるお気持ちであったりとか、それから、その今お話でありました、やりがいってところで、こういった言葉っていうのは、なかなか伝わってくるっていうのが、その冊子からは少なかったりすると思うんですが、

今日お聞きいただいた佐藤さんのですね、やりがいっていう言葉もそうですし、それから身近にそういったケアマネジャーの方々いらっしゃるかと思いますが、こういった方と普段からお話をして、その仕事についての知識を身につけていくっていうのもとても大事なんだと今日は伝わってきました。一関東部地域居宅介護支援事業所協議会から、今日は副会長の佐藤義雄さんにお越しいただきましてお話を伺いました。佐藤さんありがとうございました。

**佐藤** ありがとうございました。

**塩竈** 一関では高齢化が進んでいます。住み慣れた地域で安心して暮らしていく、そのために、医療から介護への切れ目ないサービスを目指して様々な分野で取り組みが行われています。医療機関や介護施設、それぞれの役割や利用方法を私たちもしっかりと理解、協力する、これが大事ですね。地域医療体制の充実のため、私達も積極的に関わっていきましょう。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」このコーナーは一関市健康づくり課の提供でお送りしました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM（FM あすも）番組  
放送日：平成 26 年 11 月 12 日（水）17：20～17：35（塩竈一常 GET KING!!）  
（再放送：11 月 16 日（日）9：10～9：25 REFRESH!!）

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第9回放送 社会福祉法人一関市社会福祉協議会 村上光一 在宅福祉課長

（聞き手：FM あすも 塩竈一常）

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」さて、私たちが住むこの一関市では高齢化が進んでいます。そんな中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう医療から介護への切れ目ないサービスを目指して、様々な分野で取り組みが行われています。この「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」は、医療機関や介護施設の役割、利用方法などを医療、介護、そして福祉の関係者、私たち市民が共に理解、協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** さて、今日の「医療と介護の窓」のコーナーなのですが、一関市の社会福祉協議会、ここで「地域福祉活動計画」というのが作られたそうです。今日は、社会福祉法人一関市社会福祉協議会在宅福祉課長の村上光一さんにお話を伺います。

**塩竈** 村上さん、どうぞよろしくお願ひします。

**村上** よろしくお願ひします。

**塩竈** 先週のこの時間帯、「ちむぐりさん」のコーナーでは、一関市社会福祉協議会の取り組みについていろいろお話を伺ってきたんですが、村上さん、改めてこの一関市社会福祉協議会、地域の皆さんはもちろんなんですけれども、この地域で社会福祉に関わっていらっしゃる方、それから医療機関、教育機関いろいろな皆さんが参加している集まりということなんです。みんなが安心して暮らすことができる、そういった「福祉のまちづくり」の取り組みを行っているということ。さて、今日、村上さん

にお越しいただきまして、今日はですね、この社会福祉協議会の皆さんが取りまとめた「一関市地域福祉活動計画」についてお話を伺っていきたくと思います。今、手元に冊子、それからパンフレットも頂いたんですけども、村上さん、これは6月に活動計画書というのを作成されたそうですね。

**村上** そうです。住民の皆さんと意見を交換したり、ご意見をまとめながら、タイトルが「支え合い 幸せ感じる 地域の暮らし」ということで、交流あるいは支援、お互いに安心して暮らせるまちづくりを目指そうということで活動計画を作成したわけです。

**塩竈** この「医療と介護の窓」のコーナーでも様々なその分野の皆さんにお越しいただきまして、何よりもその地域の皆さんそれぞれが、取り組みについて、まずは理解をしていく、知識を得ていくというところから始まって、そこからその支え合っていくというまちづくり、いろいろ関わっていきましようというお話をしているんですけども、その行きつく先に、この基本目標にあります、その幸せを感じる地域の暮らし、これがきっと待っているであろうと。この基本目標に基づいて、どういった具体的な取り組みというのをやっていくんでしょうか。

**村上** 地域で安心して暮らせるっていうのは具体的に大変難しいことなんですけれども、ここ10数年で、目まぐるしく医療や介護保険制度や仕組みが整いました。しかし、いくら施設があっても制度が充実した都会でもですね、最近、だからと言って都会では安心だとは言いきれない

という話になっていますね。ですから健康で安心して暮らしているけれども、歳を重ねるたびに、または、体力が低下し健康の不安が募るわけですけれども、65歳から10年間、ちょうど学校に通った期間を過ごすわけですから、長い期間ですね、不安があるということを考えています。

**塩竈** 一関の場合なんですけれども、60歳以上だと人口に占める割合というのは、どういう感じなんでしょうか。

**村上** 既に65歳ですと30%を過ぎていますし、60歳以上であれば4人に1人ということになるかと思います。

**塩竈** 今お話にありましたように、その医療の制度であったりとか、介護の仕組みというところがね、いろいろなものがありましたけれども、そこをこう利用していく側、利用してもらえ側というところのその気持ちの面と言いますかね、いろいろな取り組みというものを求められるというのをこれまでのコーナーでもご紹介しています。村上さん、最近ですね、こういった健康で安心して暮らすということについて、いろいろ考えたりとかそういう機会があったそうですね。

**村上** ええ、今年の夏ですけれども、病院の待合室ですね、元気になったバリバリで現役の50代の患者さんですかね、そういう方がおられまして、お医者さんから入院したわけですけども「手術は成功したから、これまで以上に散歩しなさい」と言われてました。その患者さん曰くですね、「今までは4、5キロ歩いていたところが暗い河川の土手際だったようで、もしそこで倒れたら今ここにはいないな。」とか言いながら、これからは人目を気にしてですね、人目を多いところを歩くべきだという持論を述べていましたね。

**塩竈** なるほど。これまで以上に散歩をするということだから、いつも通りのその散歩のルートというところを考えたかということ、ご自身が

その病気をこうされたというところからもあるかも知れませんが、なるべくいろいろな皆さんに関われるような、そういった場所を選んで、これからは散歩しなきゃいけないなという感じられた。

**村上** そうですね。例えば一般でも熱中症なんかもあるわけですので、やはり淋しいところとか1人で散歩するとかでは、何かあったらどうしようと一層思いがあったようですね。

**塩竈** これ50代の方でこう感じていらっしゃる、これからまた60代70代になってくると、その健康的な不安というのは皆さん出てくるかと思うんですけども、特に地方になると、その高齢の方々、1人暮らしの方というのも多いわけですね。

**村上** 都会では「向こう三軒両隣」ということで、まあ近くですから、それは良いでしょうけれども、この地方では冬場は特に、外に出ることもないし、ちょっと遠い距離ですよ。

**塩竈** いろいろな皆さんがそういった安心を共有していくというのはすごく大事なことなんですけれども、いろいろなそういった工夫というのをこれからも凝らしていかなきゃいけないわけですよ。

**村上** ここは住みやすく、都会よりも何となく自然に安心感を持っていると思います。どこかに、誰かがこう見守っているという、何となくどうにかやっていけるという地域ごとの工夫ができていのかと、そういう予感立ちますけれども、でも誰もが、安心して共有するのは大事だと思っていますけれども、これからは工夫というのが、最近都会では話題になっております。

**塩竈** 例えばどういった感じの工夫っていうのを皆さん考えていらっしゃるのでしょうか。

**村上** そうですね。近くに毎回同じ時間帯に出勤される方のサラリーマンさんにですね、ボラ



ンティアをお願いできないかっていうお話がありますね。出勤する時に、街灯が点いているとか郵便物がたまっていないとか、あとはカーテンが開いていなかったとか、そういうことをちょっと気づいたら近くに連絡するとか、そういうようなことをお手伝いしていただけないかという話ですね。

**塩竈** なるほど。

**村上** それから井戸端会議ということになると思うんですが、街角とか、あとは散歩とか、買い物とか、それから公園、野菜畑でも一緒に行って休憩しながら話し合ったりするというところで、地域ごとで見守りが共有できないかという、早い話が情報が飛び交うようなことであれば不安がいくらか解消されるんじゃないか、淋しさがなくなるんじゃないかなということの話が出ております。

**塩竈** そうなんです。先程もお話がありましたけども、昔で言う「向こう三軒両隣」という言葉がありますけれども、その例えば、何か道を行き来している時に街灯が切れているなんていう時に、しかるべきところに連絡をしてみたりとか、それから街角、それから買い物先などで、ご近所のいろいろなね、ここでこういうのがあったよなんていう、そういったお話をしていくっていうのは、かつて、こうあった光景ではあるんですけども、最近ではだんだん失われつつあって、改めてその当時のそういった繋がりというのが大事だったんだなっていうのを見つめ直した方っていうのは結構多いのかもしれないですね。

**村上** これからの話になりますけれども、実はこれからの世代は最もこういうことが苦手で、男性の方は特に、そういう方がこれから増えていくんじゃないか、さりげなく気遣い、それから困った時に遠慮なく、そう簡単にできそうじゃないですよ。

**塩竈** 私達が子供の時というのは周りにそういうことがあったなと思って、それで、今また

大人になってみると、また、改めてそういったものというのが必要だなと感じる。となると、ちょうどその間のその世代と言いますか、やはり個人が大事であったりとか、そういったところを重視していた時代というのが確かにありましたので、そういった世代の方々からすると付き合いであったりとか、ご近所付き合いというのは新たに作り上げていく、それも年齢が高くなってくるとなかなか難しいというのが確かにあるかもしれませんね。

**村上** そうですね。やはり集まる環境に興味を持ったり、誘われたらお互いに何か共感しながらというのが、それがこれからの地域づくりの第一歩かも知れませんね。

**塩竈** こういった地域づくり、まずは、そのいろいろな皆さんとこう関わる集まる環境に皆さんに訪れていただくというそういった取り組みは、実は一関の中にもいくつかあるようですね。

**村上** このなのはなプラザの3階にお手伝いしているシニア活動プラザというのがあり、社会参加を応援しております。そういうところにご相談したら良いかと思えます。それから足腰が弱くなって、あまり遠出できない方は社会福祉協議会で呼びかけている「ふれあいサロン」もその集まる方法の手段のひとつですね。

**塩竈** この他にもまた住みよい地域をこう作り出して行くというところで、村上さん感じられることっていうのがいくつかあるようですが。

**村上** こういその地域をつくるというのは、なかなか一長一短にできなくてですね、やはり住みよい地域を創造するには、ねばり強さや継続が大事ですね。地域の取組の例で言えば、神楽のような数百年もの地域の伝統を慣習化して受け継ぐという努力がこれからは必要かも知れませんね。

**塩竈** このこういその地域の伝統というのを受け継いでいる方々とかうお話をしたりすると、何かその受け継いでいる喜びというところが、

何よりもその住民の皆さんと繋がっている一体感が嬉しいからと答える方が多いんですね。

**村上** そうですね。

**塩竈** 先程のお話の中でね、病院で村上さんがお会いになった方のお話の中で、これから先というのは、これまでは1人で散歩するルートを決めていたけれども、できるだけその地域の皆さんと関わることができるような生き方というのができてきたら良いなあなんていう、そういったお話もありましたね。お互いのその見守りというのを共有していくという、そういう生活サイクルであったりとか、この住民お互いがやることができれば良いのかななんて思います。いろいろその安心感を高めるっていうのは自分自身だけがそうやっていくのではなく、その仲間づくりであったり、また、その地域づくりに関わることでその安心感にももちろん繋がっていくっていうところが今日お話を分かっていきました。あのこれから先ですけれども、こういった地域づくりをしていく中で、村上さんがこう感じる、こういったところを改善するべきだっていうお感じのところなど何かありますか。

**村上** これから福祉を支えていくにはですね、やっぱり看護師さんとか介護職員の皆さんの人材確保が難しいという世の中ですね。今、若い若者世代の方は都会に行くということで、大変都会の方に向いておりますけれども、これが続けばですね、同様に介護職員不足でなくて、裏を返せば後継者の不足にもなるし、介護する環境もますますこれから大変になっていくと思います。地域をどう支えるか、これは全国的な問題なんですけれども、今後過疎化がとどまることをしれませんが、安心して暮らせる、地域は少なくとも今生活しているこの場所でもう少し皆さんの力で頑張っていかなきゃならないということで、ひとつ自分からより安心が得られる様な見守りを共用するってことが大事かなと思っておりますね。

**塩竈** これまでは私達が成長していく中で、その世の中のいろいろその地域との関わりって

うのは時代によって変わってきて、特に個人というのが大事にされたという時代もありますし、それから、その前というのは、住民同士の繋がりがまた強い、また強すぎるっていうところでまたその個人主義というところを求めたっていう流れもありましたけれども、いろいろなその経験を元にして、その程良いそういった皆さんその地域の中での、その関わり方であったりとか、その方法というのが一体どこに在るのかっていうのを、皆さんそれぞれその知恵を出し合いながら作っていくっていうのがとても大事なんだなっていうふうに感じました。この一関市の地域福祉活動計画の概要版が今手元にあります。スローガンが「支え合い 幸せ感じる 地域の暮らし」住民が安心して暮らせるまちをつくる、また、住民お互いが交流して支援もできるそういった環境、地域をつくっていく、何よりも住民の参加を高めていく、いろいろなその活動というのがあります。いろいろな具体的な活動というのが行われるかと思います。その時には、また村上さんお越しいただきまして、いろいろこういったところでは、こういうふうに関わっていただきたいという話をお伺いできればと思います。今日スタジオにお越しいただきましたのは、社会福祉法人一関市社会福祉協議会在宅福祉課長の村上光一さんでした。村上さん、ありがとうございました。

**村上** ありがとうございました。

**塩竈** 良い仲間というのが、近くにいるかもしれません。それをぜひみなさんにも探していただく、そういった仲間同士でお互い見守ることが、まずは、まちで安心して暮らす、そのキーワードにつながっていくんですね。

**塩竈** 一関では高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療から介護へ切れ目ないサービスを目指しています。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーでは、医療機関、介護施設の役割、利用方法など医療、介護の関係者、また今日お越しいただいた福祉の関係者の皆さん、そして私たち市民が一緒に理解、協力することを目的に

お送りしています。地域医療体制の充実のため、  
私たちも積極的に関わっていきましょう。「医療  
と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」こ  
のコーナーは一関市健康づくり課の提供でお送  
りしました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日：平成 26 年 11 月 26 日 (水) 17:20~17:35 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送：11 月 30 日 (日) 9:10~9:25 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 10 回放送 両磐ブロック高齢者福祉協議会 熊谷茂 会長

(聞き手：FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」一関市では高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーでは、医療機関や介護施設の役割、利用方法を医療、介護、福祉の関係者と市民がともに理解、協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** 今日スタジオには両磐ブロック高齢者福祉協議会の会長、更に特別養護老人ホーム明生園の園長でもいらっしゃいます熊谷茂さんをお迎えしました。熊谷さん、よろしくお話しします。

**熊谷** どうぞよろしくお願いいたします。

**塩竈** 熊谷さん、まずはですね、この両磐ブロック高齢者福祉協議会、この協議会というのはどんな活動をされている集まりなのかということから教えてください。

**熊谷** 一関市内の社会福祉法人が経営する特別養護老人ホームや養護老人ホーム、ケアハウス、そういった団体が組織しているのが、両磐ブロック高齢者福祉協議会になります。

**塩竈** その組織の皆さんというのは、何人くらいの体制になるんですか。

**熊谷** 21 団体が入っていますけれども、関連事業全体入れると 50 を超えると思います。

**塩竈** そうなんですか。今、福祉、それから介

護というのを取り巻く環境というところでは、様々な課題であったりとか、それから皆さんが経験してきた知恵というものがいろいろと集まるかと思うんですけども、協議会の中では特にどういった分野の話し合いというのが普段行われるんでしょう。

**熊谷** 今は年 1 回職員を対象とした研修会を行っております。日頃、いろいろな介護の活動をしている実践報告もしますし、それから相談員、管理栄養士、そういった職種間の分科会も行います。

**塩竈** こういった分野の講義を受けるとなると、それぞれの福祉施設個別でそういった講師の方を招くっていうのは、なかなか大変だと思いますので、協議会でお呼びして、研修をするということですね。お聞きしましたら、去年は先生をお迎えして、このいろいろ市内外からたくさんの方が集まったイベントがあったそうなんです。

**熊谷** 「平穏死」のすすめの著書で有名なドクターで石飛幸三先生がいますけれども、その方は、延命のために胃に穴を開けて栄養を入れて、それで良いのかと、老衰末期の人に対して、それはいかなものかという警鐘をならして、実は、我々の特別養護老人ホーム、一関ばかりじゃなくて全国的にそうなんです。老衰末期の方々を鼻から栄養を入れる、胃から栄養を入れるということでやっていたけれども、それらも本人が望んでやっているわけではなくて、家族や周りの方々が少しでも長く生きられるよう

にということです。それについて石飛先生が、それはそれで良いんだろうけれども、もう一度原点に立ち直って考えてみないかっていうことを、我々団体ばかりじゃなくて市民の方々にも一緒に考えていただく機会にさせていただければと思って開催しました。

**塩竈** 終末期医療ですとか、それから、また介護というところ、実際にその現場にいる皆さんから感じるこつていうのは、その講師先生にとつても何かいろいろ新鮮に感じたりとか、いろんな情報交換の中ではすごく役に立つこつていっばいありそうな感じがしますね。

**熊谷** そうですね。実際に我々は、24時間365日、重度の方々をお世話させていただいてますから、そういった中で看取りまでしますので、いろいろな思いが交錯しながら、先生のお話を聞かせていただきました。それが今いろいろなところで、協議したり議論したりして行っている途中になります。

**塩竈** この他にも、昨年は、自立支援介護を実践されております静岡県の特別養護老人ホームの施設長の方をお迎えしまして講演もあったそうですね。

**熊谷** 特別養護老人ホームを利用している人は、介護度で言えば4、5ですので、多くの方々は、食事も排泄も入浴も着脱もできないということで、普通の寝たきりと言われていましたけれども、やはり、寝たきりの人でも、できるだけオムツを外してポータブルトイレ、あるいは、便座に座らせるということが非常に大事ではないかと、実際に今、全国の協議会でも特養のお年寄りをオムツゼロでやっていこうという全体的な取り組みをしていましたので、その中でも、静岡の施設が50名定員ですけれどもオムツがゼロなんですよ。それ5年間続けましたので、果たしてできるものかどうかというものを、実際にその施設長に聞いて、それでいろいろと教えていただきました。そういう機会に両磐ブロックの特養もそうですが、可能な限りトイレで、ポータブル便器でということで、オムツ外

しに取り組んでいます。

**塩竈** そうなんですね。実際にその現場で働いている皆さんというのは、全国各地の先進的な例というのを学ぶことで、自分たちの施設に合わせた工夫というところにつなげていく、そのきっかけにもなりそうですね。

**熊谷** やっぱり、食べさせて、お風呂に入れて、オムツを取り替えてっていう、それだけがお年寄りの生活ではないので、やはり、人間の尊厳を考えた自立支援をやはり積極的にやるべきじゃないかということで、全国の情報を取り入れて、それを会員施設に流すようにしていました。

**塩竈** こういったセミナーですとか研修を受けた皆さんの感想とか熊谷さんには届いてますか。

**熊谷** 自分自身が、全国の研修委員をずっと8年程やっていたので、全国のいろいろな研修会で講師の先生方の話を聞く機会がたくさんあるので、その中自分なりに選択して、一関に来ていただいて、先進的な事例をあるいは、いろいろなサービスの質の向上のための話を聞く機会を作るようにしていました。

**塩竈** なるほど。サービスの最前線に当たっている仕事をされている方だけではなくて、やはり、市民の皆さんとか、普段からこういったところに顔を出して、いろいろな現状を知っておくっていうのはすごく大事なことですね。

**熊谷** そうですね。あとは、この医療と介護の連携連絡会の中でも研修会がありますので、その時に実践報告をさせていただいたり、そうしますと一般の方々も聞いてくれますので、実際、特養ではこういうことが行われているんだなという理解の一助になっていると思います。

**塩竈** 両磐ブロック高齢者福祉協議会で行っている取り組みについて、まずお話を伺ってきました。さて、熊谷さんは、番組冒頭でも紹

介しました特別養護老人ホーム明生園の園長でもいらっしゃるということなんですけれども、現在、この特別養護老人ホームという施設ですね、これを取り巻く環境について今日はちょっとお話しを伺っていきたいんですが、まずは、この特養で待機している方の数というのはどんな感じなんでしょうか。

**熊谷** 自分の法人で今、特養3つ持っておりますけれども、多い特養ではもう300人超える待機者を持っています。他の2つの特養も100人を超えていますので、ダブル・トリプルで掛からない人を含めると500人位はいるんじゃないかなと。実際一関市内の特養待機者は900人を超えていますので、それもこれもやはり家族で介護できない、地域で看れないという状況が続いていると思います。

**塩竈** これから先の人口の動きとかを見ていくと、この待機者の数というのがより増えていくのではないかと想像がつくんですけども、コーナーが始まる前に熊谷さんとお話をしておりましたら、それを介護する人材ですね、その人数というのも大変不足しているって現状があるそうですね。

**熊谷** 今、岩手県の介護人材の求人倍率が1.4くらいになっています。それが、東京・神奈川・千葉になると3倍から4倍になっています。本当に施設やいろいろな介護サービス事業を立ち上げても、それを支えてくれる人たちが少ないんですよ。よくテレビでは、給料が安い、汚い、キツイという3Kを取り上げていたものもありましたけれども、やはり、これから高齢化率が30に40に上がっていく時に、やはり、介護サービスがもっともっと充実していかないと家族の負担になりますので、要は増やすんですが、何しろ介護の専門学校の方でさえも定員割れをおこしていましたので、この間、大学に行った時のディスカッションでは、介護専門学校を辞めるところもいっぱい出てきていましたので、実は、国では2025年、いわゆる団塊の世代が後期高齢者になる時には、更に介護員が100万人必要だというシナリオは出しているんですが、そ

れに対する人材を確保するだけのグランドデザインがあんまりないので、この調子でいくと、もう田舎もですし、都会もサービスはあっても職員がいないということが続くと思います。

**塩竈** 実際に介護というところに目の当たりにする世代よりも、もっと若い世代のうちからこういった介護というところに興味を持つのも勿論そうですけども、いずれ自分のところに関わってくるものだっていう問題意識というのをしっかり持ってもらうということがすごく大事ですね。

**熊谷** そうですね。やはり、子供の時から福祉教育が必要ではないかと。それを大学出た社会人になって、じゃあ介護を目指しなさいって言っても、そう簡単にできるものじゃなくて、やはり、ちっちゃい時からおじいちゃん、おばあちゃんと触れ合う、あるいは福祉施設を訪問する、そういうきっかけがあって、じゃあ自分も福祉を目指そうか、医療を目指そうかとなるんですが、そういう機会が今ないんですよ。だからやはり教育の中に福祉を取り入れることが一番大事だと思います。

**塩竈** また、市民である私たちの中でもこういった感じを取り巻く環境というのをこの福祉協議会の皆さんだけにお任せするんじゃなくて、積極的にこういったところにも関わってって自分たちも1つのそのまちづくりの中で必要な存在なんだっていうこと知っておくっていうのも大事ですね。

**熊谷** そうですね。介護人材が足りない足りないって言って、じゃあ、一法人だけで努力して集めればいいって問題ではなくて、やはりこれから高齢者がいっぱい増えてって、そして支えなければならぬっていう互助共助の気持ちで、やっぱり一緒に協力していただきたいなと思いますね。

**塩竈** ここまで介護人材の不足、取り巻く環境についての話なども熊谷さんに伺ってきました。さて、今日は両磐ブロック高齢者福祉協議会に

ついでお話を伺ってきているんですけれども、「防災協定」というのが、至る所と結ばれているというこういったお話も伺っているんですが。

**熊谷** 3年前の3.11東日本大震災の時に、本当に内陸はまだ良かったんですけれども、沿岸にある特別養護老人ホームとか津波で全壊して、たくさんの方々が利用者、職員が亡くなりました。そういった時に助けてあげたい、でも現地に行けない、どうなっているかさえも調べる手段がない。そういう時に、我々は、県を通じてSOSもきて、応援には行きましたけれども、やはり、今の災害というのは、地震や津波ばかりじゃなくて、広島であるように土砂崩れだったり、川が氾濫したり、台風だったり、竜巻だったり、いろいろありますよね。そういうことを考える時に同じ両磐の中でも、あそこで川が氾濫して大変だったという時に、その災害を受けていない所の施設が行って、人を出す、物を出す、あるいは被害を受けているお年寄りを受け入れるとか、そういったきめ細やかな協定を作って契約を結びました。ただ一関、両磐だけがそういった協定を結ぶのでは効果がないということで、今回、沿岸ブロック、両磐ブロック、県北ブロック、中央ブロック、県南ブロックと5ブロックで広域的な災害協定を結びました。ですから沿岸が大変な状況になっている時は、両磐ブロックの職員で人・物・金を出すと、あるいは沿岸ブロックがやられている時は県南ブロックから出すと、そういうきめ細やかな協定書を結んでいますので、それがもう発足していますから万全だと思います。あと両磐ブロックでも、来年の1月から防災会議を開きますので、図上訓練始め、その他の訓練まで発展させていく予定です。

**塩竈** 介護を利用されている方へのサービス、その質の向上はもちろんなんですけれども、それだけではなく、そこで働く皆さんの環境であったりとか、それから、そういった福祉・介護というのがしっかりといざという時でも成り立っていくってところ、いろいろな分野での取り組みをされているってことが今日は伝わってまいりました。今日は「医療と介護の窓

～みんなで育てよう地域医療～」のコーナー、スタジオに両磐ブロック高齢者福祉協議会の熊谷茂会長にお越しいただきましてお話を伺ってきました。熊谷会長、どうもありがとうございました。

**熊谷** 今日はありがとうございました。

**塩竈** お聞きいただきましたように、一関では高齢化が進む中、住み慣れた地域でみなさんに安心して暮らしてもらいたい、そんな思いから医療から介護へ切れ目ないサービスを目指しています。介護の分野の中での取り組みについて今日はお話を伺ってきました。このコーナーでは、医療機関、また介護施設の役割、利用方法など関係者の皆さんはもちろんなんですが、市民である私たちがともに理解、協力していくこれが大事だということで、皆さんに様々な情報をお伝えしています。地域の医療体制、介護体制の充実のため、私たちも積極的にこの取り組みに関わっていきましょう。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」このコーナーは一関市健康づくり課の提供でお送りしました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日：平成 26 年 12 月 10 日 (水) 17:20~17:35 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送：12 月 14 日 (日) 9:10~9:25 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 11 回放送 県南広域振興局保健福祉環境部一関保健福祉環境センター  
(一関保健所) 大坊真紀子 管理福祉課長

(聞き手：FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」一関市では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーでは、医療機関や介護施設の役割、また利用方法などを医療・介護・福祉の関係者と私たち市民が、ともに理解、協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** このコーナーとそして隔週でお送りしている「ちむぐりさん」のコーナー。いろいろな各地での取組などを聞いていると私たちの将来を支えていくための仕組みというのは、いろいろなところで実は整えられつつあるんですよね。ただ、その情報をしっかり私たちが知っているかというとまだなかなかそういったところに目を向けていないという現状があったり、なかなかPRの力というのがそんなに多くなかったりということがあって、なかなか情報を共有するのが難しかったりというのがあります。そんな最中で、是非みなさんに様々な取組などを知っていただきたいそんな思いを込めてこのコーナー進めています。「みんなで育てよう地域医療～」のコーナー。今日は、一関保健福祉環境センター一関保健所管理福祉課の大坊真紀子さんにお話を伺います。そもそも、保健所とは一体どんな取組をされているところなのか。さらに、両磐地域など医療に関してはどのようなものというのが今求められていたり、課題になっているのかここをお話聞いていきたいと思っています。

**塩竈** 今日は一関保健所管理福祉課長の大坊

真紀子さんにお話を伺います。大坊さん、どうぞよろしくお願いいたします。

**大坊** よろしくお願いいたします。

**塩竈** さて、まず初めにですね、この保健所、よく番組の中でも一関保健所からのお知らせ等というふうにお伝えすることがあるんですけども、どのような業務を行っているか、ここからまず改めて聞いていきたいと思います。大坊さんお願いします。

**大坊** 一関保健所には管理福祉課、保健課、環境衛生課の3つの課があります。管理福祉課では、住民の方に安全安心な医療を提供するため、医療法に基づく病院・診療所の立入り検査ですとか、医療従事者の免許申請、各種医療統計、住民の方からの医療相談、地域住民の方に医療に関する情報を提供するためのセミナーの開催などを行っております。

**塩竈** 管理福祉課ではこういうお仕事をされているんですね。

**大坊** それから保健課では、健康づくり、疾病予防対策としまして、「脱脳卒中对策事業」をはじめとした生活習慣病予防の取組のほか、結核・エイズ・インフルエンザなどの感染症対策、精神保健、自殺対策、難病患者さんへの医療受給者証の交付などの業務を行っております。次に環境衛生課ですけれども、食品衛生、動物愛護管理、自然保護、廃棄物対策などの業務を行っております。それから、岩手県の保健所は広域振興局の保健福祉環境センターと2枚看板に



なっております。福祉関係の業務も行っております。一関保健福祉環境センターでは、配偶者からの暴力の相談や、ひとり親世帯への福祉資金の貸付、ひとにやさしい駐車場利用証の交付なども行っております。

**塩竈** いつも一関市のお知らせのコーナーなどで、それぞれの保健関連のお知らせをすることが多いんですけども、お問い合わせ先が、一関保健所までというふうに伝える場合が結構多いんですよ。本当に多岐にわたった分野での業務があるんだなっていうのが分かりました。さあ今日は「医療と介護の窓」ということで、このうち医療についてのお話を大坊さんに伺っていきたくと思います。まず、両磐地域の医療に関して課題になっていること、ここから聞かせてください。

**大坊** 一番大きな課題は「医療従事者の不足」です。医療施設での従事者数を、平成 23 年 10 月 1 日現在の人口 10 万人当たりの数値と比較いたしますと、医師は全国が 253.2 人、岩手県全体で 219.7 人ですけども、両磐は 181.2 人となっております。全国より 72 人、県全体より 38.5 人も少ない状況になっています。薬剤師や、放射線技師、理学療法士、作業療法士も同様に、全国や県全体に比較して少なくなっています。看護師については、両磐は 717.3 人ということで、全国の 633.7 人よりは多いんですけども、必要な人数には満たしていないという状況にあります。看護師は、特に首都圏で不足しております。岩手県の看護学校を卒業した看護師が他県の医療機関に就職してしまうといったことも多く、看護師の確保も全県的な課題になっております。地域住民の方々が身近な地域で安心して医療を受けられるようにするため、医療従事者の確保ということが大きな課題になっております。

**塩竈** なるほど。自分たちが医療を受けるために、まずはそこに従事されている方々の実態というのを知っておくのは、私たちには大事ですよ。現在、他の地域で仕事をしているお医者さん看護師さんたちに、人数がこの地域でも少

ないということで、やってきてもらう、引っ越してきてもらうというのはなかなか難しいでしょうから、となるとこれから免許をとる若い人たちというのがこの地域の医療機関を選んで就職してもらいたい、そういった感じに思いますね。

**大坊** はい。医療従事者の確保ということでは、この地域の子どもさんたちに医療職に興味を持っていただき、その方面の進路を選択する方が増えてくれれば良いなというふうに考えております。このため、保健所では、中学生を対象とした医療職講演会や、高校生を対象とした進路選択セミナーを開催しまして、医師、看護師など病院のスタッフの方からお話を聞いたり、病院内の見学や希望する職種の方とのフリートークなどを行っております。今年度は夏休みの期間ということで 7 月と 8 月に、市内の病院のご協力をいただいて実施しましたが、管内の中学校、高等学校からたくさんの生徒さんに参加していただきました。来年度においても実施していきたいというふうに考えております。

**塩竈** まずこれから免許を取る可能性のある若い人たちにこの地域の医療機関についていろいろ知っていただきたい。また、そのやりがいというのもそこで見つけてもらいたいなというふうに思うんですけども、この現状ですね、医療機関のスタッフの皆さんの負担というのは、お話を聞いていると、医療従事者が不足している体制の中では、だいぶ大きいというところもあるんじゃないですか。

**大坊** そうですね。この地域に限らず全国的な傾向としまして、仕事などの事情により、ご自身の都合の良い夜間など通常の診療時間外の時間帯に安易に医療機関を受診する事例がありますとか、症状が軽くても大病院を受診するという傾向がありまして、勤務医の方の業務の過重にもなっております。また、症状の軽い患者さんが大病院を受診することによりまして、大病院でしかできない治療を効率的に行うということに支障をきたしたりですとか、待ち時間が長時間になったりということがあります。大

病院と地域の診療所との役割分担による効率的な医療提供が行われるようにご理解をいただきたいと思ひます。

**塩竈** これまでお話を聞いてきてるように、医療に関して両磐地域での課題というものは、何よりその医療に従事されている方が不足しているという現状がある。簡単にこれを変えていく、人数を増やしていくというのも制度上なかなか体制を整えていかなければいけないということ、いろいろあるんですけども、すぐに今日明日できるということではなかないわけですね。となると利用する私たちも賢くこれを利用していく、いろいろ協力し合うというのがやっぱり大事になってくるわけですね。私たちが医療機関を受けるにあたって、望ましい方法というところ一体どういったものがあるのでしょうか。

**大坊** 医療機関の受診の仕方ということになりますが、まずは身近なところに「かかりつけ医」をもっていただきまして、急病でなければ診療時間内にかかりつけ医を受診していただきたいと思ひます。また、時間外に受診する必要があるときには、まずは、夜間の6時から8時までと休日につきましては、一関市医師会で調整している夜間休日当番医を受診していただくようお願いしたいと思ひます。

**塩竈** この夜間救急当番医については、FMあすもでも平日夕方の時間帯などでお伝えしていますので、ぜひチェックしていただければと思ひます。

**大坊** でも、脳卒中や心筋梗塞など、直ちに入院や手術が必要な場合は救急外来を利用していただきたいと思ひます。限られた医療資源の有効かつ効率的な活用ということでご理解をいただきたいと思ひます。保健所といたしましても、県民皆で岩手の地域医療を支えるということで、一関市や平泉町、医師会などの関係機関と連携しながら、かかりつけ医の普及や救急医療の適正受診などについて意識啓発を継続して行っていきたいと考えております。

**塩竈** 症状に応じて、身近な診療所、それから病院の受診、使い分けということが大事ということですね。さらにもともと病気にならないといひますか、予防が大事ですね。

**大坊** そうですね。いちばん大切なことは、「自らの健康は自分で守ること」で、普段からの健康づくり、疾病予防だと思ひます。保健所では、地域の皆様の健康づくりを応援するために、「出前健康講座」を開催しております。保健所には、所長は医師ですし、保健師や、管理栄養士、薬剤師など、健康づくりに関する専門職員がおります。病気に関することや上手な病院のかかり方、食生活改善、心の健康、お薬のことなど、ご希望の内容で講座を実施いたします。

**塩竈** なるほど。こういう健康づくりに関すること、例えば病院に行った時などに自分が受診する時に、ついでにこういうことも聞きたい、こういうことも聞きたい、いろいろ出てくる場合があるんですけども、そうするとまた医師の方に伺ったりということもありますので、こういった保健所で開催している講座、これをまた地域ぐるみでも利用していくというのは良いかもしれませんね。出前講座というのは、保健所の職員の方々が依頼された方に来てお話してくれるということでしょうか。

**大坊** 一関市内又は平泉町内でしたら、職場、公民館などご希望のところに職員が伺います。費用につきましては、会場使用料がかかる場合のみ依頼者の側にご負担をいただきます。今年度は、保健所長による「上手な病院のかかり方」ですとか、「脳卒中予防に関する講座」、それから保健師による「こころの健康に関する講座」などを実施いたしております。

**塩竈** では受付先をぜひ教えてください。

**大坊** 電話かファックスで受付しております、電話番号は、0191-26-1415、ファックスは0191-26-3565で受け付けておりますので、ぜひお気軽にご活用いただきたいと思ひます。

**塩竈** この地域の医療体制を支えていくということの保健所では様々な取り組みが行われているということが今日は分かりました。ラジオを聴いていらっしゃる方、その地域ごとでセミナー、講座というのを利用するのはもちろんですし、例えば会社の中でも社員研修ですとかこういったもの行われる機会があるかと思しますので、こういった時に、まちを支えていく取り組みについて改めて会社ぐるみで取り組むというのも良いかもしれませんね。今日は、一関保健所の大坊真紀子さんにお越しいただきましてお話を伺いました。大坊さん、貴重なお話しどうもありがとうございました。

**大坊** こちらこそ、ありがとうございました。

**塩竈** お聞きいただきましたように医療機関、また介護施設いろいろな分野での役割、また取り組んでいること、利用方法などをみなさんに聞いていただきました。このコーナーでは、こういった医療に関わっていらっしゃる方、さらに介護や福祉関係に関わっている方々、さらに私たちがともにいろいろな仕事であったり取組を理解、協力するというのを目的にお送りしています。地域医療体制の充実のため、私たちも積極的にこの取組に関わっていきましょう。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」。このコーナーは、一関市健康づくり課の提供でお送りしました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM（FM あすも）番組  
放送日：平成 26 年 12 月 24 日（水）17：20～17：35（塩竈一常 GET KING!!）  
（再放送：12 月 28 日（日）9：10～9：25 REFRESH!!）

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 12 回放送 県南広域振興局保健福祉環境部 後藤啓之 長寿社会課長

（聞き手：FM あすも 塩竈一常）

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」さあ私たちが住んでいるこの一関市では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーでは、医療機関や介護施設の役割、またその利用方法などを医療・介護・福祉の関係者と私たち市民が、ともに理解、協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。さあ年内最後の「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーになりました。今日はですね、県南広域振興局の方をお招きしまして地域包括ケアシステムこれを構築するために、国ですとか県ですとかいろいろこう取り組んでいることがあるんですね。更に私たちがそこにどう関わっていったら良いのかっていう、こういったところのお話を伺っていきます。

**塩竈** 県南広域振興局保険福祉環境部の後藤啓之長寿社会課長にお越しいただきました。後藤さん、今日はよろしくお願します。

**後藤** よろしくお願いたします。

**塩竈** さて今日はですね、地域包括ケアシステムその構築に向けてというテーマで皆さんとお話を伺っていききたいと思います。まずは、その前段です、この地域包括システムを説明していくにあたって、まずひとつ法律ができたということなんですけれども、ここから後藤さん教えてください。

**後藤** 分かりました。本年 6 月にですね、国会、この時期に一斉にいろいろな法案が成立する時

期なんです、そのひとつとして「医療介護総合確保推進法」略称なんです、こういった法律が公布されました。その背景にございますのが、戦後間もない昭和 22 年～24 年の 3 年にわたってですね、一斉にお子様がたくさん生まれました。いわゆる「団塊の世代」と呼ばれる方々なんです、この方々が 10 年後の 2025 年（平成 37 年）には皆さん 75 歳以上となりますので、高齢者の介護と医療の分野に大きな影響を与えるということが心配されているということがございます。

**塩竈** なるほど。日本の中では、将来を見据えてもちろんいろいろな研究というのはあったんだと思うんですけども、私たちの想像をはるかに越えてですね、つまり、こういったこの

国も経験したことがないような、超高齢化と言いますか、そういう社会が向かっているわけですよ。

**後藤** そうですね。人類の進歩にとっては非常に良いことなんです、医学医術が進歩しますと、過去昔であれば、そう遠くはない過去なんですけれども、病気になれば長くは生きられないということがあったと思うんですが、それが今は比較的完全に治らないとしてもですね生きながらえる、何とか自立しながら生活できるということが多くなりまして、ですので病院でそれ以上治療ができない、一度退院はしますが、一度在宅なり施設に入られて生活を続けていく、まあ高齢者ですからまた病気になって病院に戻ることがあるかも知れませんが、そういった繰り返しを重ねながら長寿を全うできるという世

の中になってきているわけですね。

**塩竈** なるほど。こう年齢を長く、長寿というのは本当に良いことではもちろんですけれども、そこをより文化的のももちろんですし、いろいろ健やかに過ごしていただく、そういった方法と、いろいろと皆さんたちで考えていかなきゃいけない時代ですよ。

**後藤** そうですね。

**塩竈** 高齢化のこの現状っていうのを、後藤さんに教えていただきたいと思うんですけども、岩手県全体、それから私たちが住んでいるこの両磐の地域ですね、この辺りの現状ってどのようになっているんでしょうか。

**後藤** よく言われます高齢化率って言いますのは、65歳以上の高齢者の人口が総人口に占める割合のことを言うわけなんですけれども、岩手県全体では平成26年、今年の10月1日現在ですと29.6%、これは一年前に比べますと0.9ポイント増えた数字でございます。その中でこのアスモさんがあります一関市、それに平泉町を加えた地域について見ますと、32.6%ですから全県に比べて、ちょうど3ポイント上回っている形になりますね。これは、その数値的だけ言うと分かりづらいものですから、世界的な基準に当てはめると、高齢化率が7%を超えると「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」、21%を超えた社会は「超高齢社会」と呼ばれます。従いまして、この地域については、その21%を既に10ポイント以上も上回っているわけですから、「超」を何回重ねてもいい位の超高齢社会だということが言えます。

**塩竈** そうなんですね。こういった世界的な基準というところから照らし合わせて見ると、まさにそういった対策というのを本当に急ピッチで進めていかなきゃいけないっていうのが分かりますよね。

**後藤** そうですね。

**塩竈** こういった中で公布されたのが、6にできた略称ですが「医療介護総合確保推進法」、こういったところに基づきまして、今その地域包括ケアシステムっていうのが、とても大事だっというふうに言われているようでして、この言葉自体は何かで皆さん耳にしたことあるかと思うんですけども、後藤さん、この地域包括ケアシステム、今日はですね、これを詳しく教えていただけますか。

**後藤** 分かりました。この一関市、平泉町さん、地元についてはですね、広域事務組合という両方の市と町から職員を出して1つの組織があるんですけども、そこで3年ごとに介護保険事業計画というものを作っております。それで今動いておりますのが4、5、6のこの3年のものなんです、その中について既に地域包括ケアという言葉自体は出てきますが、その具体的なものはまだ緒に就いたばかりで、それは県のどの地域についてもそうっております。そこに先程の新しい法律ができたものですから、これから来年度以降の3年について具体的に話を進めていくことになっております。そこで地域包括ケアシステムというものを、この機会に是非リスナーの皆さんにはしっかり覚えておいていただきたいんですけども、こういうことになります。皆さんが高齢に必ずなりますけれども、重度な要介護状態が必要になった場合に、この住み慣れた一関市、平泉町の地域でですね、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるように、医療・介護、さらには予防、それと生活の基盤になる住まいですね、そこを含んでさらには見守りや配食といった生活サービスが切れ目なくひとつの地域の中で自分の生活の場ですね、全部いろいろなサービスが受けられるような地域での体制づくり、言葉を変えれば「まちづくり」と言っても良いかと思えます。

**塩竈** 1つの分野だけではなくって、まち全体としていろいろなものに取り組んでいく、まあ包括していくっていうそのシステムのことですね。具体的にどういった取り組みがあるのかお伺いしていきたいんですけど。

**後藤** 「住まい」というのは、この地域は持ち家がたぶん多いと思いますので、これまで生まれ育った住宅で、そこでいろいろなサービスを受けられるのが一番よろしいわけなんですけど、なかなか高齢者だけの、あるいは単身だけでの高齢者になると、そこでは住みづらいということになれば、有料老人ホームとかですね、あとはサービス付高齢者向け住宅というのがあるんですが、そういったものも含めての住まい、そこに住んでれば、あとは外に出掛けることでいろいろなイベントがあれば楽しい気持ちで、そういった楽しい気持ちになるというのは予防にもなります。高齢者は65歳以上という定義はありますけれども、65歳になったからと言って、すぐ皆さんが介護が必要になるわけではありません。8割以上の方は元気高齢者と言われておりますので、高齢者は助けられる側という固定的な考えではなくて、元気な高齢者が、少し弱ってきた高齢者を助けるという側になれば、自らも元気になって予防に繋がるというのがひとつあります。そしてさらには専門性のある医療、これは在宅医療というのをご存知かと思いますが、住み慣れた住宅に病院まで診療所まで行かなくてもお医者さんの側から来てくれる看護師さんが来てくれる、あとは、これは今もあるんですけれども、いろいろ介護保険を使ったサービスとして訪問介護、訪問看護、あとは自宅から出かけて行く通所介護といったサービスが既にございます。さらにそこにボランティアの方も加わっていただきたいんですが、いろいろな相談事に応じていただける方、見守っていただける方、民生委員などの方もですね、そういった見守りの中で重要な役割を今でも果たしていただいているんですが、これからもっと元気な高齢者も含めた形で生活支援といった形ですね、皆さん方がこの地域でこぞっていろいろな職種、立場を超えて、助け合う地域、まちづくりが重要だということになってまいります。

**塩竈** こういったのをイメージしたものというのが全体的に地域包括ケアシステムと呼ばれているわけですね。

**後藤** そうですね。

**塩竈** 今このお話の中では、まだまだこの元気な高齢者の皆さんのパワーというの、是非こういったところで、活用していきたいっていうのもありましたけれども、段々、その年齢が高くなってくるとですね、介護を必要とする割合というのはどんどん高くなっていくというところもあるかと思うんですけどね

**後藤** そうですね。

**塩竈** 世の中のその形といいますか、生活のスタイルであったりとか、いろいろと変わってくると昔その介護というところで向かい合っていた社会っていう形とはまたちょっと変わってきたような感じもあるんですよ。

**後藤** ええ。

**塩竈** 例えば、おじいちゃんおばあちゃんと一緒にこれまでは生活していた家族形態というのがどんどん移り変わって、核家族化といいますか、一人暮らしの方が多かったり、夫婦だけの世帯が多くなってきているのがありますけれども、そんな中でやっぱりこういった地域の取り組みといいますか、地域ごとの繋がりがってのは、より必要とされるんでしょうね。

**後藤** そうですね。まあ、一関市、平泉もですから、一関市だけでも旧市町村単位で見ますといろいろな市町村が一緒になって東西に長い圏域ですので、昔ながらの地縁的な繋がりもございますし、一つの市になっての新しい取り組みといった福祉の部分での　　はあることと思うんですけども、やはりそこに住む人々は顔なじみの方がやはり気心が知れていろいろ頼れる部分は多いと思うんです。そういった中で高齢者世帯、65歳以上のいる世帯というのは4世帯に1つはそういった形で全国的にはなっているんですが、一番心配なのが、一人暮らしだけの高齢者、老人夫婦二人とも65歳以上だというような世帯が段々増えつつあるわけなんです。そういった場合には家族による介護というのはなかなか難しく、よく言われます老老介護、両

方介護が必要になっているような方でもお互いに助け合えないと施設、例えば特別養護老人ホームというのは、待機者といわれる方がまだまだ多いものですから、皆さん入れるわけではありません。ですから地域で、先程の包括ケアシステムといったように、自宅を含む施設の外でもそういった安心して受けられるサービスをこぞって必要とする地域を作っていく、皆さんで助け合っていたらいいということがあります。

**塩竈** いろいろその介護というところを取り巻く考え方というのが世の中も移り変わってきたのかなというふうに思うんですけども、実際にこれを動かしていく中で、今までそういった孤立化と言いますか、世代間との孤立が多かった都市部の皆さんとか、そういった皆さんからすると、こういった地域ごとに新しい繋がりというのを作っていくというのは、なかなか期待される場所も多いかも知れませんね。

**後藤** そうですね。よく言われます、隣に誰が住んでいるか分からないというのは、都会では良く聞きます。その点に比べれば地域の方が顔なじみのことという部分ではですね、今でも強い部分はあるかと思いますが、かと言って、やはり高齢化が進めば、なかなか助けようにもお互いに助けづらい部分、体力が続かない、気持ちが弱くなっているというのがありますので、そこはまた少子化しているのが一方ではありますので、そういった中で専門職が一方では必要になるのは事実です。訪問看護、訪問介護、そしてお医者さん、看護師、薬剤師といった時に、いろいろな職種、多くの職種という意味で多職種と言いますので、多職種がそれぞれの専門性を持ち寄って助け合う多職種連携ということが必要になってくるということも言われております。これがないと、連携、地域包括ケアシステムというものが実際は動きませんので、そういったことの垣根を、どうしても医療は医療、介護は介護でやってきた、お互いのことを良く知らない。そこで今重要なのが、看護師さんの役割というのは両方の分野を良く知っているのは一番看護師さんではないかとい

うものがありましてですね、そういったところに期待されている部分もございます。

**塩竈** いろいろな立場の皆さんのそういった経験であったりとか知恵っていうものが、こういうふうな形のものでこう集まってくる、そういったまたチャンスでもあるわけですよ

**後藤** そうですね。

**塩竈** なるほど。まあ私たちの地域というのは、介護だけじゃなく、いろいろ地域地域で助け合ってきたりとか、特に震災の時などは、その隣近所の繋がりというのを本当に大事だっているのを、まさにこう実感して生活している地域だと思うんですよ。そんな中で、そういった介護の分野でのそういった知恵の出し合いであったりとか、地域の見守りというのが、本当に大事になってくる。そういった部分で地域包括ケアシステムの仕組みというのを皆さんにまた改めてしっかり考えていただければと思います。また、岩手県ではこういった地域包括ケアシステム進めていくためには、どういった取り組みというのをこれからしていくんでしょうか。

**後藤** これからいろいろな国から権限が都道府県、そして市町村に下りてくるような今時代になっております。そういった時に、この地元の一関市さん、平泉町さん、そして先ほど介護保険の計画を作っているのはその両者の職員が集まった広域事務組合ということをお話しましたが、やはりいろいろな仕事を抱えている市町村さんの中にあって人手が足りないということはますます出てくる心配がございます。加えて医療という分野、こちらがポイントになります。それに関わるお医者さん、そしてそれを組織立てている医師会というのがあるんですが、やはり医師会の協力がないと医療と介護の連携は進みづらい部分がございますので、これまで市町村という組織はですね、医療についてはあまり関わりが強くなかったと、どちらかというと保健所を抱えている県の側が、医療計画も作りいろいろな機能の役割分担もその計画の中で県が考えてきた部分があります。そこで医師会との

繋がりを持っている県が広域的な調整をする場面もいろいろ出てきますし、いろいろな訪問診療、訪問看護そういったことをする方々をいろいろな場面で顔の見える関係づくりとかいった形ですね、県がお手伝いできる部分も多数あると思いますので、そういったことに関わり合いながら市町村と助け合いながら、平成 37 年に向けた地域包括ケアシステムの構築に何かお手伝いができることがあれば、何でもやっていきたいということで考えております。

**塩竈** はい、いろいろなそういったラジオの皆さんを繋いでいく、まさにコーディネート的な役割を県南広域振興局の皆さんもこうされているんだなと思います。何よりも地域に住んでいる私たち、これから介護を受けるかも知れない、それから介護をする側にまわるかも知れない、それぞれの皆さんがしっかりとこういった仕組みっていうのを理解するのが、とても大事なんだなって今日は感じました。今日の「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」、今日は地域包括ケアシステムの構築に向けてというテーマで、県南広域振興局保険福祉環境部の後藤啓之長寿社会課長にお越しいただきました。後藤さん今日はどうもありがとうございました。

**後藤** こちらこそ、大変ありがとうございました。

**塩竈** さあ地域医療体制の充実のため、私たちも積極的に関わっていきましょう。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」このコーナーは、一関市健康づくり課の提供でお送りしました。



平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM（FM あすも）番組  
放送日：平成 27 年 1 月 14 日（水）17：20～17：35（塩竈一常 GET KING!!）  
（再放送：1 月 18 日（日）9：10～9：25 REFRESH!!）

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 13 回放送 一関地区広域行政組合介護保険課 荻荘瑤子 主事

（聞き手：FM あすも 塩竈一常）

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」一関では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。この「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーでは、医療機関や介護施設の役割、また利用方法などを医療・介護・福祉の関係者とそして私たち市民が、ともに理解、協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。今日は介護保険についてのお話、介護保険の認定、またサービスの利用方法等についてお話を伺います。

**塩竈** スタジオには、一関地区広域行政組合介護保険課の主事でいらっしゃいます荻荘瑤子さんにお越しいただきました。荻荘さん、よろしくお願ひいたします。

**荻荘** よろしくお願ひします。

**塩竈** さて、今日はその介護保険についてということなんですけれども、そもそも一関地区広域行政組合、ここについて荻荘さん教えていただけますか。

**荻荘** 一関地区広域行政組合とは一関市と平泉町の一市一町が共同で事務を行う組織になります。具体的には一関市と平泉町の介護保険の事業と、ごみ・し尿処理などの環境衛生事業、火葬場の運営の事業を行っております。介護保険課はその中の介護保険の事業を担当しております。

**塩竈** なるほど。いろいろその市、町が違って

いてもその地域で一体となっているそういったエリアでは、こういった効率的にいろいろ事業を行っていく組織というところで取り組みがいろいろ行われています。その中で介護保険という分野なんですけれども、荻荘さんはその介護保険課ではどういった担当のお仕事が多いですか。

**荻荘** 私は介護保険課の中で介護保険の介護の認定の業務を行っております。

**塩竈** 介護保険のその業務の中でも、例えば保険料の作成であったりとか、こういったところの分野と、それから申請・認定の分野というのがあるんですね。となると、荻荘さんはその介護を必要とされている、または、そのご家族の方と直接触れ合う機会ということが多いかも知れませんか。

**荻荘** そうですね。実際介護の認定の窓口は、介護保険課ではなくて市役所の社会福祉課の高齢福祉とか支所の窓口にはなるんですが、どちらかというとも市民の方にお電話したりする機会も多いです。

**塩竈** そうですか。さあ、そういった荻荘さんからですね、今日は介護保険制度というのをあらためて皆さんと一緒に学んでいきたいと思えます。まずは具体的にどういったものなのか、荻荘さん教えてください。

**荻荘** 介護保険の制度とは一言でいうと、介護が必要になった人とそのご家族を社会全体で支えていく仕組みです。以前は、介護は家庭の間

題と考えられてきたんですが、長寿化に伴って、寝たきりや認知症の高齢者の方が増加して、介護する側も高齢であったり、そもそも独居世帯で介護者がいない等の大きな問題が増えております。それを受けて平成12年から介護保険制度が始まりました。介護保険制度は、国や地方自治体のからの公費と皆さんからいただいている介護保険料とで半分ずつを使って運用されています。この資金を利用して、介護が必要になった方が自己負担1割でサービスを受けることができるのが介護保険です。

**塩竈** なるほど。皆さんと一緒にこうやって支え合っていくその仕組みということですね。その介護の分野というのが介護保険制度という、これをまず皆さんに理解していただきたいと思えます。さて、そのお話の中でですね、介護が必要になった方、そういった家族であったりとか、あとは利用社会を全体で支えていくってことなんですが、実際にサービスを利用していくには、荻荘さんどのようにしたら良いですか。

**荻荘** サービスを実際に利用するには、まず要介護認定を受ける必要があります。要介護認定というのは、よく「支援1」とか「介護1」とか、そういった介護度を認定してもらうことになります。要介護認定の申請書を市役所の社会福祉課の高齢福祉の窓口、または支所の福祉課の窓口等で申請後、身体の状態や日頃の生活の状況を確認するために認定調査員がご本人さんのものを訪問します。その調査を訪問調査というんですが、具体的には、例えば、片足で立つことができるかとか、食事をするときには介助を受けているか、認知症状はないかといった、決められている項目について確認します。調査した内容と申請書に書いてある主治医の先生のところから介護保険課から主治医の意見書を取り寄せるんですが、その取り寄せた意見書と調査した内容の結果とを合わせて介護認定審査会場で介護度を決定します。

**塩竈** なるほど。その認定調査員さんがご自宅に来ていろいろこうやって話をする。その場所で直ぐに決められるのではなく、その先に介

護認定審査会というのが行われるんですね。その介護保険を受ける時の入り口というのは、こうなっているっていうのは分かったんですけども、例えば、介護を実際受けている方々が、急にお身体その調子が悪くなって、よりそういった介護というのが深いところまで必要になったという場合ってありますよね。こういった申請の更新というのも行われるんですか。

**荻荘** そうですね。介護の認定は、大体1年だったり半年、もしくは2年間の有効期間が付くんですが、その有効期間が切れる前に、身体の状態が悪くなってしまった場合には、「区分変更申請」と言いまして、途中で介護度が上がりました下がりましたという申請ができます。その際も同じように調査を受けていただいて介護認定審査会場で新たな介護度を決定することになります。

**塩竈** なるほど。こういった申請であったりとか、それからその認定してもらっていうところにはもちろんご本人であったり、それからご家族の皆さんのそういった手続き上のお手伝いというのが必要かと思うんですが、例えば、お身体の不自由な方で、そしてご家族もなかなか近くにいない場合、こういった場合はどのように申請したら良いでしょうか。

**荻荘** 代理の方が申請をすることができます。事業所の居宅介護支援事業所という事業所が何件もあるんですが、そちらにお願いして申請を出していただくことができます。

**塩竈** 今まさに、間もなく介護が必要になってくるかも知れないと言われている年齢に近づいている方というのは、こういった申請するにはこうしたら良いんだとか、家族にはこういうふうに動いてもらったら良いんだなというのを勉強されている方は結構多いかと思うんですけど、若い世代、私たちは支えていったら良いんだなってまずは思っている中でも、例えば、怪我であったりとか病気であったりとか、こういったところで、介護認定というのをされて介護が必要になるのがいつ来るかっていうの、も

ちろん分からないわけですよ。

**荻 荘** そうですね。

**塩 竈** こういったのは、本当にいろいろな世代でしっかりと仕組みというのを学んでおいたりとか、いざと時に自分はどのように手続きをしたら良いかというのをしっかりと最初から知識を身につけておくっていうのはとても大事ですね。

**荻 荘** そうですね。

**塩 竈** こういった介護認定のお話が出てきましたけれど、どのくらいの方が介護認定を受けていらっしゃるのでしょうか。

**荻 荘** 一関では 65 歳以上の人口の約 2 割の人が認定を受けています。ただ、その方々全員がサービスを利用しているというわけではないです。

**塩 竈** なるほど。第三者の見方ではちょっと介護が必要じゃないかなと思っても、ご本人自身のその気力であったりとか体力によって、サービスは受けていない方というのもいらっしゃる。

**荻 荘** ご家族は、利用するために申請したけれど、ご本人さまが乗り気でなかったり、または、デイサービス等に通ってみたけれど、やっぱり合わなかったっていう方もいらっしゃいます。

**塩 竈** なるほど。平成 12 年から始まった制度ということで、まだ 10 年と始まって数年というそういった制度ですけども、いろいろなそういった利用する方々から意見であったりとか、それからこういったところこういうふうな工夫したら良いんじゃないかなっていう、そういうのがいろいろ出てくることによって、その保険制度というのがより厚みを増してくるかも知れませんね。

**荻 荘** そうです。

**塩 竈** まずは、こういう知識をしっかりと身につけておくのが大事ということが分かりました。さて、こういった介護保険制度について分からないことがいろいろあるっていう皆さん、どこに問い合わせしたら良いのでしょうか。

**荻 荘** 介護保険の制度については一関地区広域行政組合介護保険課まで問い合わせをお願いします。

**塩 竈** 今日はこの介護保険制度についてお話を伺ってきました。スタジオには一関地区広域行政組合介護保険課の荻 荘 瑤子さんにお越しいただきました。荻 荘 さん、ありがとうございます。

**荻 荘** ありがとうございます。

**塩 竈** このコーナーでは、医療の分野、介護の分野、そして福祉の分野、いろいろな方面です。今の一関の中での取り組みというのを皆さんにご紹介しています。できるだけ、その医療から介護へ切れ目ないサービスをしていこうということにいろいろな工夫が行われているんですね。利用する側のみなさんもそういった仕組みというのをしっかりと理解することがとても大切なんだなあとも毎週のように感じます。高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせる、市民の私たちとそして医療・介護・福祉の関係者たちがそれぞれの仕組みについてしっかり理解する、協力することを目的にこのコーナーをお送りしています。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」地域医療体制充実のため、私たちも積極的にこの仕組みに関わっていきましょう。このコーナーは、一関市健康づくり課の提供でお送りしました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM（FM あすも）番組  
放送日：平成 27 年 1 月 28 日（水）17：20～17：35（塩竈一常 GET KING!!）  
（再放送：2 月 1 日（日）9：10～9：25 REFRESH!!）

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 14 回放送 一関東部地域包括支援センター 鈴木隆稔 主任主事

（聞き手：FM あすも 塩竈一常）

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」一関では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーでは、医療機関や介護施設の役割、また利用方法などを医療・介護・福祉の関係者とそして私たち市民が、ともに理解、協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。さて私たちが住んでいるのは、その地域毎に色んな違いというのが微妙にありますよね。それぞれの地域性に応じた包括ケアシステム、この構築を目指して色んな取り組みを一関地区広域行政組合では行っています。今日ご紹介するのは、一関東部地域包括支援センターどんな取り組みをこの地域包括支援センターで行っているのか具体的な内容などについてお話を伺っていきます。

**塩竈** 今日スタジオには一関東部地域包括支援センターの主任主事、鈴木隆稔さんにお越しいただきました。鈴木さん、よろしくお願ひします。

**鈴木** よろしくお願ひします。

**塩竈** まず、この鈴木さんのお仕事をされています地域包括支援センター、センターの名前はよく聞いたことがある方っていうのは多くいらっしゃるかと思うんですけども、このセンターの取り組みについていろいろ伺ってきたいと思ひます。そもそもこの地域包括支援センターというのはどういった機関なんでしょうか。

**鈴木** 地域包括支援センターは地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、地域住民の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的として平成 18 年度から介護保険法の規定によって設置されている機関です。

**塩竈** これは国の法律規定によって設置されているってことで全国各地にあるということですね。

**鈴木** はい、そうです。

**塩竈** 私たちが住んでいる一関地区のエリアではどうかってところを教えて下さい。

**鈴木** 一関地区広域行政組合では、西磐井地域、東磐井地域の高齢化率ですとか医療をはじめと

した社会資源の違い、そういったそれぞれの地域性に応じた地域包括ケアシステムの構築を目指して、一関市に 6ヶ所、平泉町に 1ヶ所の地域包括支援センターを設置しています。このうち東磐井地域には、東部地域包括支援センター、高齢者総合相談センターしぶたみ、それから高齢者総合相談センターふじさわの 3か所を整備しています。

**塩竈** 今日鈴木さんには、では東磐井地域にあります 3か所のこの包括支援ケアセンターについてお話を伺ってみたいと思ひます。それぞれで行われている活動なんですけれども、こちらのほうご紹介いただけますか。

**鈴木** 介護保険制度では、高齢で介護が必要となっても、できるだけ住み慣れた地域でその人らしい自立した生活が送れるよう、医療・介護・介護予防・住まい及び自立した日常生活の支援が地域において一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を目指しています。

地域包括支援センターではその実現に向けて、包括的支援事業として4つの事業を実施しています。

**塩竈** いろいろな分野、その高齢になった生活の中で必要とされるものについて地域で一体的にそういったサービスが提供されていく、そういった事業なんですけど4つの分野の事業があるということなんですけれども、まず1つ目はどんなことでしょうか。

**鈴木** 1つ目は介護予防ケアマネジメントです。これは、要介護状態の予防や介護状態の悪化の防止のために、介護予防計画の作成等を通じて、高齢者の方が自主的に介護予防に取り組んでいただけるように支援をしています。

**塩竈** はい、1つ目が介護予防ケアマネジメントこういった取り組みです。2つ目はこういったものですか。

**鈴木** 2つ目は総合相談です。総合相談では地域に住む高齢者の相談を受け、適切な機関や制度、サービスなどに繋ぐことで解決を支援していきます。

**塩竈** なるほど。年齢がこう高くなっていくといろいろその生活の中でも不安なことっていうのが増えてくるでしょうから、そういったものの総合的に相談にのってもらえる場所ということですね。3つ目の取り組みはどういったものでしょうか。

**鈴木** 3つ目は権利擁護です。権利擁護は高齢者の虐待に繋がる事案ですとか、認知症等で判断能力が不十分な方への支援をですね、一関市、平泉町ですとか関係機関と連携しながら実施しています。

**塩竈** 出来るだけ健康・健やかに過ごしていく権利というものは皆さんあるわけですので、これを守っていくための取り組みをしているということですね。4つ目の取り組みはどういったものでしょうか。

**鈴木** 4つ目は包括的継続的ケアマネジメントです。こちらのほうは、医療・介護・あるいは金銭管理等複数の領域に跨ぐ課題への対応が必要な場合や、病院から在宅への移行などの際にですね、支援が途切れないように高齢者を担当しているケアマネジャーの方を支援したりですね、そういった地域の連絡体制を整備したりするという事業です。

**塩竈** 番組の中でもこの介護の分野、医療の分野の話っていうのをよく伺うんですけども、それぞれの制度というのは実は本当に充実しているものっていうのは沢山あるわけですけども、住民の方々がなかなかそういったところをご存じなかったりとか、実はこういったものもあったから、もっと早くから利用していたら良いなって気づくことっていういろいろあるようなんですよね。こういった皆さんにいろんな情報っていうのを包括的に伝えていく、また継続的に伝えていくという取り組みもされているということです。こういった取り組みっていうのを有効に機能させるために、いろいろなものというのが重要になってくるかと思うんですけど、ここについて鈴木さん教えて下さい。

**鈴木** はい。こうしたことを有効に機能させるためには、支援を必要としている高齢者の方を早期に支援につないでいくことが重要になってきます。高齢者の方の中にはですね、自ら支援を求めることが困難な方もおられますし、こういったことがありますので、東磐井地域においては平成24年度から「気づきの通報を受ける仕組み」としてですね、取り組みを行っています。

**塩竈** 「気づきの通報を受ける仕組み」。いろいろと高齢になってくると手助けが必要になってくる、いろいろな支援っていうところが必要

になるんですけども、そういった方々がここに居るっていうところにまずは地域全体で気づくってところから始めようってことなんです。具体的にはどんな取り組みなんですか。

**鈴木** こちらのほうはですね、郵便局ですとか、乳製品の配達、あるいは新聞配達、それから食事の配達をしている事業所さんのご協力をいただきまして、訪問先でですね、例えば配布したものが郵便受けに溜まったままになっていたりとか、実際お会いしている中でこうちょっと物忘れが目立つようになってきたなあなんていう方がいた場合にはですね、包括支援センターのほうに連絡を入れていただくというふうに、そんな取り組みになります。

**塩竈** なるほど、昔からその地域の生活の中では隣近所でいろいろ声を掛け合ったりとか、それからあそこのお祖父ちゃんとか、お祖母ちゃんこう見なくなったとかいうところで、地域の方々が気づいていくということで成り立っているってところがありましたけれども、そこに加えて、その連絡をする先ということで地域包括支援センター、ここに連絡を入れてもらうことでいろんな取り組みにこう結び付けていく、効率的に結び付けていくことってできるわけですね。平成 26 年度ですが、協力いただいている事業所ってというのは東磐井地区ではどのくらいあるんでしょうか。

**鈴木** 平成 26 年度は 26 の事業所にご協力をいただいています。

**塩竈** なるほど。生活の中でこれだけの数の事業所があると関わる機会っていうのがあってしょうからね。これまでの取り組みの中で功を奏したといいますか、何か事例ってあるんでしょうか。

**鈴木** 平成 25 年度にはですね、8 件の連絡がありましてですね、その中には実際に介護サービスの利用等に繋がったという事例もございます。

**塩竈** そうなんですか。まあ気づくということで、先ほどもお話がありましたけれども、郵便の方ですとか様々な配達の仕事をされている方に協力を依頼する、その例えば新聞が溜まっていたりとか郵便物が溜まっているって、こういったところの気づきというんでしょうかね。

**鈴木** そうですね。

**塩竈** なるほど。これによって、なかなか動けなくなっている状況になっている方に気づくことが出来たりとか、それからいろいろなそういったサービスの利用に結び付けることができたとかって。もちろん旅行とかでご自宅にいらっしゃらないっていう場合もあるんでしょうけどもね。

**鈴木** はい、そうですね。新聞が溜まっている等の連絡があった場合はですね、まあ調べてみると、やっぱりその入院ですとか旅行に行行って不在にされていたという場合も多く見られるところですよ。

**塩竈** そういった状況の中で、例えばそういった公の取り組みの方々が自分に対して大丈夫ですかって声をかけてもらえるというふうになると、住民の皆さんからすると心強さっていうのも増してきますよね。

**鈴木** はい。

**塩竈** この地域の中でこういった取り組みが行われているということなんですけれども、こういったのを運用しているっていいですか、包括支援センターの皆さんの取り組みだけではなく、実際に関わってくる市民の方々も同じように協力していくってことが必要かも知れませんね。

**鈴木** やはり地域においてはですね、特にもひとり暮らしの高齢の方ですとか高齢者のみのご世帯の方などを多様な方々が見守って、さりげなく行っているということがございますので、

そういうことがありますので高齢者の方もですね、普段から地域とのつながりというのを意識していただきまして、例えば、数日間家を離れる際には近隣や配達事業者などに一言「行って来るよ」と声をかけて行っていただくとお互いにこう安心して生活できるようになるのではないかと考えております。

**塩竈** なるほど。今のちょうどその高齢者って言われている方々っていうのは、現役世代にそれぞれの家庭の自立であったりとか、個人を大切にとか、個性的なっていうところをすごく言われていた世代かも知れませんが、そういった中でどうしても地域の繋がりがなかなか持たないままで来たのかも知れませんが、あらためてこういった取り組みっていうのが地域で行われている、そこそこ繋がっていきって一歩踏み出すことで、よりこういった仕組みというのは強くなっていくんじゃないかなっていうふうに感じたりもしました。

さて今日はですね、この東磐井地域の包括支援センターについてお話を伺ってきたんですけれども、いろいろな相談事ですね、高齢者の方からのご自身からの相談もそうですし、それから地域でちょっと気になる高齢者の方がいらっしゃるって場合、それぞれ皆さん連絡をしていただくことでこういった繋がりに結び付けることができます。鈴木さん、東磐井地域ではこの窓口というのは、こういったところで設けられているのでしょうか。

はい、東磐井地域ですけれども、千厩・室根・川崎地域の方につきましては、一関東部地域包括支援センター、こちらに連絡をいただきたいと思います。それから大東・東山地域の方につきましては、高齢者総合相談センターしぶたみ、こちらに連絡をいただきたいと思います。それから藤沢地域の方につきましては、高齢者総合相談センターふじさわのほうに連絡をいただきたいと思います。

**塩竈** 皆さんのお近くの地域包括支援センターまでご連絡をお願いします。あらためて、千厩・室根・川崎地域にお住まいの方、一関東

部地域包括支援センター、これ千厩支所の1階にあるということです。電話番号51-3040番です。続いて、大東・東山地域にお住まいの方、こちらの方々の地域包括支援センター、高齢者総合相談センターしぶたみというのが、大東保健センターの中に設けられています。電話番号71-0053番です。藤沢地域の皆さん、老健ふじさわの中に高齢者総合相談センターふじさわが設けられています。ここは電話番号63-3181番となっています。

例えばご家族の中に高齢の方がいらっしゃるってか、それからご自身で年齢がこう高くなってきたかなっていう方々はこういった支援センターの存在をご存知かも知れませんが、今の話の中では地域ぐるみでこういった方々を見守っていくというのが大切だっていうふうに感じました。自分の身近に高齢の方っていうのが居たかなどうかなっていうふうに思う方でも、そういったところで連絡するというところで地域に繋がることってあるかも知れませんが、お住まいの地域のこういった地域包括支援センターの存在というのをしっかりと覚えていただければと思います。今日は一関東部地域包括支援センターの主任主事 鈴木隆稔さんにお越しいただきました。鈴木さん、今日はありがとうございました。

**鈴木** ありがとうございます。

**塩竈** さて今日は東部地域、東側の地域の包括支援センターについてご紹介しました。西側の地域ですね、西部地域包括支援センターというものもあるんですね。これはまた後日みなさんにご紹介していきたいと思います。地域医療の体制、地域の介護の体制を充実させるため、私たちも積極的に様々な取組に関わっていきましょ。う。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」。このコーナーは、一関市健康づくり課の提供でお送りしました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM（FM あすも）番組  
放送日：平成 27 年 2 月 11 日（水）17：20～17：35（塩竈一常 GET KING!!）  
（再放送：2 月 15 日（日）9：10～9：25 REFRESH!!）

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」  
第 15 回放送 一関西部地域包括支援センター 高橋 恵 主任保健師

（聞き手：FM あすも 塩竈一常）

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」さあ一関市では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーでは、2 週間に 1 回、医療機関や介護施設の役割、また利用方法などを医療・介護・福祉の関係者とそして私たち市民が、ともに理解、協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。さて前回このコーナーでは一関東部地域包括支援センターの鈴木さんをお招きしまして、この地域包括支援センターとは一体どういったものなのか、包括的支援事業、一体どういったものかというその概要をご説明いただきました。さあ今週は一関西部地域包括支援センターからゲストの方をお招きしてお話を伺っていきます。

**塩竈** 今日スタジオには、一関西部地域包括支援センター主任保健師の高橋恵さんにお越しいただきました。高橋さん、よろしくお願ひします。

**高橋** よろしくお願ひします。

**塩竈** 先々週は東部地域包括支援センターからゲストお越しいただきまして、お話を伺いました。この地域包括支援センターなんですけれども、地域の皆さんの心、それから身体の健康を保っていく、また生活の安定のために必要な援助を行っていくということで、平成 18 年度から介護保険法の規定により設置されている機関、その私たちの住んでいる一関の中でも西磐井、それから東磐井、いろいろそういった地域の違いっていうのもありますので、その実情に合わせた取組というのをやっているというお話を伺

いました。さあ、高橋さんは西部地域ということになりますけれども、一関市の中で西部地域はどの辺りになりますか。

**高橋** 西部地域は、旧一関市の磐井川の西側になります。

**塩竈** この辺りの地域ということですね。

**高橋** はい。

**塩竈** 皆さんのお住まいの地域、それぞれまた東部地域、西部地域で包括支援センター、その地域その地域に合った取組が行われているということです。さあ今日はこの地域包括支援

センターで行われている取組、先々週は主な活動の内容等を伺ってきたんですけれども、今回は高橋さんにですね、具体的にどのような取組をされているかというのを伺っていきたいと思います。高橋さんがお仕事をされているこの西部地域包括支援センターですけれども、こちらにも多くの皆さんから相談がくるかと思うんですけれども、どういった方々からの相談があるのでしょうか。

**高橋** そうですね、様々な相談の中には、高齢者ご本人さんからではなくて地区の民生委員の方から相談を受けることがあります。在宅介護支援センターなどの関係機関と連絡をとって対応する場合もありますが、包括職員が家庭訪問を行い状況を確認しに行く場合もあります。高齢者世帯が多くなっておりまして相談件数は増加しています。中には認知症などの症状によ



り、ご自分の課題を認識していない場合もあります。そういう場合、地域の方々と相談しながら継続して関わることもあります。

**塩竈** なるほど、ご本人からの相談だけではなく、地域の皆さんからもそういった相談というものが多く寄せられる場所ってということなんですね。この地域包括支援センターでは、そちらで行われている取組の数々をご紹介いただきたいと思うんですが、まずは「地域ケア会議」こういったものがあるそうですね。

**高橋** 担当しているケアマネジャーさんや地域の方からの相談によっては、地域ケア会議を行うことがあります。この地域ケア会議は包括職員が主となって、地域の人や関係者が一堂に会して話し合い、情報を共有しながら少しずつ支援に繋ぐものです。会議と言うとあらたまった印象を受ける方が多いかもしれませんが、参加者相互に知恵を出しながら今後の生活について考え相談する場とも言えます。

**塩竈** これは対象になる方とかお1人に対して、どういったそういった地域でケアができるかっていうところ関係する皆さんがこうやって集まってくるという、その事例その事例に合わせてそういった会議が設けられるということなんですね。

**高橋** そうですね。

**塩竈** 確かにおっしゃったように、その会議というふうに言われると何かあらたまった感じがありますけれども、どのようにその方を地域で支えていくか、そういったケアミスを相談する場所を設けられる場でもあるんですね。ここを通して、高橋さん感じられることって何かありますか。

**高橋** そうですね。安心してやはり生活できる環境が整うまでには、それぞれなんですけれども、時間がかかることも結構あります。ただ、こうした地域ケア会議を積み重ねることで、どの方に対しても高齢になって、そのおひとりお

ひとりがその人らしく生活できるような地域に近づいていく一助になれば良いなと考えております。

**塩竈** 実際に自分についてこうやって話し合ってもらっている、そういった場所ってあるかも知れませんが、自分自身がそういった場所に関わるってということで、例えば自分がこれから先高齢になった時にどういったケアをこう受けていくべきか、それから家族はどういうふうに関わっていくかって気付くきっかけにもなるかも知れませんね。

**高橋** はい。

**塩竈** この地域ケア会議、参加される方、地域の方々、それからご親族の方にも同席いただくことがあるそうなんですね。

**高橋** はい。

**塩竈** こういった方々には、地域包括支援センターからお声を掛けるということになるんでしょうか。

**高橋** 私ども地域包括支援センターのほうから声を掛けることもありますので、皆さん、声を掛けられた際には、ちょっと行きづらいなとかって思わないで、ご参加、ご協力いただければ有り難いと思います。

**塩竈** その助け合いというところがありますので、いずれ自分がそういったとこにこう関わってくるっていうのが出てくるかも知れませんが、こういった機会でもまたその地域にこう関わっていく良いきっかけにさせていただければと思います。さて、さらに地域包括支援センターでは認知症サポーター養成講座って言うのも行われているんですね。

**高橋** 要望を受けて認知症サポーター養成講座を実施しております。認知症サポーター養成講座を受講いただいた人は、認知症サポーターとして、認知症を正しく理解し、認知症の人や

その家族を温かく見守る応援者になっていただいています。講座を受講した方には認知症サポーターの目印として、このオレンジリングというのを渡しています。これまでサロンや元氣いきいき教室、個人のグループ組織や企業で講座を開催してきました。他の包括支援センターでは小学校で開催しているところもあります。高齢者が増えるこれからの時代は認知症の方も増加すると予想されておりまして、認知症になっても住みやすいと思える地域づくりも必要と言われてしています。

**塩竈** 家族の中で突然この認知症というものに向き合うとなると、いろいろなそういった驚きであったりとか、不意にそういった出来事があるっていうふうになると心の準備もなかなかできていないっていう方も多いかも知れません。そういう話をよく聞くんですけども、こういったサポーター養成講座というのを普段からこう受けておくことで、いざという時へのそういった心構えというのもできそうですね。

**高橋** はい。

**塩竈** この養成講座、参加する方とか、きっかけ、こういった感じでお越しいただく方っていうのが多いですか。

**高橋** 地域で何かお勉強会をしたいんですけどと言う場合もあります。

**塩竈** なるほど。その地域全体でそういったところに向き合おうっていう動きが、こういったサポーター養成講座の中でも生まれてきているんですね。この養成講座ですけども、事務局はどちらのほうで実施されているんでしょう。

**高橋** 事務局は一関市ですと一関市役所社会福祉課の高齢福祉係、平泉町ですと平泉町保健センターになります。

**塩竈** ご興味ある方は是非こちらのほうにも問い合せていただきたいと思います。さて西磐井地域包括支援センターの高橋さんに今日はお

越しいただいてお話を伺っているんですけども、地域ごとで様々なこういった取組が行われ始めているっていうところが今日は分かりました。高橋さん関わっていらっしゃるところで、一関地区認知症の人と家族の会、こういった会があるそうなんです。

**高橋** はい、そちらのほうにも参加しているんですけども、この会は、認知症の人とその家族、介護に携わる方など、どなたでも参加できる集う場所として、家族の会の岩渕さんが世話人となって行っているものです。

**塩竈** 会は普段はどういった活動をされているのでしょうか。

**高橋** 普段はですね、月に1回なんですけれども、認知症介護の相談を行ったり、介護家族の息抜きの場としてコーヒー等を飲みながら一緒に話をしています。以前は一関市総合福祉センターの3階で行っておりましたが、現在は認知症のご本人さんが参加されてもくつろげるようにということで、一関市総合福祉センターの1階、喫茶ぷくぷくさんで行うようになりました。

**塩竈** 介護を取り巻く環境というのは、本当に国の取組というのいろいろな新たなものが始まったりとかですね、生まれてくるところもあるでしょうし、その介護に必要なグッズっていうのも新しいものが出てきたりというものもあるでしょうから、そういった情報交換もきっとできるでしょうし、何よりも今お話にありましたけれども、介護される家族のその息抜きの場、これも大事ですよ。

**高橋** はい、そうですね。

**塩竈** いろいろな皆さんからいろいろな意見であったりとか感想というのがあるかと思えますけれども、高橋さん、ここに参加されてみていろいろ感じることもあるかと思えますけれども。

**高橋** そうですね、少し普段思っていることとお話いただいて、少しすっきりした表情でお帰

りになっているかなと思います。

**塩竈** なるほど。そういった場所っていうのがここにあるだけでも心強さというのがこう生まれてきますよね。こちらに参加されている方々、まあそのご本人の方もそうですし、家族の方々、それから世話人の方々もいらっしゃるということなんですけれども、西部地域包括支援センターの職員の方々もこう参加していらっしゃる、他にもあのいろいろな職員の方々が参加されているそうですね。

**高橋** 高齢者総合相談センターさくらまの職員や、あとは交代で在宅介護支援センターの職員も参加しております。

**塩竈** そうですね。それでは開催されている日時はいかがでしょうか。

**高橋** 毎月第3水曜日の10時から12時となっております。

**塩竈** お聞きしましたら、参加費は飲み物代100円ということですか。これまであまり介護に関わっていなかったという方々も、今お話にこうありましたけれども、様々な相談、それからいろいろそういった普段の生活の感想であったりとか、こういったところをこういう\_\_\_\_\_と思いますので参加されてみたらいかがでしょうか。

**塩竈** さあ今日は西磐井地域包括支援センターについていろいろお話を伺ってきたんですが、では窓口のご紹介をいただきたいと思えます。まずはその相談ごとですね、高齢者の方からのご相談、また地域で気になる高齢者の方がいるという方、この地域包括支援センターまで連絡をお願いします。一関地域のうち、それぞれの地区ごとにその窓口が分かっているということなんですけれども、まずは高橋さん、一関地域のうち山目、中里、厳美、萩荘それぞれの地区の皆さん、どちらに連絡をしたらいいでしょうか。

**高橋** はい、一関西部地域包括支援センター、場所は一関市役所1階の⑩番窓口になります

**塩竈** はい、電話番号は21-8618番となっております。そして一関地域のうち一関、真滝、舞川、弥栄それぞれの地域の皆さん、こちらの相談窓口はどちらになりますか。

**高橋** はい、高齢者総合相談センターさくらまちになります。場所はサン・アビリティーズ一関の左奥でございます。

**塩竈** はい、こちらの電話番号は48-3180番です。続いては花泉地域、こちらの皆さんはどちらに問い合わせをしたら良いでしょうか。

**高橋** はい、高齢者総合相談センターはないずみで、一関市役所花泉支所の1階でございます。

**塩竈** はい、こちらの電話番号は36-3021番となっております。そして平泉地域、こちらの相談窓口も教えてください。

**高橋** はい、高齢者総合相談センターひらいずみで、平泉町福祉活動センター内でございます。

**塩竈** はい、こちらの電話番号は46-5653番となっております。一関地区広域行政組合では西磐井の地域、それから東磐井の地域、それぞれの地域性に応じた地域包括ケアシステム、その構築を目指しまして様々な所にこういった拠点を整備しているということです。今日は一関西部地域包括支援センターの主任保健師、高橋恵さんにお越しいただきましてお話を伺いました。高橋さん、ありがとうございました。

**高橋** ありがとうございました。

**塩竈** さあ私たちが住んでいるこの一関の町では高齢化が進む、これはよくみなさんも耳にするところですよ。住み慣れているこの地域で安心して暮らせるように、今お聞きいただいたように、医療から介護への切れ目ないサービスを目指して取り組みが行われています。それ

ぞれの役割、また利用方法など、医療・介護・福祉、実際にそれに直面している方々だけではなく、これからそこに向かい合っていくという方々も、しっかりと情報を得ておくというのは大事ですね。市民のみなさんが共に理解協力することを目的に、再来週もこのコーナーお送りしていきます。地域医療体制充実のため、私達も積極的に関わっていきましょう。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」。このコーナーは、一関市健康づくり課の提供でお送りしました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日 : 平成 27 年 2 月 25 日 (水) 17 : 20~17 : 35 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送 : 3 月 1 日 (日) 9 : 10~9 : 25 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 16 回放送 平泉町保健センター 千葉幸一 所長

(聞き手 : FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーです。今日は平泉町からお客様をお迎えしました。平泉町保健センター所長の千葉幸一さんです。千葉さんどうぞよろしくお願いします。

**千葉** はい、よろしく願いいたします。

**塩竈** 一関市にも保健センターというのがありますが、平泉町でもこの保健センター、様々な取り組みが行われているようですね。

**千葉** 町民の方々の健康づくりを主な業務としておりますし、あとは福祉関係も担っております。

**塩竈** 私たちが住んでいる一関と平泉町からこう隣接しておりますので、いろいろそういった医療の場所であったり、介護の場所っていうのも共有しているっていう風なところもありますよね。

**千葉** はい、そうですね、限られた資源でございまして、一関市・平泉町、連携しながらというところで医療と介護については取り組みを行っているというような状況となっております。

**塩竈** なるほど。その限られた資源といいますか、そういった場所というのを有効に使っていくための工夫をいろいろとその保健センターのみなさん凝らしていらっしゃると思います。私たちもそういった資源というのを効率よく賢く使っていくっていうのを身につけていきたいということで、今日はそういったお話まで千葉さ

んと一緒に進めていきたいと思います。

**塩竈** まずは千葉所長、「平成 26 年度平泉町在宅医療介護連携推進事業」こういったのが行われているということなんですけれども、平泉町の現状も含めまして、こちらの目的ですとか、それからどういったものなのかを教えてください。

**千葉** まず医療と介護の関係につきましては、一関市医療と介護の連携連絡会というのに、平泉町も参加をさせていただきながら、医療と介護の連携について事業を進めているといったところでございましたが、平泉町、町単独としてもですね、在宅医療介護の連携を推進していきたいというようなことで、この事業に取り組んでいるところでございます。

**塩竈** 様々なその事業が行われているということなんですけれども、平泉町の在宅医療介護連携推進事業、あの主なメンバーになるというのはどういった方々なんでしょうか。

**千葉** 町内のお医者さん、それから内科の先生と歯科の先生、それから一関の医療の連携会の長澤先生とかですね、あと薬局、それから地域包括支援センターの居宅介護支援事業所、それから特養、特別養護老人ホームですね、介護老人保健施設、グループホームなど各医療関係・介護施設の方々がメンバーとなっております。

**塩竈** なるほど。様々な会が催されたりとか、それから研修が行われるということで、26 年度を振り返りますと、まずは 8 月に初回推進事業

についての説明がありまして、研修会が10月に行われたということですね。これどういった内容のものだったのでしょうか。

**千葉** 第1回の8月には、先ほど申し上げましたメンバーの方々にお集まりいただいて、この事業の取り組みというか概要についてお話を申し上げまして、その中で研修会を取り組んでいくというようなところで、10/22でしたけども「認知症の理解」ということで一関の岩手病院の千田圭二院長先生に認知症についてお話をいただきましたし、あと隣の奥州市さんの認知症地域支援の取り組みということで「奥州市徘徊SOSネットワーク構築に向けて」というようなところですね、奥州市の地域包括支援センターの小野寺さんのほうから講演をいただいて研修会をしたというようなところですし、あと1/16、今年に入ってからですが、また会議でこれらの事業についてまとめをしたと、まあ会議とか研修についてはこれらになります。

**塩竈** なるほど、医療・介護のまさに最前線でお仕事をされている方々のそういった現状報告であったりとか、それから先進的なその取り組みに等についての話し合いがここであったってということですね、更にこの推進事業の中では住民のみなさんに色々関わっていただくって、これがもう1つ大事なところだと思うんですが、住民のみなさんに関わっていただく、その理解を促すために様々な取り組み、こちらも行われたようなんですが。

**千葉** はい、医療と介護についての現状把握ということのためにアンケート調査を実施しました。これにつきましては、20歳から80歳未満の方まで無作為抽出で1,000名の方にご連絡を申し上げまして取り組んだところでしたが、回収率としては487名の48.7%、男性225名、女性256名の方から回答をいただいたというようなところがございます。あとそれから理解を促すためってということですね、こちらの講演会ですね、開催しております。12/20でしたけれども、「医療と介護を考える」講演会ということで、一関市医療と介護の連携連絡会の幹事長で

あります一関中央クリニック院長の長澤茂先生からご講演をいただいて医療と介護について一般の町民の方々に講演をいただきました。

**塩竈** さらに2/15には「平泉町健康づくりの集い」の中で、この在宅医療介護連携推進事業この普及啓発なども行われたということですね。それから平泉町の中でモデル地区というのをこう設けて、地区ごとのその勉強会っていうのも行われるようですね。

**千葉** これにつきましては、平成26年度はですね、町内にある21行政区の中から1つの地域をモデル地区ということで選定いたしまして取り組みをいただいているというところがございます、平泉町の長島地区のですね、1つの行政区なんですけど19区というところの行政区でモデル地区ということで取り組んでいただいております、認知症のグループホームの視察見学とかですね、あとは同じく「認知症についての理解」ということで長澤先生から講演をいただき、あと特別にこの19区の方を対象に講演会をしていただいたというようなところ、それから県立南光病院の認定看護師の方に「認知症の方への対応」ということでお話をいただいたというようなところで、地域で認知症について勉強して、みんなで認知症の理解を深めていこうという風な対応しているところがございます。

**塩竈** なるほど。この事業を進めていくに当たって様々な方面でその学んでいただきたいこと、それから現状を把握していただきたいところというところ、いろいろな面で協力されている方々の中での意識調査なども行われたということなんですが、調査を行われたりとかいろいろ1年間の取り組みを通じて、特に平泉町の現在の特徴だったりとか、これからの見通しみたいなところとか千葉さんでどういうふうに分えられていらっしゃるんですか。

**千葉** やっぱ高齢率化がおよそ33%程になっておりましたので、ほぼ3人に1の方が65歳以上の高齢者の方ということになってお

ります。ただ元気な高齢者の方も沢山いらっしゃいますので、その方々と共にですね地域でやっぱり孤立することなく自立を目指してみんなで支え合って、そういうような地域を作っていきたいなっていうふうに思っております。

**塩竈** なるほど。そのためにも様々なその町の取り組みであつたりとか、現状を地域のみなさんにまずはご存知になっていただく、知っていただくっていうことが大事かも知れませんね。このコーナーを通じて、この私たちが住んでいる地域の医療体制と現状であつたりとか、介護施設の役割等々についていろいろご紹介しているんですが、今日は平泉町保健センターの千葉所長にお越しいただいています。千葉さんには今日はパンフレットをお持ちいただきまして、私たちもできる、その医療を支える行動ということで、その地域医療を支えていくために私たち市民が今度取り組んで行くべき事というのがですね分かりやすくまとめられているそんなパンフレットをいただきました。千葉さんこれ見えていくと結構いろいろな項目があるんですけども、1つ1つをちょっと見ていきたいと思えます。まず1つ目をちょっとご紹介頂けますか。

**千葉** はい、普段から健康管理を心がけましょうということで、これはですね「自分の健康は自分で守る」という意識をみなさんに持っていて、病気の予防や治療法を勉強したり食事や運動など日頃から健康管理を心がけていただきたいというところでございます。

**塩竈** なるほど。医療体制を支えるとなると、いざこう病気になつたりとか自分がその看護する側に回つたりとかっていう時に初めて始まるのかなという風に思いがちですけども、普段からのこの心がけ、ここから始まっていく訳ですね。2つ目が健康診断を受ける、これも大事なんですね。

**千葉** そうですね、あの体は日々変化しておりますので、最低でも毎年1回は健康診断を必ず受けていただきたいと。そして、その健診結果をその後の生活習慣の改善にいかしていただき

たいというところがございます。

**塩竈** はい、続いてこの地域医療を支えていくために私たちが出来る行動できる3つ目は診療時間内に受診すると、こういった具体的なことも出てきました。これについてもご紹介いたします。

**千葉** はい、医療機関も限られた中ですね、病気やけがなどで医療機関にかかる場合は、なるべく診療時間内に受診していただきたいと。時間外に救急病院を安易に利用することによりますと、入院や救命を必要とする重症患者の治療に支障がでる恐れがあります。本当に必要な人が必要なときに受診できるよう、コンビニ感覚での夜間受診を控えていただきたいというところがございます。時間内に受診することは、医師の負担を軽くするほか専門医の診断や検査を受けることができるメリットがあります。

**塩竈** なるほど。診療時間外も大事ですが、休日・夜間その受診についてですが当番医を利用するこれも大事なんですね。

**千葉** そうですね、休日や夜間に具合が悪くなった時は、両磐地域の休日当番医や小児・成人夜間救急当番医を利用していただきたいと思えます。

**塩竈** はい、この救急当番医に関しては一関市それから平泉町それぞれの広報にも掲載されていますし、またFMあすもの番組の中でも夜の時間帯にお知らせもしておりますので、こちらのほうもチェックしていただきたいと思えます。更に5つ目、お薬手帳を持つ、これも大事なんですね。

**千葉** そうですね、ふだん健康で病院に行つたことがない人はあまり縁がないものかと思えますけども、病院に行つてお薬をもらう時にはですね、処方された薬の内容や薬の効能・副作用について記録するお薬手帳を作りましょうというところがございます。

**塩竈** はい、便利な役割というのがこのお薬手

帳にはありまして、まあ薬の重複などを避けることが出来たりとか、外出先で急な事故にあった時でも、ふだん服用している薬の内容が分かるっていうことで、その薬の飲み合わせですとかこういうところもチェックすることが出来る、また手帳の記録を元にこれまでの体の状況ってところが先生がある程度理解することが出来る、こういったメリットがあるそうです。このお薬手帳ですけれども手に入れるにはどのようにしたらいいですか。

**千葉** 病院・医院・薬局に行った時にですね、申し出をして頂ければ、お医者さん、それから薬剤師さんのほうから、その名前を記録してですね、手帳としていただくということになると思います。

**塩竈** これふだんから持ち歩くっていうことで、いざ例えば災害が起こった時などでも自分自身のそういった病気の状況であったり、それから飲んでる薬の状況ってというのがお医者さんに伝わるってことでよりスムーズにこういった医療を受けることが出来るってことに繋がりますね。

**千葉** そうですね、あの災害時とかは特にですね、どんな薬を飲んでいたのっていうような時には、このお薬手帳があれば一目瞭然ということになると思います。

**塩竈** なるほど。あの今ご紹介したその医療を支える行動というのは、もしかしたら、みなさんもどこかでこう耳にしている、例えば診療時間内に受診するのは大事、当番医を利用するのが大事っていう風に言われていますけども、なぜそれがすごく大事になってくるのか、その地域医療を支えていく潤滑、あの上手く循環していくためにはとても大事な行動なんだっていうところを改めてみなさんにもこう知っておいていただきたいなっていう風に感じます。今日はスタジオに平泉町保健センターの千葉所長にお越しいただきまして、平泉町で行われています在宅医療介護連携推進事業についてと、私たちも出来るその医療を支えていく行動、こ

んな取り組みを始めていきましようというお話を伺ってきました。スタジオにお越しいただきました、平泉保健センターの千葉幸一所長でした。千葉さん、ありがとうございました。

**千葉** ありがとうございました。



平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日：平成 27 年 3 月 11 日 (水) 17:20~17:35 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送：3 月 15 日 (日) 9:10~9:25 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 17 回放送 岩手県看護協会立千厩訪問看護ステーション 藤野みどり 所長

(聞き手：FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」さて、私たちの暮らすこの一関では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーは医療機関や介護施設の役割、また利用の方法を医療・介護・福祉の関係者と市民が共に理解協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** 今日の「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナー。スタジオには公益社団法人岩手県看護協会立千厩訪問看護ステーション所長の藤野みどりさんにお越しいただきました。藤野さんよろしくお願ひします。

**藤野** 今日はよろしくお願ひいたします。

**塩竈** さて、この訪問看護ステーションなんですけれども、市内には現在どの位の数のステーションがあるんでしょうか。

**藤野** 一関市と平泉を含めて 11 か所の訪問看護ステーションがあります。

**塩竈** その中の 1 つがこの千厩訪問看護ステーションということですね。昨年 4 月 15 日の広報いちのせき I-Style「医療と介護の窓」のところにですね、「訪問看護ステーションを知っていますか」と書かれていまして、市民の方々も利用されている方というのは多分いらっしゃるのかなと思うんですが、どういったことをしているのかということをお聞ひして藤野さん教えてください。

**藤野** 健康状態の観察はもちろん、食事や排泄のお世話、あとは寝たきりや認知症の方の介護、あとは相談、リハビリテーション、それと最近では終末期の看護ということで、そちらのほうにも関わらせていただいていますし、それに関わって痛みのケアなどを行わせていただいています。

**塩竈** さらにお医者さんの指示のもとでの医療処置なども行う場合があるそうなんです。

**藤野** 先生から時々指示が出るんですけども、ご自宅で点滴をしたり注射をしたり、あとは血液を採ったりということも先生の指示があれば行わせてもらっています。

**塩竈** この「医療と介護の窓のコーナー」をやっていると、病院の先生にもお話を聞く機会というのが大変多かったです。最近では、病気になって病院に行くと、その治療が終わってから、今度はご自宅でそういった治療に関わるっていう方々って結構多いようなんです。そうすると、病院の中で行われていた様々な医療行為というのを自宅でそれをやっていかなければいけないという場合がありますので、そういった時のサポートをしてくださる人がいるのは非常に心強いです。藤野さんもいろいろな形でそういった患者さんに関わっていらっしゃるのがあると思いますけれども。

**藤野** 私も病院で働いた経験もあるんですけども、訪問看護に関わらせてもらってもう 10 年以上経つんですが、やはり、ご自宅に伺って、

まず30分なり1時間なり、その方に関われるところ、まず良いかなと思っております。あと自分の判断でいろいろなことを考えたりとかなので、それがちょっと大変だということもいらっしゃるんですけども、その辺のところ、やりがいを感じています。

**塩竈** 藤野さんがお勤めの千厩訪問看護ステーションにもあるそうなんですけれども、全国各地の訪問看護ステーション、基本的にはその看護職員として働いている方というのは、どういった職種の方々になるのでしょうか。

**藤野** 看護師はもちろんですし、保健師さん、助産師さんも働いています。あとは、ステーションによっては、理学療法士さんとかリハビリ関係の方もいらっしゃいます。

**塩竈** なるほど。その地域、地域でよくある環境であったりとか、こういったところも配慮されて、いろいろ人数だったりとか職種っていうのも様々あるということなんですね。千厩訪問看護ステーション、こちらでは何人体制という形なんですか。

**藤野** 今、看護師が7名おります。あと事務員が1人ということで8人体制で行っています。

**塩竈** 今、全国各地です、病院でお仕事される看護の職員の方というのは、人数が大変少なくなっている話を聞きますけれども、訪問看護にあたっている人数というのはどうなんですか。

**藤野** 訪問看護ステーションもですね、世の中の流れが、病院から在宅にという流れがある中で、訪問看護の依頼が来た時に、やはり人が足りないところのステーションがほとんどです。

**塩竈** なるほど。藤野さんは、もともと病院でお仕事をされていたというお話がありましたけれども、これから先、病院での看護師の人数が欲しいということもあるでしょうし、また、訪問

看護という分野でも看護する人材確保というのは大変な問題でもありますね。

**塩竈** さて、訪問看護、こちらを利用するとどういった方が来てくださるのかというのは、看護職員の方の職種であったりとか、それから現在の人数などをお話を聞くことができました。さて、では今度です、その訪問介護を受ける側の方なんですけれども、どういった方々になるのでしょうか。

**藤野** 病気だとか、あとは障害があるために自宅での療養生活のお手伝いを必要とする方ですね。それと終末期の方で、病院ではなくご自宅で過ごしたいという方、あとは、訪問看護は赤ちゃんからお年寄りまで受けられますので、かかりつけの先生が訪問看護が必要だよということで認められた方は、在宅で訪問看護が受けられます。

**塩竈** この訪問看護には、どのようなサービスがあるのか、こちらも教えてください。

**藤野** 訪問看護では、「医療保険での訪問看護サービス」と「介護保険での訪問看護サービス」というのがあります。介護保険で受けられる方は、65歳以上の方が主なんですけれども、医療保険に関しては、先ほど申しましたように、主治医の先生が訪問看護指示書を出していただければ、それこそ赤ちゃんからお年寄りまで受けられるという制度になっております。

**塩竈** その療養の状況であったりとか、介護の状況であったりとか環境など、いろいろなところを判断して必要な看護をここでやっていくということなんですね。これは、看護サービスは、時間とかそういうのも決まっているんですか。

**藤野** 医療保険の場合は、1回のサービス時間ということになりまして、だいたい30分から1時間半位のサービスになります。介護保険の場合は、サービスの時間によって料金が変わってきます、20分未満、30分未満、あとは60分未満、それと1時間半未満というふうなことで、

いくつかに分かれて、あと料金も変わってくるというふうなことであります。

**塩竈** その医療行為、医療処置を行っていただいたりとか、それから様々なお世話にあたっていただくというお話が今あったんですけども、実際に看護を受ける方にとってすごく頼りになる存在だなというふうには感じるんですけども、ご家族とかそれから一緒に看護にあっている方からすると大変心強い存在でしょうね。

**藤野** そうですね。やはり認知症の方を看ている方は、なかなか頭で分かっている、その行動でその場面がちょっと見えなかったりとか、そういうところがあって「今日こんなことがあったんだよ」とか「昨日こんなことがあって」とお話を家族さんがしてくるということが結構ありますので、私たちも気をつけて声掛けはしているんですけども、家族さんのほうからも、いろいろな話をされる存在になっているのかなというふうに思っています。

**塩竈** 病院で療養されている間というのは、まさに病気そのものに関しては、お医者さんに相談というのがありますけれども、その治療に実際にあたっていく中での心の不安であったりとか、こういったところを看護師さんに相談する場合というのは、すごく多いのかと思うんですよ。まさに、心の拠りどころと言いますか、そういったお仕事をされていますけれども、訪問看護という形でご自宅にそういった方にやって来ていただいてというのは、これからの時代、本当に支えにする方というのはきっと多いでしょうね。

**藤野** そうですね。そういう存在になれるように日々努力していきたいなというふうに思っています。

**塩竈** 先ほどもお話にありましたけれども、この訪問看護にあたる要員というのが、どうしても少なくなっているということですけども、これから先この要員というのをどんどん増やしていくためにはですね、やはり、その仕事のす

ばらしさと言いますか、こういったところもみなさんにも感じてもらえたら良いなと思うんですが、訪問看護ステーションには、例えば、インターンシップとかで学生さんたちが立ち会うことってあるんでしょうか。

**藤野** はい。学生さんが時々いらっしゃいます。

**塩竈** そうですか。実際に仕事を目の当たりにして感想というのは、どういうのが届きますか。

**藤野** 学生さんは本当に新鮮な目でまず見てくれて、そしてやっぱり一人一人とじっくり関われるというところがすごく良いみたいで、だいたい学生さんの最後の感想としては「訪問看護にいつか関わりたい」というふうに言われて実習を終了する方が多いですね。

**塩竈** なるほど。こういったところから、またやりがいというのが生まれてきたり、また、今の藤野さんにもそのお仕事をされていて感じる事など伺いましたけれども、こういった声がいろいろな皆さんの元に届くところで、さらに自分もそういったところに関わっていこうかなとか、さらに、この制度を利用して家庭の中でもこういうケアをしていくというところまで考えていこうかなという方、どんどん増えてくるのかなと思います。この訪問看護ステーションなんですが、お伺いしましたら、ほとんどのステーションが、24時間の連絡体制ということなんです。

**藤野** はい、そうですね。

**塩竈** 夜間にも、電話相談とかもあるんですか。

**藤野** あります。熱が出たりとか、痰が絡んだりということは、24時間関係なくありますので、だいたい家族さんが対応できるんですけども、どうしても困った時に、やはり相談できる先があるというところでは、その辺は安心していただいているのかなというふうに思っています。

**塩竈** 病院で治療を受けて、それから在宅でそれを癒していくという流れ、これからもどんどんどんどん広がっていくのかなというふうに思いますけれども、その中で私たちの生活をサポートしてくれる大切な存在なんだなというのが今日は分かりました。

**塩竈** さて、藤野さんは、千厩訪問看護ステーションからお越しいただいたんですけども、この訪問看護を受けよう、それから利用するためにはどうしたら良いのかという、そのお問い合わせなんですけども、どなたにしたら良いでしょうか。

**藤野** もしケアマネジャーさんが付いていらっしゃる方は、まずケアマネジャーさんに相談してもらいたいなと思います。あとは、かかりつけの先生、保健センターだとか、そういうところに相談していただいても良いですし、あとはいろいろな地域に訪問看護ステーションがありますので、直接そちらに電話で相談していただいても良いかと思います。

**塩竈** 乳幼児から高齢者まで、お医者さんが訪問看護が必要と認めた全ての人ができるという、そういった制度があります。介護保険の認定を受けた方はもちろんなんですが、医療保険でも利用することができるということですから、今お話がありました担当のケアマネジャーさん、それからかかりつけのお医者さん、さらにお近くの訪問看護ステーション、こちらの方にもお問い合わせいただければと思います。今日は千厩訪問看護ステーションから所長の藤野みどりさんにお越しいただきました。藤野さん、ありがとうございました。

**藤野** どうもありがとうございました。

**塩竈** 藤野さんとお話をしていて感じるところがあるんですけども、今手元にですね、在宅医療と訪問介護のあり方検討委員会が出した「訪問看護活用ガイド」というのがあるんですね。その中に、訪問看護師の方の声というのがありまして、病院と違って訪問介護の分野では、

ご本人そして家族の希望に寄り添った看護ができると、大きな力になれることを魅力に感じて訪問看護の道を選ぶ方というのがとても多いそうですね。お話を聞いている中でやっぱりそういったところから、いろいろ学ばれたりとか、それから誇りを持って仕事をされているというのが言葉の端々から伝わってきたのが印象的でした。この他にも訪問看護の仕事をしている方は、例えば、利用されている方から逆に優しさをいただいたと経験することもあったり、生き方を何か教わったり、それ自体が元気の基にも繋がっているということに気づく、そんな方々も多いようです。訪問看護を利用することによって、在宅療養に関する心配、不安が軽減するだけでなく、病状の悪化を防ぐ、こういったところにも繋がっていくのかもしれないですね。今日は千厩訪問看護ステーションの所長藤野みどりさんにお話を伺いました。

**塩竈** さて、医療の体制の充実、地域医療体制の充実のため、私たちも積極的に様々な取り組みに関わっていきましょう。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」このコーナーは一関市健康づくり課の提供でお送りしました。

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM（FM あすも）番組  
放送日：平成 27 年 3 月 25 日（水）17：20～17：35（塩竈一常 GET KING!!）  
（再放送：3 月 29 日（日）9：10～9：25 REFRESH!!）

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 18 回放送 一関市医療と介護の連携連絡会 幹事長  
一関中央クリニック 院長 長澤 茂 先生  
（聞き手：FM あすも 塩竈一常）

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」一関市では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーは、医療機関や介護施設の役割、また、その利用の方法を医療・介護・福祉の関係者とそして私たち市民が共に理解協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** このコーナーですが、平成 25 年度の放送開始からほぼ 1 年にわたってお送りしてまいりました。昨年 2 月 12 日が初回の放送だったんですが、この時にお越しいただきました一関中央クリニックの院長、そして一関市医療と介護の連携連絡会幹事長の長澤茂先生にお越しいただきました。長澤先生、よろしくお願ひします。

**長澤** どうぞよろしくお願ひします。

**塩竈** 先生にご出演していただいてから 1 年が経つんですけれども、1 年ぶりのご紹介ということで、どうぞよろしくお願ひします。

**長澤** こちらこそ、どうぞよろしく。

**塩竈** 先生に一番最初にお越しいただいた時には、この「一関市医療と介護の連携連絡会」、一体どういった会なのかというところをご紹介いただきました。さらには、1 年間にわたってどのような方々に登場していただくというところまでお話を伺ったんですけれども、先生、この医療、それから介護を取り巻く環境というの

は大変厳しい中で、さらに様々な職種があるというのを僕も学ぶことができました。

**長澤** そうですね。やはり、医療資源という見方からすると決してこの地方は潤沢とは言えないと。数字で言いますと、人口 10 万人対医師の数が 200 というのが全国平均ですので、一関市全体では 170～180、これを東西に分けますと東の方は 100 を割り込むという状況ですので、医療職のみならず看護、介護職、その他諸々の方々のお力を頂戴しないとこの連携というのは上手くないかなと、そういうふうな状況から生まれた会だというふうに存じ上げております。

**塩竈** 医療と介護の連携連絡会、組織されたのは平成 23 年度ということですね。今先生にご紹介いただきましたように、その医療と介護、連携を深めていく、そして市民 1 人 1 人が望んでいる医療・介護サービスの提供を目指し、いろいろな研修等を行っているということなんですが、この 1 年間振り返りますと、先生どのような研修などが行われたんでしょうか。

**長澤** 様々行ってきておりますけれども、昨年は思い起こすまま見ておりますと、認知症についての講演会、あるいは口の口腔ケアと言うんでしょうか、飲み込み、それに付随するむせ込み性肺炎を防ぐための口腔ケアという非常に大事な研修会、今在宅で過ごされている方がとても多くなりましたので、その方々の日頃飲んでいる薬の管理をどうしたらいいかという在宅の服薬、これについての勉強会、あるいは今年の 2 月 1 日から動き出しました、その連携シートという、私たちは「くらしのシート」「退院シー

ト」と呼ばさせていただいていますけれども、これを作り上げるため医師会の先生方、あるいはケアマネジャーさんお集まりになって、いろいろな角度からご審議をいただいて2月1日から動くようになったと、その大事な研修会もありました。それからあとは、市民フォーラムで、救急医療についてということで県立病院の先生方からご講演を頂戴し、それからシンポジウムの形で地域医療を考えると、一般の方々あるいは県立病院の応援隊等々の本当にいろいろな角度からご意見を頂戴したシンポジウムを開かせていただいたというふうに思います。

**塩竈** なるほど。具体的な取り組みで、今先生からもお話がありましたけれども、「医療と介護の連携マニュアル」平成27年2月付けで、この医療と介護の連携連絡会の皆さんでお作りになったマニュアルなんですけれども、ページをめくっていきますと、目的というのは番組でも紹介していることなんですけど、連携の大切さ、具体的にこのように取り組んでいこうというところ、それぞれの専門の皆さんの拠りどころと言いますか、指針になるようなものが作成されたということですね。

**長澤** そうですね。順序からいきますと、医療機関にかかる時に、あるいは不測の事態があって入院を必要とするような状況ですね、現在までは医療機関の場合には紹介状という形で向こうの医療機関の先生方へこういう状況ですとドクターが書くものがあったんですけど、全ての方がそういう形では動き得ないということ、十分そういう状況がありますので、これはご家庭でもあるいはそういうご家庭に類似する施設でも、この方はこういう薬を飲んで、こんなふうな例えばお腹が痛くて今日は来たとかですね、あるいはお身内の方と住んでいる住所が離れているような場合には、この方がその連絡先のご長男ですとか、そういういろいろなことを分かりやすく医療機関に伝えると、そういうものが入り口に位置する「くらしのシート」というものであります。

**塩竈** なるほど。医療をこれから受けていく、

介護を受けていく、そういった方の基本情報と言いますか、そういうものがここに書かれているということですね。

**長澤** そうですね。

**塩竈** これまでは先生がおっしゃっていたように病院からの紹介状であったりとか、医療機関であったりとか、かかる所でフォーマットがまちまちだったということがあつたようですね。

**長澤** そうですね。大体はざっくりとは同じ様な形ではあるんですけども、そこは専門職から専門職ですので、それぞれの連携と言いますか、という所で留まっていた。これを少し裾野を広くして、分かりやすくして、医療職のみならず、その方の健康管理、あるいは一緒に暮らしている方々から情報を発してもらおうということでもありますので、広くこのことが動くことによって、医療機関でもこの方はこういう生活、あるいは家族歴、あるいは、どこかの医療機関の薬でお世話になっているということ、いち早く情報を届けるというふうな目的でありますね。

**塩竈** なるほど。同じような例えば仕事をしたりとかですね、取り組みをする中でも、その会社で仕事をしていてもそうなんですけども、その場所その場所によって言葉の言い回しというのが微妙に違ったりとか、同じ現象を表す言葉でもその慣例で使われている言葉の違いというのがありますけれども、この「くらしのシート」をめくっていきますと、それぞれ書かれる言葉というのも共有する1つの言葉に集約されていたりとか。

**長澤** はい、そうですね、できるだけ簡単に分かりやすくということで作らせてもらったということでもあります。

**塩竈** 医療機関それから介護機関などを受診する際に、生活の情報であったり、介護の情報、これまでの既往歴、こういったところを伝える

ための「くらしのシート」、これは本当に治療を行うスタッフにとっても重要な情報になるということですね。さらに、治療を受けた後に退院をする、医療機関から退院するその先には、家庭で看護していただいたりとか、それからまた介護施設に行ったりといろいろな状況があるわけですが、それらに連絡をするための「退院シート」、こういったものもできあがったそうですね。

**長澤** そうですね。従来は、看護サマリーという呼び方で、主に看護職の方々が入院中はこんなふうでしたよ、こういうふうなことでご病気と付き合っ、薬は少し増えましたとか、あるいは良くなりましたとかということ、同じ看護職同士でのやりとりということが基本だったわけですが、これをまた病院に全ての人に戻るということではないので、在宅に戻る場合もありますし、その病院からあるいはその施設に戻るということを考えますと、もう少し分かりやすい「くらしのシート」並みのことをプロの看護職の方々から情報を発していただけないかということ、皆さんからお知恵を頂戴した結果、この「退院シート」というものができ上がりました。

**塩竈** なるほど。この2つ、言わばその情報を共有していくためのシートというものができ上がったわけですが、まさに医療と介護の連携連絡会議という言葉にぴったりのふさわしい感じのものができ上がってきたということですね。これを作っていく中で、苦労されたことですか、これができることによって皆さんからどんな声が届いていたりしていますか。

**長澤** 苦労したことはあんまり無かったんですけど、むしろ病院の先生方、私は特に院長先生方とお話しをする機会があって、こういう事をやりたいんだけど、あるいは必要だと思うんだけどとお話をしますと、ほとんどすべての先生方が大賛成だと、ご賛同の声を頂戴したということで、みんなそのことをこういう連携、多職種での繋がりを求めているんだな、あるいは必要としている先生方、今そうい

う気持ちで医療に携わっているんだなということをとっても意を強くしたということをお覚えています。それからもうひとつは、多職種の方々からこれを作ったことによって、作る段階で多職種の方々のご意見を度々頂戴しました。それで、これがみんなのお知恵でこういうものを作って、これはそれで終わりではなくて、このことがこのシートを利用するご本人の方、あるいはその方に寄り添っている家族あるいは施設の方々等々、いろいろな職種の人達を含めてですね、一般の方々がとてもこれについてはご賛同を頂戴して、それで事務局のお話を聞きますと、ホームページの医療と介護のホームページのアクセスが、シートができ上がってからぐんと増えたと、年間7,000件近くのアksesに繋がってきたということですので、ずいぶんと反応、評価と言いますか、よろしいのではないかなというふうに思っております。

**塩竈** なるほど。先生から一番最初にもありましたけれども、限られた医療資源、それから介護資源の中で、それをこう効率的に動かしていくためのそういった情報共有という形ですね。医療・介護関係者の皆さんそれぞれの信頼関係を基にしてでき上がったマニュアル、さらにこれを市民の皆さんとまた一緒に活用していくという動きが大事になるわけですね。

**長澤** そこが一番の重要なポイントだろうというふうに思いますね。プロの連携、多職種の連携のみならず、それが何の目的かというところ、一般の方々がそのシートがあるために、暮らしやすいぞと、あるいはその生活、医療その連携のシームレスなどと言いますか、途切れない連携ができるぞ、この地域はということで、一般の方々が良かったなって、そこが最大の評価に繋がるだろうと思います。

**塩竈** 1年間にわたって、この「医療と介護の窓のコーナー」で様々な皆さんにご出演いただきまして、この一関市で取り組まれている医療それから介護のそれぞれのお仕事についてお話を伺ってきました。ラジオを聴いていらっしゃる皆さんもこれは専門の皆さんだけがそういう

ふうに取り組んでいるだっというのを傍から眺めているだけではなくて、自分自身にこうやって関わってくるものなんだってところをあらためて皆さんにも感じ取っていただけたらいいなというふうに思います。一関市のホームページ「一関市医療と介護の連携連絡会」このページに、今番組の中で長澤先生にご紹介いただきました「医療と介護の連携マニュアル」、それからその医療介護に携わっている方々、それから私たち市民を繋いでいく「くらしのシート」「退院シート」についても詳しくご紹介されていますので、ぜひご覧になっていただきたいと。さて、その信頼関係を図ることを目的に作ったこの連携マニュアルというのが今ここに誕生しました。これから先ですが、一関市医療と会議の連携連絡会、どういったところを目指していきましょうか。

**長澤** 先ほども申し上げましたように、どういうふうシートが役に立っていくかということ、それぞれ見極めていく必要があると思ひますし、このシートは現在皆さんの英知をいただいて作ったんですけども、まだパーフェクトっていうことではないと思ひますね。ですからいろいろこれはフィードバックをしていただいて、少しでも使いやすいようなシートに仕上げるということがひとつあるかと思ひます。それからもうひとつは再三出ております、医療資源の乏しいこの地域で、どういうふうにして、高齢者あるいは障害を持っている方々、あるいは困っている方々の連携のために役に立つか、そこを目的にして医療と介護の連携がどういうふうにもう少しこの地域に還元して、みんなの力をお手伝いできるような形にしていくかと。これは私見ですけども、一関市というところをひとつの括りとして今までは動いておりましたけれども、一関市は非常に広いんですね。ですからそこら辺が、地域地域で私のところはこういう資源が潤沢だけれども、こういうところが少し乏しくて困っているよということ、それぞれの地域の診断書みたいなものを出していただいて、そこにお手伝いできるところは、医療と介護の連携を少しずつ濃密に広げていくこと、それによって困っている地域のないように

というふうなことを今年には頑張ってみようかというふうにご考えております。

**塩竈** なるほど。この連絡会に関わっている皆さんたちの知恵、それから私たち市民の知識それから知恵、いろいろなものが集結することでこの地域の医療を支えていく、そういった流れになっていくということがこのコーナーから伝わってきました。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナー、これまでにご紹介しました放送内容などは、一関市のホームページ「一関市医療と介護の連携連絡会」このページで確認できますので、ぜひご覧になっていただければと思ひます。スタジオには、一関中央クリニックの院長、そして一関市医療と介護の連携連絡会幹事長の長澤茂先生にお越しいただきました。長澤先生、どうもありがとうございました。

**長澤** お世話になりました。ありがとうございます。

**塩竈** 一関では高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。地域医療体制の充実のため、私たちも積極的に関わっていきましょう。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」このコーナーは一関市健康づくり課の提供でお送りしました。